

## 資料名「明石工業高等専門学校における自己点検・評価の実施方針」(1/2)

## 明石工業高等専門学校における自己点検・評価の実施方針(案)

(平成 30 年 月 日 運営会議決定)

## 1 趣旨

国立高等専門学校は、職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するとともに、我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ることを目的としている。また、これまで蓄積してきた知的資産や技術的成果をもとに、生産現場における技術相談や共同研究など地域や産業界との連携への期待に応えることを求められている。

他方、高等専門学校は、学校教育法(平成 22 年法律第 26 号)第 109 条第 1 項により、その教育研究水準の向上に資するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備(次項において「教育研究等」という。)の状況について自ら点検及び評価(以下「自己点検・評価」という。)を行い、その結果を公表することが義務付けられている。そして、各学校は、その結果に基づいた改善を行うことが必要とされている。

本実施方針は、本校の実施する自己点検・評価の基本的な事項を定めるものである。

なお、教員活動に関する点検及び評価については、教育研究活動評価等委員会が実施する。また、外部評価については、外部評価実施要項に基づき実施する。

## 2 取りまとめ時期

自己点検・評価は、本校の活動内容に応じ、評価に基づく改善を実施する上で適切な時期に行うべきものであるが、高等専門学校は、自己点検・評価の措置に加え、当該学校の教育研究等の総合的な状況について、7年以内ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価(以下「認証評価」という。)を受けることが義務付けられている。(学校教育法第 109 条第 2 項、第 123 条及び学校教育法施行令第 40 条)

よって、本校は、基本的には、認証評価を受ける前々年度に自己点検・評価を取りまとめるものとする。

## 3 実施体制

本校は、将来計画・自己点検等委員会が中心になって、自己点検・評価を行う。

将来計画・自己点検等委員会は次回の自己点検・評価に向けて実施計画を作成する。

実施計画においては、高等専門学校機関別認証評価の「自己評価書」で定められている基準、視点及び観点の各項目を考慮して自己点検・評価の項目を定め、関係の学内委員会及び事務部において、必要なデータ及び情報を定期的かつ体系的に収集及び整理し、そして点検・評価を行い、情報共有がなされる体制を整える。

なお、将来計画・自己点検等委員会は、実施計画の進捗状況を定期的に確認するとともに、自己点検・評価活動の活用及び効率に配慮するものとする。

出典「平成 30 年度第 3 回企画会議資料」

## 資料名「明石工業高等専門学校における自己点検・評価の実施方針」(2/2)

## 4 自己点検・評価結果の公表

将来計画・自己点検等委員会は、自己点検・評価の結果に基づき、本校における自己点検・評価として取りまとめ、本校は、その性質上開示に適さないものを除き、これを公表するものとする。

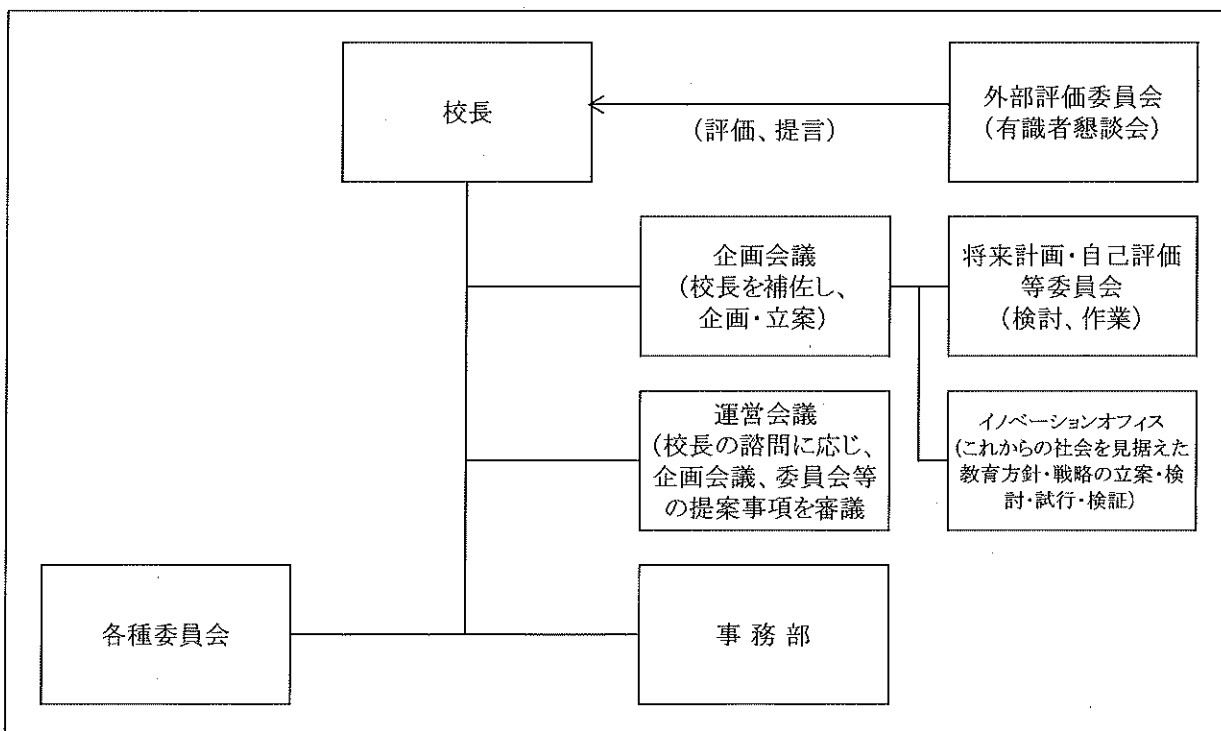
## 5 自己点検・評価結果に基づく改善

本校は、将来計画・自己点検等委員会が中心となって、内部質保証システム（自己点検・評価の結果を自己改善に繋げるためのシステム）としてPDC Aサイクルを運用し、本校の活動の改善を継続的に推進するものとする。

## 6 三つのポリシーの点検

本校は、教務委員会が、毎年度、社会の状況等の変化に応じて、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の内容を点検し、必要に応じて見直すものとする。

## 実施体制図



## 資料名「自己点検・評価の実施体制が分かる規程」

## 将来計画・自己点検等委員会規程

## (趣旨)

第1条 中期計画等の策定並びに自己点検及び自己評価（以下「自己点検等」という。）を行うため、将来計画・自己点検等委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 副校長（総務担当）、副校長（教育改革担当）
- (2) 教務主事、学生主事、寮務主事
- (3) 専攻科長
- (4) イノベーションオフィス長
- (5) 事務部長
- (6) 各課長
- (7) その他校長が指名する者

## (所掌事項)

第3条 委員会は、次に掲げる事項を検討する。

- (1) 中期計画等の策定に関する事。
- (2) 自己点検等の項目・実施に関する事。
- (3) 自己点検等の結果の活用の方策に関する事。
- (4) 教員の教育業績等の評価に関する事。
- (5) その他中期計画等の策定及び自己点検等の実施に関して必要な事項

## (委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、副校長（総務担当）をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長が指名する委員が、その職務を代行する。

## (意見の聴取)

第5条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴取することができる。

## (作業部会)

第6条 委員会は、必要があるときは、特定の事項について作業部会を設けることができる。

- 2 作業部会の組織及び運営に関し必要な事項は別に定める。

## (事務)

第7条 委員会の事務は、総務課において処理する。

## (雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

## 附 則

この規程は、平成4年11月4日から施行する。

(以下省略)

## 資料名「自己点検・評価の項目を決めた委員会議事要録」

## 平成 28 年度 第 1 回 将来計画・自己点検等委員会 議事要録

日 時 平成 28 年 4 月 13 日 (水) 午後 1 時 10 分～午後 1 時 25 分

場 所 校長室

出席者 江口忠臣、平石年弘、森下智博、加藤隆弘、堀桂太郎、神田佳一、鍋島康之  
飯島睦美、梶村好宏、境田彰芳、濱田幸弘、檀 和秀、工藤和美、  
渡邊悟司、中尾敏明、新居忠幸  
(欠席者) なし

## 〔議 事〕

## 1. 自己点検・評価報告書の作成について

江口副校長から、前回平成 23 年 3 月に発行した自己点検・評価報告書を本年度作成することについて説明があり、審議の結果、承認した。

作成する項目については、前回と同様とし、各委員は項目ごとのワーキンググループのチーフ又はサブチーフとして作業を分担する。各ワーキンググループのチーフは後日決定し、次回委員会で依頼する。ワーキンググループメンバーは各チーフで調整し決定する。

完成時期は、平成 29 年 3 月とする。なお、本校は平成 30 年度に機関別認証評価を受審することになっており、今回作成する自己点検・評価報告書を基にして、受審資料を作成することになる。

## 2. 明石高専年度計画について

江口副校長から、機構本部から平成 28 年度年度計画の策定及び平成 27 年度年度計画実績報告について依頼があったと報告があった。

については、4 月始めに関係事務担当に作成依頼を行っているので、各委員会及び学校施設で相談のうえ提出して欲しいと依頼があった。

次回委員会でとりまとめた年度計画、実績報告について審議する。

次回 平成 28 年 5 月 11 日 (水) 13:10～

## 〔資 料〕

- ・平成 23 年 自己点検・評価報告書作成ワーキンググループ名簿 (参考)
- ・平成 27 年度年度計画実績報告、平成 28 年度年度計画

## 資料名「自己点検・評価の基準・項目等がわかる資料」(1/5)

## 目 次

## まえがき

## I 目的・目標

1. 明石高専の沿革	1
2. 目的(教育目的, 教育目標等)	
2.1 明石工業高等専門学校の使命	1
2.2 教育活動等の基本的な方針、教育目標等	1
3. 教育の改善と自己点検・自己評価	
3.1 最近実施してきた主要な教育	8
3.2 自己点検・評価の実績	13
4. 明石高専の将来構想	
4.1 教育に関する事項	14
4.2 研究と社会連携に関する事項	14
4.3 グローバル化に関する事項	15
5. 優れた点及び改善を要する点	15

## II 教育体制と教員及び支援職員

1. 教育組織(実施体制)	
1.1 学科の構成	16
1.2 専攻科の構成	17
1.3 センターの構成	17
1.4 教育活動の運営体制	19
1.5 教育活動における教員間連携	20
1.6 教育活動のための支援体制	20
2. 教員及び教育支援者	
2.1 一般科目担当教員の配置	21
2.2 専門科目担当教員の配置	21
2.3 専攻科担当教員の配置	27
2.4 教員組織の活性化策	28
2.5 教員の採用及び昇任	29
2.6 教員の教育活動評価	29
2.7 教育支援者の配置	32
3. 優れた点及び改善を要する点	33

## 資料名「自己点検・評価の基準・項目等がわかる資料」(2/5)

## III 教育内容と方法

1. 準学士課程		
1.1 教育課程	.....	34
1.2 進級・卒業規程	.....	42
1.3 転科	.....	42
1.4 シラバス	.....	43
1.5 インターンシップ	.....	44
1.6 豊かな人間性の涵養	.....	45
2. 専攻科課程		
2.1 教育課程	.....	50
2.2 修了条件・評価と単位認定	.....	53
2.3 シラバス	.....	54
2.4 インターンシップ	.....	54
2.5 学習指導方法の工夫	.....	55
2.6 研究指導	.....	56
3. 優れた点及び改善を要する点	.....	59

## IV 教育の成果及び改善システム

1. 教育の成果		
1.1 養成する人材像とその達成状況の把握・評価方法	.....	60
1.2 進級率・卒業率・学位取得状況等からみた教育の成果	.....	61
1.3 就職・進学状況からみた教育の成果	.....	67
1.4 学生による学習達成度評価及び 授業アンケート結果からみた教育の成果	.....	71
1.5 卒業生及び進路先企業等のアンケート結果からみた教育の成果	.....	73
2. 教育の状況についての点検・評価・改善システム		
2.1 教育の状況の点検・評価の実施体制	.....	77
2.2 学生及び学外関係者の意見の自己点検・評価への反映	.....	79
2.3 学習達成度評価及び授業アンケート等の結果による教育の 質の向上と改善への取組	.....	84
2.4 教員の教育改善への取組	.....	85
2.5 研究活動による教育の質の改善	.....	90
3. 教員と教育支援者の資質向上のシステム		
3.1 FD（ファカルティ・ディベロップメント）の取組と成果	.....	93
3.2 教育支援者等の資質向上	.....	102
4. 優れた点及び改善を要する点	.....	106

## 資料名「自己点検・評価の基準・項目等がわかる資料」(3/5)

<b>V 学生の受入れ</b>	
1. 学生募集	
1.1 学生の募集方針	107
1.2 学生募集のための広報活動	108
2. 準学士課程入学者選抜	
2.1 選抜方法	109
2.2 学生定員の充足状況	110
3. 編入学者選抜	
4. 専攻科入学者選抜	
4.1 選抜方法	112
4.2 学生定員の充足状況	112
5. 優れた点及び改善を要する点	
114	
<b>VI 学生支援</b>	
1. 学習支援におけるガイダンス、相談、助言	
1.1 導入教育	115
1.2 ガイダンス	115
1.3 担任とロングホームルーム	116
1.4 オフィスアワー	116
1.5 学生相談室	116
2. 自主的学習環境及び福利厚生施設の状況	
2.1 自主的学習環境	117
2.2 福利厚生施設	120
2.3 コミュニティスペース	123
2.4 協同学習センター (Cooperative Learning center)	123
3. 学習支援に関する学生のニーズの状況	
123	
4. 各種資格試験及び海外留学の指導	
125	
5. 留学生、編入学生等に対する生活・学習支援	
5.1 留学生に対する生活・学習支援	127
5.2 編入学生	128
6. 障害をもつ学生に対する生活・学習支援	
6.1 キャンパスのバリアフリー化	128
6.2 発達障害を有する学生の対応	129
6.3 その他	129
7. 学生の課外活動に対する支援体制	
7.1 クラブ活動の実施状況と支援体制	130
7.2 リーダー研修会の実施状況	132

## 資料名「自己点検・評価の基準・項目等がわかる資料」(4/5)

7.3	ロボコン・プロコン・デザコン等への参加	133
7.4	学生会の活動状況	136
8.	学生の生活や経済面に係わる支援体制	
8.1	奨学金制度、授業料免除の状況	136
8.2	生活指導	139
8.3	健康管理と怪我等の災害発生	140
8.4	表彰	140
8.5	学生相談	144
9.	寮生活	
9.1	寮の目的と指導理念	145
9.2	寮の運営状況	145
9.3	寮生活の指導	148
9.4	寮定員の推移と寮室の充足率の推移	150
9.5	女子寮	152
9.6	寮施設と寮生の生活	152
9.7	留学生に対する配慮	153
9.8	寮生活改善に対する取組	153
10.	進路指導	
10.1	全学的な指導体制	154
10.2	学科としての取組	154
10.3	進路担当教員	154
10.4	就職の状況	155
10.5	進学状況	155
10.6	進路変更	155
11.	優れた点及び改善を要する点	156
<b>VII</b>	<b>研究状況及び学外への教育サービス</b>	
1.	研究体制とその支援体制	
1.1	研究に携わる教員等の配置状況	157
1.2	研究支援体制とその支援内容	161
1.3	共同研究等、他研究機関や地域社会との連携体制	163
2.	研究活動の成果	
2.1	地域社会との連携・協力の実績	163
2.2	特許取得、学会での論文発表、外部からの研究助成、 各種受賞状況	168
3.	研究活動を改善するための取組	171



## 資料名「自己点検・評価の基準・項目等がわかる資料」(5/5)

4. 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	
4.1 正規課程の学生以外に対する教育サービス	171
4.2 各教育サービスの目的	171
4.3 各教育サービスの計画策定	182
4.4 教育サービスの広報	182
5. 活動の成果の点検と改善のためのシステム	182
6. 優れた点及び改善を要する点	183

## VIII 管理運営等

1. 施設・設備	
1.1 施設・設備の現況	184
1.2 情報ネットワークの現況	188
1.3 図書館の現況	192
2. 財政	
2.1 収入	195
2.2 支出	196
2.3 資産の状況	199
2.4 監査	200
3. 管理運営	
3.1 トップマネジメントと委員会の役割	202
3.2 管理運営の委員会と事務組織	207
3.3 管理運営諸規則の整備状況	210
3.4 外部有識者の意見	210
3.5 点検・評価活動	212
3.6 広報活動	214
4. 優れた点及び改善を要する点	215

## あとがき

明石工業高等専門学校将来計画・自己点検等委員会委員名簿

自己点検・評価報告書作成ワーキンググループ名簿

## 資料名「根拠となるデータや資料の収集・蓄積状況がわかる資料」

## 教育活動の実態を示すデータや資料の収集・蓄積状況（平成25年度～平成29年度）

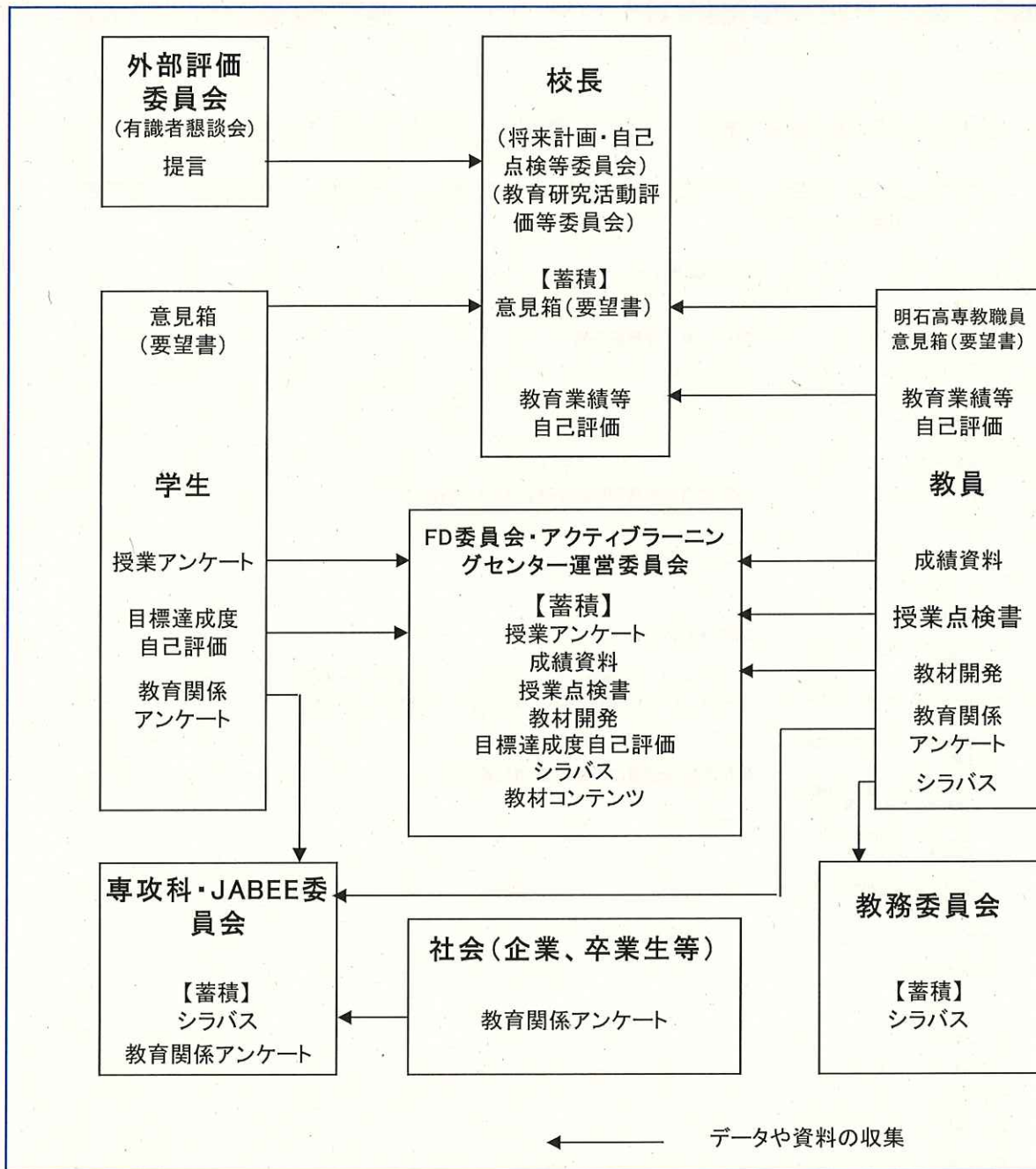
データ、資料名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	備考
授業アンケート (1～3年)	◎	—	◎	—	◎	オンライン
授業アンケート (4,5年)	◎	◎	◎	◎	◎	オンライン
授業アンケート (専攻科)	◎	◎	◎	◎	◎	オンライン
成績資料 (1～3年)	◎	◎	◎	◎	◎	
成績資料 (4,5年、専攻科)	◎	◎	◎	◎	◎	JABEE資料 を含む
授業点検書 (1～3年)	◎	◎	◎	◎	◎	
授業点検書 (4,5年、専攻科)	◎	◎	◎	◎	◎	
教育業績自己申告書	◎	◎	◎	◎	◎	
学生からの 「学校に対する要望書」	○	○	○	◎	◎	
学生の「学習教育目標達成度自己評価」	◎	◎	◎	◎	◎	
卒業時アンケート	◎	◎	◎	◎	◎	
修了時アンケート	—	—	—	—	◎	
卒業生・修了生へのアンケート	○ 専攻科のみ	—	—	—	◎	
進路先へのアンケート	○ 専攻科のみ	—	—	—	◎	

\* 授業アンケート(1～3年)は隔年実施、平成29年度より毎年度実施する。

\* 表中、◎は全部、○は一部 の実施を示す。

出典「自己点検・評価報告書(平成29年3月) P.79表4-2-1」に情報を追加して作成

資料名「データや資料の収集・蓄積の担当組織、責任体制がわかる資料」



注 FD委員会は、平成 30 年 4 月 1 日から、アクティブラーニングセンター運営委員会に改組された。

資料名「自己点検・評価報告書等、実施状況がわかる資料」

The screenshot shows a web browser window displaying the website of Akashi College of Technology. The browser's address bar shows the URL [www.akashi.ac.jp/guide/evaluation](http://www.akashi.ac.jp/guide/evaluation). The website header includes the college's name in Japanese and English, along with navigation links for various departments and services. The main content area is titled '点検評価活動' (Point Check and Evaluation Activities) and is organized into several sections:

- 自己点検・評価報告書** (Self-check and Evaluation Report):
  - 平成28年度
  - 平成22年度
  - 平成17年度
- 高等専門学校機関別認証評価 自己評価書** (Self-evaluation report for accreditation by higher vocational school institutions):
  - 平成23年度
  - 平成17年度
- 認証評価結果** (Accreditation Evaluation Results):
  - 平成23年度認証評価結果【PDF】(独立行政法人 大学評価・学位授与機構)
  - 平成17年度認証評価結果【PDF】(独立行政法人 大学評価・学位授与機構)
- 選択的評価事項に係る評価 自己評価書** (Self-evaluation report for selective evaluation items):
  - 平成23年度

The left sidebar contains a navigation menu with categories such as '学校案内' (School Information), '学科・専攻科' (Courses), '入試情報' (Admission Information), '学生生活' (Student Life), '就職・進学' (Career and Advancement), '教育・研究' (Education and Research), and '地域・国際連携' (Regional and International Cooperation). The '点検評価活動' section is currently selected.

出典「明石工業高等専門学校ホームページ/学校案内/点検評価活動」

資料名「教員の意見聴取の実施状況がわかる資料」

平成25年度											
学科名	設問に「はい」と回答した科目数の割合(%)										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	学生に本授業科目の学習・教育目標を十分理解させることが出来たか?	授業の冒頭でシラバスの内容を説明したか?	授業はシラバスの内容・順序どおりで実施できたか?	適切な教材を用いているか?	学生の授業中の反応をチェックしているか?	レポートや小試験を実施しているか?	成績評価はシラバスどおり行ったか?	成績評価の根拠となる資料は残しているか?	学生の興味や理解度を高めるために何か工夫をしているか?	学生からのアンケート結果を授業に反映させているか?	本授業科目の実施上で何か問題があるか?
一般科目	99%	99%	95%	100%	100%	95%	100%	100%	86%	60%	5%
機械工学科	88%	81%	87%	88%	88%	80%	88%	88%	71%	36%	10%
電気情報工学科	85%	86%	71%	86%	86%	72%	84%	85%	79%	31%	6%
都市システム工学科	95%	94%	95%	95%	95%	93%	95%	95%	90%	71%	6%
建築学科	85%	84%	82%	84%	84%	78%	85%	85%	70%	55%	0%
全学科	92%	91%	86%	92%	92%	85%	92%	92%	81%	51%	5%
平成26年度											
学科名	設問に「はい」と回答した科目数の割合(%)										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	学生に本授業科目の学習・教育目標を十分理解させることが出来たか?	授業の冒頭でシラバスの内容を説明したか?	授業はシラバスの内容・順序どおりで実施できたか?	適切な教材を用いているか?	学生の授業中の反応をチェックしているか?	レポートや小試験を実施しているか?	成績評価はシラバスどおり行ったか?	成績評価の根拠となる資料は残しているか?	学生の興味や理解度を高めるために何か工夫をしているか?	学生からのアンケート結果を授業に反映させているか?	本授業科目の実施上で何か問題があるか?
一般科目	98%	100%	86%	100%	100%	100%	100%	100%	88%	67%	6%
機械工学科	100%	86%	95%	100%	100%	91%	100%	100%	82%	41%	18%
電気情報工学科	100%	98%	91%	98%	100%	81%	100%	100%	95%	40%	5%
都市システム工学科	100%	100%	100%	100%	100%	96%	100%	100%	96%	58%	4%
建築学科	103%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	81%	77%	4%
全学科	100%	98%	93%	100%	100%	93%	100%	100%	90%	56%	6%
平成27年度											
学科名	設問に「はい」と回答した科目数の割合(%)										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	学生に本授業科目の学習・教育目標を十分理解させることが出来たか?	授業の冒頭でシラバスの内容を説明したか?	授業はシラバスの内容・順序どおりで実施できたか?	適切な教材を用いているか?	学生の授業中の反応をチェックしているか?	レポートや小試験を実施しているか?	成績評価はシラバスどおり行ったか?	成績評価の根拠となる資料は残しているか?	学生の興味や理解度を高めるために何か工夫をしているか?	学生からのアンケート結果を授業に反映させているか?	本授業科目の実施上で何か問題があるか?
一般科目	99%	98%	96%	99%	98%	99%	99%	99%	99%	84%	0%
機械工学科	100%	100%	100%	100%	100%	94%	100%	100%	100%	97%	0%
電気情報工学科	100%	97%	92%	97%	99%	77%	100%	100%	100%	96%	0%
都市システム工学科	98%	100%	100%	100%	100%	98%	100%	100%	100%	89%	0%
建築学科	100%	100%	97%	100%	100%	97%	100%	100%	100%	90%	0%
全学科	99%	99%	96%	99%	99%	93%	100%	100%	100%	89%	0%
平成28年度											
学科名	設問に「はい」と回答した科目数の割合(%)										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	学生に本授業科目の学習・教育目標を十分理解させることが出来たか?	授業の冒頭でシラバスの内容を説明したか?	授業はシラバスの内容・順序どおりで実施できたか?	適切な教材を用いているか?	学生の授業中の反応をチェックしているか?	レポートや小試験を実施しているか?	成績評価はシラバスどおり行ったか?	成績評価の根拠となる資料は残しているか?	学生の興味や理解度を高めるために何か工夫をしているか?	学生からのアンケート結果を授業に反映させているか?	本授業科目の実施上で何か問題があるか?
一般科目	93%	93%	90%	93%	93%	93%	93%	93%	93%	80%	5%
機械工学科	88%	88%	88%	88%	88%	81%	88%	88%	88%	81%	0%
電気情報工学科	92%	92%	75%	92%	92%	83%	92%	92%	92%	88%	0%
都市システム工学科	77%	77%	74%	74%	74%	71%	74%	74%	74%	71%	0%
建築学科	70%	70%	70%	70%	70%	70%	70%	70%	70%	70%	10%
全学科	85%	85%	80%	84%	84%	81%	84%	84%	84%	78%	3%
平成29年度											
学科名	設問に「はい」と回答した科目数の割合(%)										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	学生に本授業科目の学習・教育目標を十分理解させることが出来たか?	授業の冒頭でシラバスの内容を説明したか?	授業はシラバスの内容・順序どおりで実施できたか?	適切な教材を用いているか?	学生の授業中の反応をチェックしているか?	レポートや小試験を実施しているか?	成績評価はシラバスどおり行ったか?	成績評価の根拠となる資料は残しているか?	学生の興味や理解度を高めるために何か工夫をしているか?	学生からのアンケート結果を授業に反映させているか?	本授業科目の実施上で何か問題があるか?
一般科目	96%	96%	96%	96%	96%	96%	96%	96%	96%	76%	1%
機械工学科	91%	77%	91%	91%	91%	82%	91%	91%	91%	88%	0%
電気情報工学科	95%	95%	89%	93%	95%	82%	95%	95%	95%	87%	2%
都市システム工学科	97%	100%	96%	100%	96%	100%	100%	100%	100%	96%	0%
建築学科	100%	100%	97%	100%	100%	93%	100%	100%	100%	87%	0%
全学科	96%	94%	94%	96%	96%	92%	96%	96%	96%	84%	1%

出典「平成25～29年度の全科目の授業点検書」を集計して作成

## 資料名「教員・職員の見解内容がわかる資料(授業公開の結果)」

## 授業公開の結果

教務委員会 (FD 関係)

平成 29 年 7 月 26 日

開催日 平成 29 年 7 月 26 日 (水) 13:15~

開催場所 セミナールーム

## 議題

## 1. 授業公開の結果

・実施期間: 6/26 (月) ~ 6/30 (金)。

・参観者数 (のべ): 本校教員 26 人、保護者 63 人、中学校教員 0 人

日付	教員参加総数	保護者参加総数
6月27日(月)	10人	10人
6月28日(火)	5人	15人
6月29日(水)	4人	16人
6月30日(木)	3人	12人
7月1日(金)	4人	10人

(略)

## アンケート結果

参観者	日付	担当教員	自分の授業では実施しておらず、今後授業に取り入れたいと思ったこと	その他、お気づきの点
h.takeda	6月29日(木)	1限 材料力学Ⅲ M 森下 智博		
hamada	6月30日(金)	3限 数学Ⅲ G 高田 功		
marisita	6月27日(火)	2限 サイエンスⅡA G 武内 純洋		
s.henbo	6月27日(火)	1限 プログラミングⅡ E 奥村 紀之		
ishidayu	6月27日(火)	2限 サイエンスⅡA G 武内 純洋		
atakeoka	6月28日(水)	2限 熱力学Ⅰ M 原田 謙之		
ishidayu	6月28日(水)	2限 国語Ⅱ G 仁木 夏実		
atakeoka	6月28日(水)	3限 環境生物学 C 渡部 守義		
ishidayu	6月28日(水)	2限 電気回路Ⅱ E 大向 雅人		
ishidayu	6月28日(水)	3限 英語ⅡA G 水野 知津子		
ishidayu	6月30日(金)	1限 流体力学Ⅱ M 田中 統一		

資料名「教員・職員の意見聴取がわかる資料（研究授業の案内）」（1 / 1）

## FD委員会 研究授業

研修会「シラバスとは何か？ シラバスの役割と書き方について考えましょう」

日時：平成28年12月6日（火）13:30～

資料：資料1 [テキスト](#) (PDF形式)

資料2 [建築設計演習Ⅰシラバス\(見直し前/見直し後\)](#) (PDF形式)

資料3 [授業点検ワークシート](#) (Word形式)

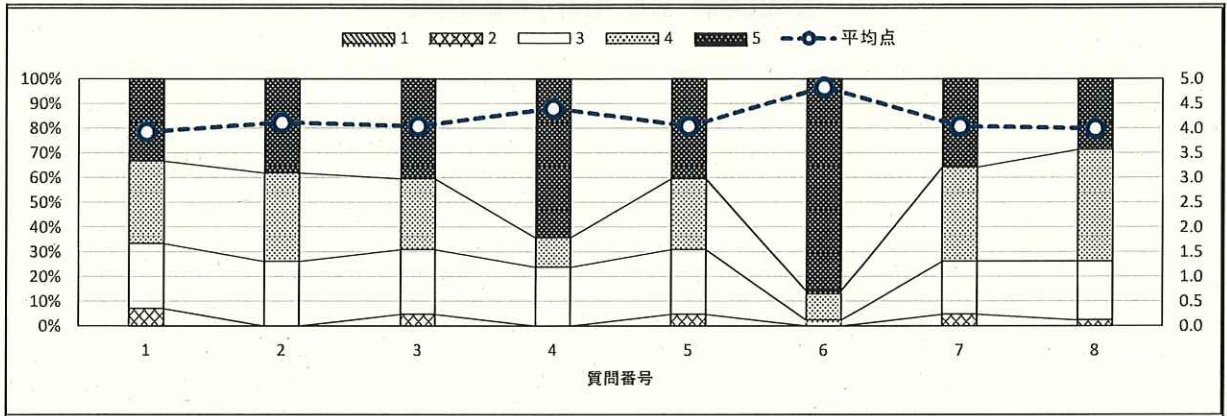
資料4 [作業用シラバス](#) (Word形式)

企画担当：建築学科 東野 アドリアナ准教授  
機械工学科 石田 百合子特命准教授

資料名「在学生の意見内容がわかる資料(授業アンケート集計表)」

平成29年度 学生による授業アンケート集計表(講義用)

クラス	■	科目名	■	教員名	■					
質問										
		←-良い-できた			普通		悪い-できない-→		回答数	平均
		5	4	3	2	1				
1	総合評価	14	14	11	3	0	42	3.93		
2	説明の仕方・黒板の使い方	16	15	11	0	0	42	4.12		
3	教科書や教材の選定	17	12	11	2	0	42	4.05		
4	学生の理解度の確認	27	5	10	0	0	42	4.40		
5	授業に興味を持てるような工夫	17	12	11	2	0	42	4.05		
6	シラバスどおりの授業	36	5	1	0	0	42	4.83		
7	授業の目標の理解	15	16	9	2	0	42	4.05		
8	授業の目標の達成	12	19	10	1	0	42	4.00		



9 この授業の良かった点(学生の自由記述)

- 1 様々な人と話す機会が設けられている点
- 2 面白く進められる
- 3 先生がとても親切に対応してくれた。
- 4 席順がランダムだったので、話す機会がない人とも話すことが出来た。
- 5 色々な人の意見が聞けて良かった。
- 6 授業は楽しいです。
- 7 主体的に考え、行動できるような授業とテーマで自ら調べることを楽しめる点。
- 8 自由に発言できた
- 9 自分の興味のあることについて調べることができたので楽しかったです。
- 10 自分の意見を発表する機会が多く設けられていたこと。

10 この授業をもっと良くするために必要と思うこと(学生の自由記述)

- 1 感想を書くのが授業時間を超えてしまうのでもう少し早く始めた方がいいと思います。
- 2 もう少し一度にしゃべる人数を増やした方がいいと思う。
- 3 いつも振り返りシートを書く時間がないので、早めに配ってほしい。
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10

【担当教員からの講評】

主体的に考え、行動することは、今後の高専生活を充実したものにするために必ず必要となることです。その意図を理解し、授業に臨んでくれたことをうれしく思います。授業の最後に、今日の振り返りについて、シートに記入してもらいましたが、指摘のとおり、時間が不足していたようです。次年度からは、早めに書き始められるようスケジュールリングを行いたいと思います。





資料名「在学生の意見内容がわかる資料（学校に対する要望書）」(2/2)

回答 29-5

掲 示

平成 29 年 6 月 1 日

学 校 長  
笠 井 秀 明

学生の皆さんからの「学校に対する要望書」について（回答 29-5）

提出された要望に対して、以下のとおり回答します。

整理No.	要 望 等	回 答
29-5-1	高専祭前日を午前授業にしてほしい。	以前から教職員も良い案がないか検討を続けています。今年度は偶然前日に教養行事を予定することができましたので活用してください。
29-5-2	クラスにおける担当係を見直ししてほしい。	雑務と思われることも教育に係る重要なことと担任は考えているのではないのでしょうか。担任へは丁寧に説明した上で話し合うよう伝えます。
29-5-3	空き時間の教室等の拘束を見直ししてほしい。	学修単位導入に伴って学力低下が懸念されるため3限や4限で授業が無いコマでは自ら学習してもらうこととしています。慣れるまでは動機付けが難しいかもしれませんが問題意識を持って自学自習をしてください。
29-5-4	情報処理センターのPCについて2クラス同時使用でも動作速度を上げてほしい。	OSの仕様により常時回線を使うため動作が重くなることもあるとの報告を受けました。情報担当者からは日々改善を行いますとのことですので、ご理解ください。
29-5-5	学修単位制で通年科目が半期になったためシラバス（エンジニアリング）に無理が生じている。	学修単位制の導入の前提として学習時間を自ら補うこととしています。多様なスキルを自学自習により習得してください。
29-5-6	5年前期の TOEIC 公開テストを4年前期にしてほしい。	公開テストは年3回（9月、1月、3月）に実施しています。
29-5-7	高専祭前日を午前授業にしてほしい。	以前から教職員も良い案がないか検討を続けています。今年度は偶然前日に教養行事を予定することができましたので活用してください。
29-5-8	授業変更についてメール等でも連絡してほしい。	現在、新システム導入（平成31年度）の検討を行っています。確約はできませんがメールによる授業変更の通知機能を開発部署へ要望します。

1/3

出展「明石高専イントラネット 学生の皆さんからの「学校に対する要望書」について（回答）」

## 資料名「卒業時の学生のアンケート結果集計表」(1/4)

## 卒業時アンケート集計(過去の結果との比較)

2018.3.20

設問 1	H25	H26	H27	H28	H29
あなたの性別について、該当するものを次から一つお選びください。					
1 男	86%	79%	84%	77%	83%
2 女	14%	19%	16%	21%	17%

設問 2	H25	H26	H27	H28	H29
卒業後の進路について、該当するものを次の中から一つお選びください。					
1 就職	31%	40%	32%	25%	32%
2 進学(専攻科)	21%	21%	21%	20%	12%
3 進学(大学)	45%	37%	43%	54%	51%
4 進学(専門学校等)	1%	0%	1%	1%	0%
5 その他	2%	2%	3%	1%	4%

設問 3	H25	H26	H27	H28	H29
就職される方にうかがいます。あなたが就職することを決めた理由について、該当するものを次の中からお選びください。(二つまで回答可)					
1 経済的に自立したかったら	49%	42%	39%	33%	30%
2 高専で十分な専門的知識を得られたから	10%	10%	2%	0%	6%
3 進学するよりも高専卒の方がよい就職先があるから	31%	40%	39%	55%	28%
4 進学するには成績が十分でなかったから	20%	18%	0%	25%	19%
5 勉強するよりも実際の仕事に関心があったから	49%	40%	41%	35%	51%
6 進学を考えたが就職して資格を取ることで同等と考えたから	2%	8%	0%	5%	4%
7 その他	2%	8%	8%	10%	4%

設問 4	H25	H26	H27	H28	H29
進学される方にうかがいます。あなたが進学することを決めた理由について、該当するものを次の中からお選びください。(二つまで回答可)					
1 入学時から進学を決めていたから	36%	38%	29%	26%	25%
2 進学してさらに専門的知識を深めたかったら	42%	49%	40%	41%	43%
3 進学した方が高専卒よりよい就職先があると考えたから	19%	14%	18%	14%	21%
4 進学するのにふさわしい能力が自身に備わっていると考えたから	4%	1%	4%	4%	4%
5 就職して実際の仕事に就くことがまだ早いと考えたから	29%	33%	38%	37%	33%
6 就職を考えたが第一希望のところに決まらなかったから	2%	1%	0%	0%	2%
7 博士や修士の学位取得を目標にしてきたから	6%	8%	6%	7%	9%
8 自分の回りの学生の多くが進学を希望していたから	1%	0%	0%	2%	2%
9 保護者や教員等に進学をつよく奨められたから	3%	3%	9%	5%	3%
10 学歴として高専卒で十分でないと考えたから	25%	19%	17%	20%	17%
11 その他	3%	9%	3%	3%	3%

資料名「卒業時の学生のアンケート結果集計表」(2/4)

設問 5 明石高専における教育に関して、あなた自身が特に身に付いたと考えているものを次の中から選びください。(五つまで回答可)	H25	H26	H27	H28	H29
1 専門科目の基礎力	75%	76%	72%	69%	65%
2 対人交渉力	10%	9%	5%	10%	9%
3 プレゼンテーション力	25%	36%	26%	28%	29%
4 コミュニケーション力	19%	23%	11%	16%	23%
5 創造力	11%	20%	15%	14%	14%
6 実践力	19%	21%	22%	17%	21%
7 協調性	21%	21%	20%	10%	16%
8 技術者倫理	17%	15%	16%	15%	18%
9 専門科目の応用力	12%	9%	11%	9%	10%
10 専門科目の基本技術	38%	42%	38%	40%	32%
11 人文社会系の一般教養	2%	3%	3%	1%	1%
12 自然科学系の一般教養	12%	13%	11%	5%	5%
13 英語力	6%	6%	7%	12%	10%
14 論理的思考力	19%	23%	19%	18%	18%
15 問題認識力	17%	25%	22%	15%	17%
16 問題解決力	12%	13%	19%	16%	14%
17 その他	1%	1%	1%	1%	0%

設問 6 明石高専における教育に関して、今後、教育内容の充実を図るべきと考えているものを次の中から選びください。(五つまで回答可)	H25	H26	H27	H28	H29
1 専門科目の基礎力	15%	9%	14%	13%	11%
2 対人交渉力	26%	33%	33%	32%	34%
3 プレゼンテーション力	36%	43%	35%	37%	35%
4 コミュニケーション力	43%	51%	53%	50%	40%
5 創造力	14%	17%	23%	17%	14%
6 実践力	20%	21%	13%	17%	13%
7 協調性	19%	23%	23%	22%	20%
8 技術者倫理	8%	6%	3%	7%	6%
9 専門科目の応用力	18%	13%	13%	21%	5%
10 専門科目の基本技術	10%	5%	7%	11%	6%
11 人文社会系の一般教養	7%	14%	5%	9%	7%
12 自然科学系の一般教養	4%	7%	4%	1%	4%
13 英語力	55%	63%	56%	37%	35%
14 論理的思考力	11%	11%	13%	10%	9%
15 問題認識力	9%	11%	12%	9%	15%
16 問題解決力	18%	20%	18%	15%	13%
17 その他	0%	1%	1%	0%	1%

## 資料名「卒業時の学生のアンケート結果集計表」(3/4)

設問 9	H25	H26	H27	H28	H29
卒業するまでをふりかえて、あなた自身の明石高専に対する総合的な評価について、該当するものを次の中から一つお選びください。					
1 大変満足している	49%	41%	34%	34%	46%
2 やや満足している	38%	47%	51%	47%	40%
3 どちらともいえない	11%	7%	10%	10%	9%
4 あまり満足していない	1%	4%	3%	1%	1%
5 まったく満足していない	1%	1%	1%	2%	0%
6 その他	0%	0%	1%	0%	1%

設問 7	
明石高専の教育内容、学校運営、施設設備等に関して、良かった点を自由に記述してください。	
<p>学習に集中できる環境であった</p> <p>レポート課題が充実していた点 (2件)</p> <p>進学の際に必要な基礎力が十分身につけていたことが分かった (学習プロセスが良くできていると思う)</p> <p>専門教育と一般教養のバランスがよかった。</p> <p>専門科目を早くから学ぶことができて良かった、専門科目の豊富 なところが良いと感じている (7件)</p> <p>先生が良かった。わからない時に、ていねいに教えているから だ。</p> <p>実習、実験 (2件)</p> <p>Co+は新しい試みで良かったと思う (2件)</p> <p>外部への現場見学などが多くあったこと</p> <p>高専祭</p> <p>課外活動が充実している、各種コンテストに出やすいこと (3 件)</p> <p>施設が充実していた、自由に施設を使えるのはよかった、施設の 利用時間が適当であった (5件)</p> <p>工場が自由に使えた、工場が使いやすいので実践的な能力が身に ついた (6件)</p> <p>実験室の道具など、申請すれば使用することができたこと</p> <p>Wi-Fiに接続できる、研究LANの無線インターネットが非常に高 速で利用しやすかった (3件)</p> <p>情報が多い、パソコンが自由に使える (5件)</p>	<p>グローバルテラス (2件)</p> <p>テニスコート</p> <p>図書館</p> <p>専門書が多くあること。</p> <p>TOEICの本が充実している。</p> <p>設計室</p> <p>ゼミ室</p> <p>CLCの利用、食堂の利用が気軽にできたこと。</p> <p>専攻科前の庭・畑 (2件)</p> <p>ピオトープ</p> <p>実験室、実験設備 (2件)</p> <p>静脈認証</p> <p>立地</p> <p>A1プリンター</p> <p>冷暖房の完備</p> <p>グラウンドがきれいだった、グラウンドの水はけ (2件)</p> <p>自由な校風、自己責任で何でもできる、規則が少ないところ (14 件)</p> <p>学生が学校の設備等を自由に使え、先生も学生のやりたいことに 協力的であったところ</p> <p>授業が少なくなって、時間の使い方が自由になった。</p> <p>就職しやすいこと</p> <p>受動的</p>

## 資料名「卒業時の学生のアンケート結果集計表」(4/4)

設問 8	
明石高専の教育内容、学校運営、施設設備等に関して、良くなかった点を自由に記述してください。	
<p>考えなくても覚えればできる内容は多かった</p> <p>英語教育方法など、Co+を全て英語で行うぐらいの勢いは必要 (2件)</p> <p>グローバル化と称した英語圏偏向化</p> <p>グローバル化に傾注しすぎて内部のことを充実させなかったら内 側からの反感をかうと思う</p> <p>テストの難易度</p> <p>課題多め</p> <p>教員の意識の差がはげしい</p> <p>評価が甘い、卒業研究が甘い(2件)</p> <p>教員不足</p> <p>各科目(特に専門)の授業時間数が少し少ないと感じるものがある</p> <p>学修単位</p> <p>アクティブラーニング、特にCo+(3件)</p> <p>講義内容が前後しているところがあった</p> <p>部活への配慮</p> <p>科目によって評価が異なる場所</p> <p>学生主事の力が強すぎる</p> <p>時間割効率が悪い</p> <p>予算</p> <p>研究費の運用の仕方などを学生側にもっと詳しくいうべき</p> <p>工場の使用方法などは機械科以外にも知らされてほしいと思った</p> <p>電気科以外の設備の使用法の案内があってもよかったと思う</p>	<p>学食が高い</p> <p>Wi-Fiが使えない研究室がある</p> <p>体育館がせまい、体育館の天井が低い(3件)</p> <p>コンビニが欲しかった</p> <p>グラウンドの照明、テニスコートのナイター設備(2件)</p> <p>ピアノや楽器などを自由に使えないこと</p> <p>20時までしか学校に入れない(2件)</p> <p>屋内の男子更衣室がない(2件)</p> <p>女子更衣室の空調</p> <p>校舎、寮、設備が古い(6件)</p> <p>教室、寮、トイレ、施設が清潔でない(7件)</p> <p>門が大きい</p> <p>グラウンドが狭い</p> <p>研究室が少ない(学生だけの研究室が欲しかった)</p> <p>部室が足りない</p> <p>設備が少ない</p> <p>寮の設備、A寮(2件)</p> <p>長期休暇に寮が閉まること。部活をしている人がめっちゃ大変</p> <p>福利施設にもっと力を入れてほしい</p> <p>寒い点、道場寒すぎた(2件)</p> <p>協調性のかけらも無いやつが多すぎる</p> <p>ほぼ全部</p> <p>融通が利かないことが多い</p>

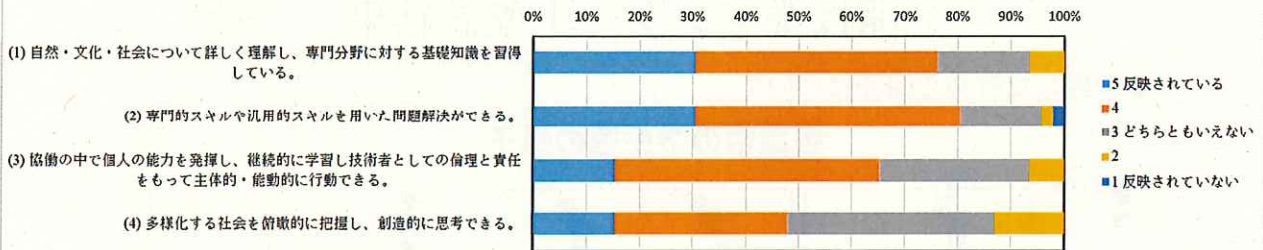
## 資料名「卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生のアンケート結果集計表」

## 明石高専のディプロマ・ポリシー、学習・教育目標に関する卒業生アンケート

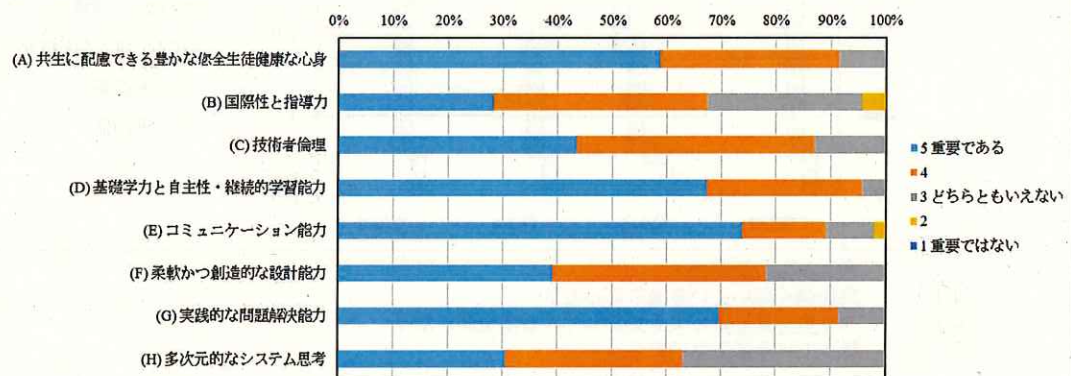
調査対象：平成 24 年度、平成 25 年度卒業生（315 人）

回収率 14.6%

ディプロマ・ポリシーについて高専で受けた授業・カリキュラムにどれだけ反映されていたかを5段階で評価してください。



明石高専の学習・教育目標の重要度を5段階で評価してください。



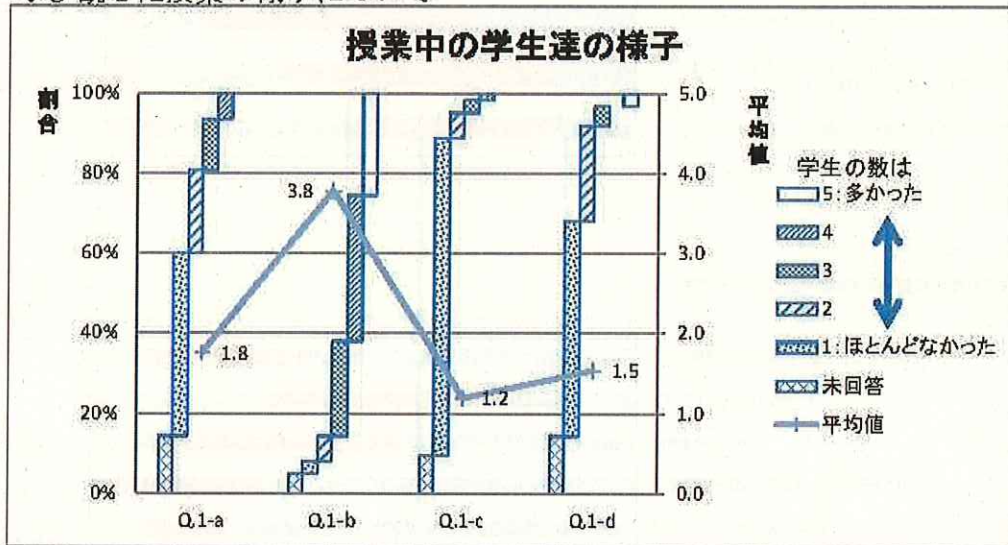
出展「ディプロマ・ポリシー及び学習・教育目標に関するアンケート（平成 30 年 2 月実施）  
集計結果（学科卒業生）」

資料名「保護者の意見内容がわかる資料（授業公開の結果）」（1/2）

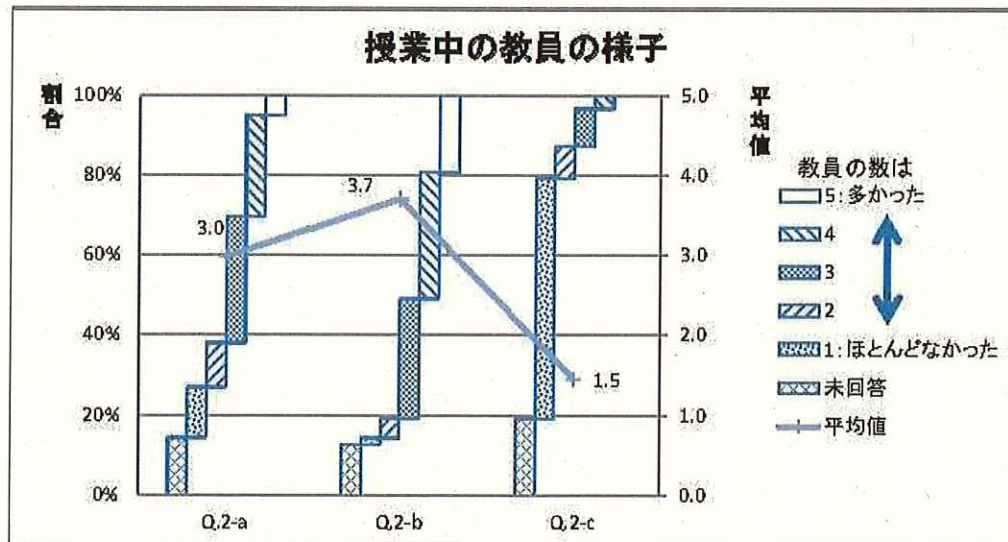
## 公開授業アンケート集計結果 資料1

実施期間 平成29年6月26日～30日

### ◆参観した授業の様子について



- Q.1-a 学生からの質問は？
- Q.1-b 興味深く聞いている様子だった？
- Q.1-c スマホを見るなど上そ見をしている学生がいた？
- Q.1-d 眠っている学生がいた？



- Q.2-a 質問を促していた？
- Q.2-b 興味を持たせる工夫をしていた？
- Q.2-c 授業とは関係のない事をしている学生に注意をしていた？

出典「平成29年10月教員会資料」



資料名「保護者の意見内容がわかる資料（授業公開の結果）」（2/2）

## 公開授業アンケート集計結果

### ◆自由記述

#### 授業中の学生達の様子について気づいたこと。

- ・みんなきちんと授業を受けていましたが、わかっている子とそうでない子の差が大きいと感じました。
- ・自主的に学ぼうとする学生もいれば、ただじっと聴いているだけの学生もいた。
- ・昼食後の時間帯のせいか眠っている学生が多かった。
- ・思ったより意欲的に聞いている感じでした。笑い声もあって授業も楽しそうでした。

#### 授業の工夫点などについて気づいたこと。

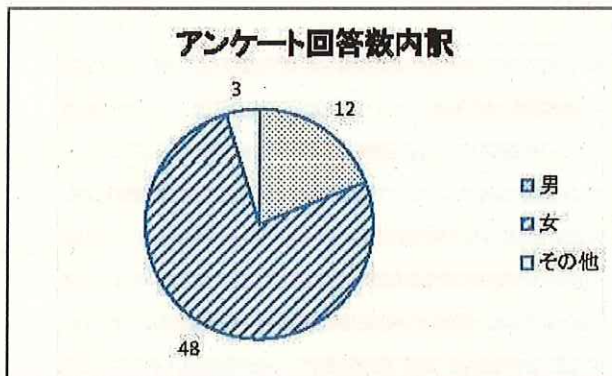
- ・生徒の質問に丁寧に答えてくださっていること。毎回の小テストで確認してくださっていること。動画で解説してくださっていることがとても良いと思います。
- ・全て英語での授業でした。とてもわかりやすく親切に話されていました。
- ・グループに分けて討議することで各自が集中している様子であった。
- ・説明と学生に考えさせる時間の配分に隙がないように感じました。

#### その他、気づいたこと。

- ・空き教室は鍵を掛ける等した方が良いのではないかと思います。
- ・保護者懇談会の日に参観させていただきありがとうございました。頑張っている子供の様子を覗かれて嬉しかったです。感謝しております。
- ・英語の学力が普通科に比べて伸びているのか気になる。
- ・授業等に関しては特にありませんが、窓があまりに汚くて蜘蛛の巣だらけのところがあり少し授業を見て回っただけでも2カ所あり、衛生的にどうかと思います。

### ◆アンケート回答数

63



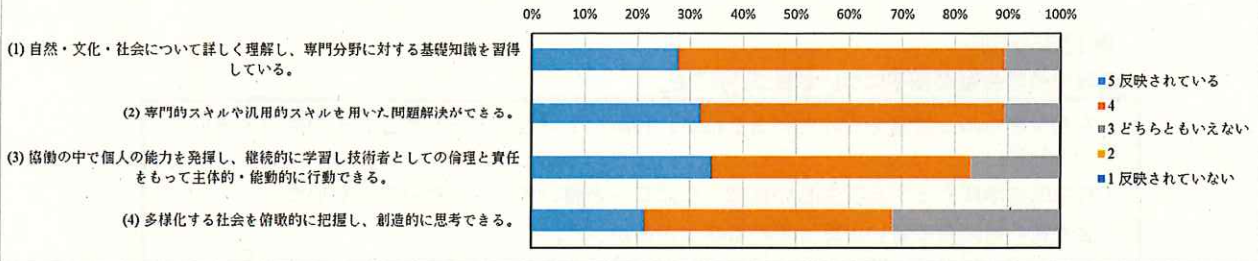
出典「平成 29 年 10 月教員会資料」

資料名「就職・進学先関係者のアンケート結果集計表」

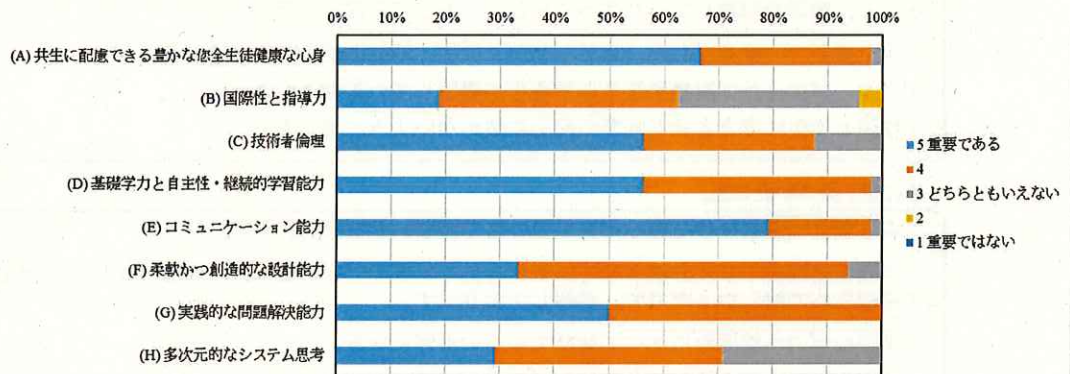
明石高専のディプロマ・ポリシー、学習・教育目標に関する進路先アンケート

対象：平成24年度、平成25年度卒業生の就職先企業関係者（134件） 回収率 35.8%

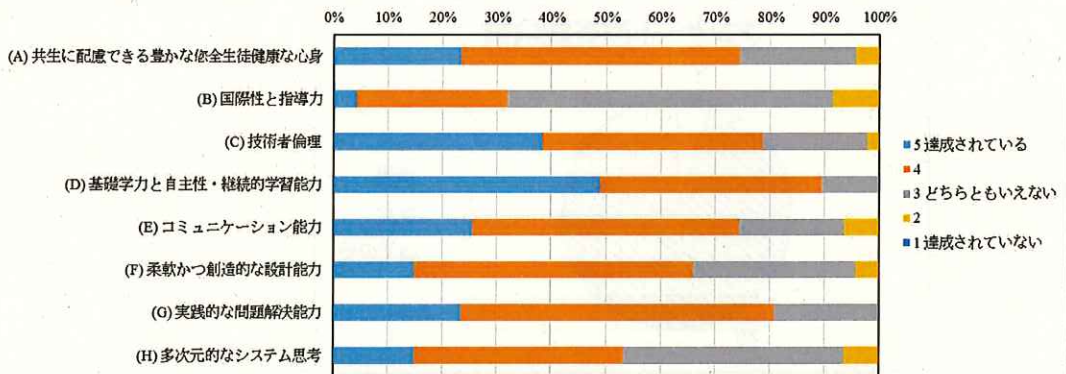
ディプロマ・ポリシーについて高専で受けた授業・カリキュラムにどれだけ反映されていたかを5段階で評価してください。



明石高専の学習・教育目標の重要度を5段階で評価してください。



明石高専卒業生の学習・教育目標の達成度を5段階で評価してください。



出展「ディプロマ・ポリシー及び学習・教育目標に関するアンケート（平成30年2月実施）  
集計結果（学科就職先）」

資料名「保護者及び就職・進学先関係者の意見内容がわかる資料」

明石高専 HP

明石高専 熟議DAYが開催されました。

2015.06.19

6月14日(日)本校 学生食堂において「熟議DAY」が開催されました。熟議とは、多くの当事者(保護者、教員、地域住民等)が集まって課題について学習・熟慮し、討議をすることにより、互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに解決策が協議され、皆々人が納得して自分の役割を果たすようになることをめざした。より深い議論の場をさしませます。当日は、熟議による意見交換や学校づくりをされている鈴木 寛文(経済学大副学長、国立高専専門学校機構小沼理事長やシニアサポーターの方々にも参加していただいた中で、明石高専学生・教職員・明石高専の活動にご協力いただいている学外者の方々よりなる60名が、「明石高専の可能性」について6時間にわたって熟議を繰り広げました。

今回の「熟議」で提案された内容や、参加していただいた方々のご意見を基に、明石高専の将来への可能性の実現に向けて議論を深めていきます。

「明石高専 熟議DAY」の詳細は以下をご覧ください。  
明石高専 熟議DAY News Letter



◀ 前の記事へ 次の記事へ ▶

熟議 DAY News Letter



■ 鈴木寛文先生より  
高専は教育で注目されています。その中で大日本を担っていくべき多くの、最優秀の卒業生が輩出される。OFCDは高専の教育システムを評価している。明石高専にはさらなる高みを目指していただきたい。でも、今日はフレッシュな感性をぶつけよう!!

■ グループ名をきまめよう  
今日は全員10チームでした  
グループ名  
グループ名  
グループ名  
グループ名  
グループ名  
グループ名  
グループ名  
グループ名  
グループ名  
グループ名

■ いまの明石高専でどんな感じ??  
あっちがいい! : 5  
まんな方がいい! : 30  
こっちがいい! : 20  
どちらでもない! : 6  
その他 : 10

■ 事前課題から(一部抜粋)  
● 意見  
小中学生と対面した講演が音頭に行われた。...  
● 期待  
学生が自分のペースで学べればよいと思う。...  
● 感想  
明石高専の学生が、学校のことばかり知らないと感じた。...  
● 感想  
明石高専の学生が、学校のことばかり知らないと感じた。...



■ 午前のワークでこんなキーワードが出ました!  
8つのキーワード  
1. 地域貢献  
2. 学生が自由に学べる環境  
3. 卒業生が活躍できる場  
4. 学生が主体的に学べる環境  
5. 学生が主体的に学べる環境  
6. 学生が主体的に学べる環境  
7. 学生が主体的に学べる環境  
8. 学生が主体的に学べる環境

■ 今日のアイデアからこんなキャッチコピーが!  
DHCは国産の...  
卒業生が活躍できる場...  
卒業生が活躍できる場...  
卒業生が活躍できる場...  
卒業生が活躍できる場...  
卒業生が活躍できる場...  
卒業生が活躍できる場...  
卒業生が活躍できる場...

■ いまの明石高専の良ところ、悪いところ  
みんなが楽しんでいる  
みんなが楽しんでいる  
みんなが楽しんでいる  
みんなが楽しんでいる  
みんなが楽しんでいる  
みんなが楽しんでいる  
みんなが楽しんでいる  
みんなが楽しんでいる

■ チームごとにアイデアを出してみました!  
みんなが楽しんでいる  
みんなが楽しんでいる  
みんなが楽しんでいる  
みんなが楽しんでいる  
みんなが楽しんでいる  
みんなが楽しんでいる  
みんなが楽しんでいる  
みんなが楽しんでいる

■ 最後に  
五十嵐サポーターのコメント  
高専は教育で注目されています。その中で大日本を担っていくべき多くの、最優秀の卒業生が輩出される。OFCDは高専の教育システムを評価している。明石高専にはさらなる高みを目指していただきたい。でも、今日はフレッシュな感性をぶつけよう!!



出展「明石高専ホームページ 熟議 DAY)」

## 資料名「自己点検・評価報告書（平成29年3月）p.72～107」（1/36）

## IV 教育の成果及び改善システム

## 1.4 学生による学習達成度評価及び授業アンケート結果からみた教育の成果

学生による学習目標の設定及び達成度評価としては、平成23年度分は「学習目標達成度自己評価シート」を用いて、定期試験ごとに達成度を評価している。平成24年度より明石高专eラーニングポータルであるmoodleを用いて「学習・教育目標の達成度自己評価」に関して後期に調査を行っている。これにより、学生は各学習目標に対する達成度を自ら評価し、その結果を次年度以降の目標設定及び学習方法の改善に反映させている。平成23～27年度までの準学士課程高学年及び専攻科課程における評価結果を集計したものを表4-1-11に示す。

表4-1-11 学生による学習・教育目標の達成度評価結果（抜粋）

平成23年度

学習目標	準学士課程				専攻科課程			
	第4学年		第5学年		第1学年		第2学年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身	1.59	1.44	1.50	1.49	1.87	1.97	1.60	1.82
(B)国際性と指導力	1.29	1.13	1.21	1.28	1.60	1.82	1.25	1.65
(C)技術者倫理	1.34	1.26	1.25	1.37	1.76	1.89	1.69	1.92
(D)基礎学力と自主的・継続的学習能力	1.43	1.23	1.41	1.46	1.84	1.84	1.66	1.76
(E)コミュニケーション能力	1.27	1.35	1.16	1.38	1.67	1.73	1.44	1.77
(F)柔軟かつ創造的な設計能力	1.46	1.25	1.29	1.42	1.80	1.93	1.53	1.85
(G)実践的な問題解決能力	1.43	1.27	1.43	1.46	1.82	1.80	1.63	1.96
(H)多角的なシステム思考	1.35	1.28	1.22	1.36	1.82	1.93	1.57	1.81

評価点：十分達成できた(2点)、普通(1点)、達成できなかった(0点)

平成24年度

学習目標	準学士課程		専攻科課程	
	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年
(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身	3.87	3.76	4.16	4.23
(B)国際性と指導力	3.57	3.96	4.16	4.06
(C)技術者倫理	3.76	3.96	4.18	4.22
(D)基礎学力と自主的・継続的学習能力	3.65	3.83	3.97	4.17
(E)コミュニケーション能力	3.76	3.95	4.14	4.18
(F)柔軟かつ創造的な設計能力	3.77	3.87	4.30	4.23
(G)実践的な問題解決能力	3.77	3.92	4.34	4.35
(H)多角的なシステム思考	3.72	3.91	4.37	4.28

評価：十分達成できた(5)、ある程度達成できた(4)、普通(3)、あまり達成できなかった(2)、達成できなかった(1)

## 資料名「自己点検・評価報告書（平成29年3月）p.72～107」（2/36）

## IV 教育の成果及び改善システム

平成25年度

学習目標	準学士課程		専攻科課程	
	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年
(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身	3.94	3.77	4.19	4.31
(B)国際性と指導力	3.51	4.02	3.93	4.20
(C)技術者倫理	3.79	4.02	4.19	4.37
(D)基礎学力と自主的・継続的学習能力	3.71	3.94	4.12	4.36
(E)コミュニケーション能力	3.78	3.97	4.04	4.37
(F)柔軟かつ創造的な設計能力	3.65	3.86	4.23	4.41
(G)実践的な問題解決能力	3.66	3.94	4.12	4.47
(H)多角的なシステム思考	3.54	3.93	4.12	4.36

評価：十分達成できた(5)、ある程度達成できた(4)、普通(3)、あまり達成できなかった(2)、達成できなかった(1)

平成26年度

学習目標	準学士課程		専攻科課程	
	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年
(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身	3.74	3.46	4.52	4.24
(B)国際性と指導力	3.46	3.69	4.26	3.99
(C)技術者倫理	3.63	3.69	4.46	4.17
(D)基礎学力と自主的・継続的学習能力	3.59	3.80	3.97	4.27
(E)コミュニケーション能力	3.57	3.67	4.47	4.10
(F)柔軟かつ創造的な設計能力	3.62	3.50	4.41	4.14
(G)実践的な問題解決能力	3.65	3.57	4.46	4.21
(H)多角的なシステム思考	3.56	3.62	4.36	3.80

評価：十分達成できた(5)、ある程度達成できた(4)、普通(3)、あまり達成できなかった(2)、達成できなかった(1)

平成27年度

学習目標	準学士課程		専攻科課程	
	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年
(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身	3.61	3.50	4.04	4.52
(B)国際性と指導力	3.40	3.78	4.00	3.35
(C)技術者倫理	3.65	3.78	4.42	4.49
(D)基礎学力と自主的・継続的学習能力	3.56	3.59	4.00	3.93
(E)コミュニケーション能力	3.63	3.60	4.21	3.83
(F)柔軟かつ創造的な設計能力	3.46	3.63	4.29	3.79
(G)実践的な問題解決能力	3.63	3.70	3.96	4.12
(H)多角的なシステム思考	3.37	3.62	4.25	4.16

評価：十分達成できた(5)、ある程度達成できた(4)、普通(3)、あまり達成できなかった(2)、達成できなかった(1)

## 資料名「自己点検・評価報告書（平成 29 年 3 月）p.72~107」（3/36）

## IV 教育の成果及び改善システム

学生による授業アンケートは、準学士課程では平成 8 年度から、専攻科課程では平成 12 年度から実施しており、その中で学習の達成度に関する項目は表 4-1-12 のようである。平成 23~27 年度の結果について、学年ごとの評価点の平均値をまとめたものを表 4-1-13 に示す。

表 4-1-12 学習の達成度に関する授業アンケート項目（抜粋）

準学士課程	B. 自分の目標を達成できましたか。	5	4	3	2	1
		十分達成できた		普通		殆ど達成できなかった
専攻科課程	2. あなたは授業のねらい〔学習目標〕をどの程度達成していますか。	5	4	3	2	1
		十分達成している		達成している		ほとんど達成していない

表 4-1-13 学習の達成度に関する授業アンケート結果（抜粋）

	学年	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
準学士課程	1	3.76	/	3.71	/	3.71
	2	3.57	/	3.62	/	3.64
	3	3.68	3.22	3.76	3.51	3.81
	4	3.60	3.88	3.76	3.62	3.71
	5	4.07	3.94	4.06	3.78	3.80
専攻科課程	1	4.06	4.12	3.91	4.16	4.05
	2	3.76	4.14	4.37	3.99	4.31

学生による学習目標の達成度評価では、表 4-1-11 の学習・教育目標「(A) 共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身」を除く(B)~(D)において、学年が高くなるにつれて評価点が上昇する傾向にある。

学生が授業科目ごとに設定した学習目標に対する達成度については、表 4-1-13 の授業アンケート集計結果に見られるように、準学士課程及び専攻科課程ともに、5段階評価で 3.2 以上の評価（達成度）を示している。

### 1.5 卒業生及び進路先企業等のアンケート結果からみた教育の成果

卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取する取組は、アンケート調査を中心に実施している。ここでは、平成 26 年 2 月に実施した、専攻科修了生、専攻科修了生の進路先企業及び大学院を対象とした、明石高専の教育目的、学習・教育目標に関するアンケート調査の結果を示す。修了生、企業、大学院からそれぞれ 33、13、17 の回答を得た。下の 4 つの表の数値は回答数を全体に対するパーセントで表したものである。

表 4-1-14 は教育目的の反映度合をまとめたもので、修了生には明石高専の教育目的が授業やカリキュラムにどれほど反映されているかを尋ねた。企業と大学院には明石高専の教育目的が修了生に進路先でどれほど反映されているかを尋ねた。

表 4-1-15 は学習・教育目標の重要度をまとめたものである。表 4-1-16 は修了生の進路先による専攻科修了生の学習・教育目標の達成度評価を、表 4-1-17 は専攻科修了生の総合評価をまと

## 資料名「自己点検・評価報告書（平成 29 年 3 月）p.72～107」（4/36）

## IV 教育の成果及び改善システム

めたものである。

表 4-1-14 教育目的の反映度合（％）

対象者	教育目的	明石高専の教育目的の反映度合				
		反映されて いる	どちらかといえ ば反映されてい る	どちらとも いえない	どちらかといえ ば反映されてい ない	反映されて いない
修了生	健康な心身と豊かな人間性	21	42	33	3	0
	柔軟な問題解決能力	30	45	18	3	3
	実践的な技術力	45	36	18	0	0
	豊かな国際性と指導力	6	15	58	16	6
企業	健康な心身と豊かな人間性	25	58	17	0	0
	柔軟な問題解決能力	8	67	25	0	0
	実践的な技術力	25	33	42	0	0
	豊かな国際性と指導力	8	17	58	17	0
大学院	健康な心身と豊かな人間性	35	53	6	6	0
	柔軟な問題解決能力	23	41	29	6	0
	実践的な技術力	63	25	6	0	6
	豊かな国際性と指導力	6	21	53	6	12

表 4-1-15 学習・教育目標の重要度（％）

対象者	学習・教育目標	明石高専の学習・教育目標の重要度				
		重要である	どちらかといえ ば重要である	どちらとも いえない	どちらかといえ ば重要でない	重要でない
修了生	豊かな人間性と健康な心身	47	41	13	0	0
	国際性と指導力	36	36	15	12	0
	技術者倫理	52	39	9	0	0
	基礎学力と自主的・継続的学習能力	72	25	3	0	0
	コミュニケーション能力	64	18	18	0	0
	柔軟かつ創造的な設計能力	39	45	12	3	0
	実践的な問題解決能力	61	33	3	3	0
	多角的なシステム思考	36	39	21	3	0
企業	豊かな人間性と健康な心身	77	23	0	0	0
	国際性と指導力	8	46	46	0	0
	技術者倫理	15	54	31	0	0
	基礎学力と自主的・継続的学習能力	75	25	0	0	0
	コミュニケーション能力	85	15	0	0	0
	柔軟かつ創造的な設計能力	46	46	8	0	0
	実践的な問題解決能力	54	23	23	0	0

## 資料名「自己点検・評価報告書（平成 29 年 3 月）p.72～107」（5/36）

## IV 教育の成果及び改善システム

	多次元的なシステム思考	16	38	46	0	0
大学院	豊かな人間性と健康な心身	65	35	0	0	0
	国際性と指導力	29	53	12	6	0
	技術者倫理	71	29	0	0	0
	基礎学力と自主的・継続的学習能力	82	18	0	0	0
	コミュニケーション能力	59	41	0	0	0
	柔軟かつ創造的な設計能力	53	41	6	0	0
	実践的な問題解決能力	59	41	0	0	0
	多次元的なシステム思考	47	35	18	0	0

表 4-1-16 専攻科修了生の学習・教育目標の達成度（%）

対象者	学習・教育目標	専攻科修了生の学習・教育目標の達成度				
		十分に達成された	達成された	概ね達成された	達成は不十分である	ほとんど達成されていない
企業	豊かな人間性と健康な心身	18	45	27	0	9
	国際性と指導力	0	9	55	27	9
	技術者倫理	0	45	45	0	9
	基礎学力と自主的・継続的学習能力	18	45	36	0	0
	コミュニケーション能力	0	27	64	0	9
	柔軟かつ創造的な設計能力	0	45	45	9	0
	実践的な問題解決能力	9	45	36	0	9
	多次元的なシステム思考	9	18	55	18	0
大学院	豊かな人間性と健康な心身	29	47	18	6	0
	国際性と指導力	6	24	58	12	6
	技術者倫理	12	71	18	0	0
	基礎学力と自主的・継続的学習能力	21	59	12	0	6
	コミュニケーション能力	18	47	29	6	0
	柔軟かつ創造的な設計能力	24	41	29	0	6
	実践的な問題解決能力	47	29	18	6	0
	多次元的なシステム思考	0	41	53	0	6

表 4-1-17 専攻科修了生の進路先の総合評価（%）

対象者	大変よい	よい	普通	もう少し努力してほしい	もっと高専で学習・教育を必要とする
企業	31	46	23	0	0
大学院	33	47	13	0	7



## IV 教育の成果及び改善システム

表 4-1-14 より、教育目的の「健康な心身と豊かな人間性」、「柔軟な問題解決能力」及び「実践的な技術力」に関しては、修了生、企業、大学院とも 58%～88%が「反映されている」または「どちらかといえば反映されている」としている。一方、教育目的の「豊かな国際性と指導力」に関しては、「反映されている」または「どちらかといえば反映されている」とした数が修了生、企業、大学院でそれぞれ 21%、25%、30%であり、改善が望まれる。

表 4-1-15 より、8つの学習・教育目標に対し、「重要である」または「どちらかといえば重要である」とした数が、修了生では 72%～97%、企業では 53%～100%、大学院では 82%～100%である。企業において小さい数値であったのは、「国際性と指導力」の 54%と「多次元的なシステム思考」の 53%である。「基礎学力と自主的・継続的学習能力」と「コミュニケーション能力」については、100%の企業と大学が「重要である」または「どちらかといえば重要である」と回答しており、進路先でこの2項目が重要視されていることが分かる。

表 4-1-16 より、8つの学習・教育目標に対し、「十分に達成された」、「達成された」または「概ね達成された」とした数が、企業では 64%～100%、大学院では 82%～100%である。「国際性と指導力」に対し、企業の 64%が「十分に達成された」、「達成された」または「概ね達成された」と回答したことを除くと、いずれの学習・教育目標も、企業と大学院で 82%以上が「概ね達成された」あるいはそれ以上と回答している。

表 4-1-17 より、専攻科修了生の進路先の総合評価について、「大変よい」または「よい」と回答した数が、企業では 77%、大学院では 80%である。

上の4つの表を総括すると、修了生、進路先企業及び進路先大学院のアンケート結果から、本校の教育の成果は 80%程度達成されているといえる。ただし、教育目的の「豊かな国際性と指導力」をカリキュラムにより強く反映させることが必要である。それにより、表 4-1-16 において進路先企業から修了生の「国際性と指導力」の達成度がより高く評価され、表 4-1-17 の総合評価も上がることが期待される。

IV 教育の成果及び改善システム

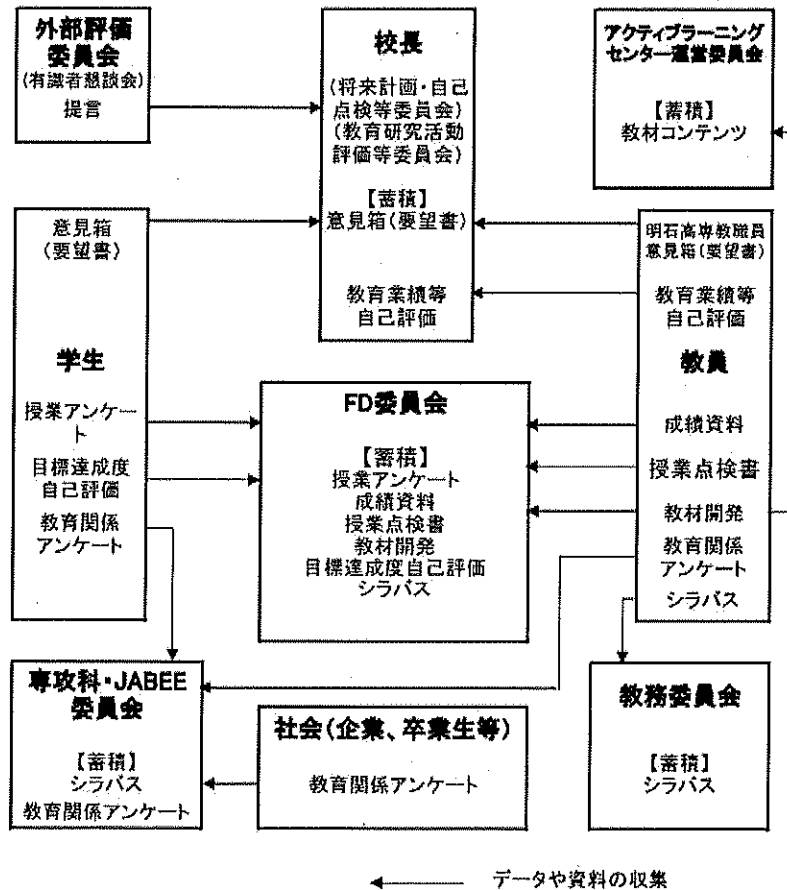
2. 教育の状況についての点検・評価・改善システム

2.1 教育の状況の点検・評価の実施体制

教育活動に関するデータや資料の収集・蓄積は、FD委員会を中心とし、一部を校長およびアクティブラーニングセンター運営委員会が担当している（図4-2-1）。FD委員会では、教員から授業点検書及び教材開発の申告等を取集し、学生からは授業アンケート、目標達成度自己評価等を取集している（表4-2-1）。

校長は、教職員から「明石高专教職員意見箱」、学生からは「意見箱」により意見・要望を受けている。さらに平成18年度から有識者懇談会から報告書（提言）（資料4-2-1）を受けている。取集された資料・データは、FD委員会のみならず将来計画・自己点検等委員会、教育研究活動評価等委員会、教務委員会、専攻科・JABEE委員会等で審議・評価し、教育の改善に反映させている。

図4-2-1 収集・蓄積等の実施体制



## 資料名「自己点検・評価報告書（平成29年3月）p.72～107」（8/36）

## IV 教育の成果及び改善システム

表4-2-1 教育活動の実態を示すデータや資料の収集・蓄積状況（平成23年度～平成27年度）

年度 データ、資料名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	備考
授業アンケート (1～3年)	◎	◎	◎	—	◎	オンライン
授業アンケート (4～5年)	◎	◎	◎	◎	◎	オンライン
授業アンケート (専攻科)	◎	◎	◎	◎	◎	オンライン
成績資料 (4,5年、専攻科1,2年)	◎	◎	◎	◎	◎	JABEE資料を 含む
成績資料 (1～3年)	◎	◎	◎	◎	◎	
授業点検書 (4,5年、専攻科1,2 年)	◎	◎	◎	◎	◎	
授業点検書 (1～3年)	◎	◎	◎	◎	◎	
教育業績自己申告 書	◎	◎	◎	◎	◎	
学生からの「学校に 対する要望書」	○	○	○	○	○	
学生の「学習教育目 標達成度自己評価」	◎	◎	◎	◎	◎	
教材開発の状況	○	○	○	○	○	

(◎：全部、○：一部)

## 資料4-2-1

## 有識者懇談会報告書（抜粋）

## （人材像策定について）

高専教育に対して、6・3・3・4のJABEEが完全にフィットするわけではないということも認識していただきながら、ジャパン高専アコードというような、これが日本の高専教育の標準であるというものをやはりつくって、それを全世界に認めてもらう。

（出典 明石工業高等専門学校 有識者懇談会報告書 平成25年1月）

## （グローバル人材育成について）

リーダ層をかなり若い人が目指さなくなってきているので、そういう人材をぜひ、明石高専で特化して教育していただきたい。

まずは、教える側がそういうグローバルな感覚をもっていないと、学生にグローバル人材教育をするということが難しいので、教える側のレベルアップということについてお考えいただければと思います。

（出典 明石工業高等専門学校 有識者懇談会報告書 平成26年11月）

## 資料名「自己点検・評価報告書（平成29年3月）p.72～107」（9/36）

## IV 教育の成果及び改善システム

## 2.2 学生及び学外関係者の意見の自己点検・評価への反映

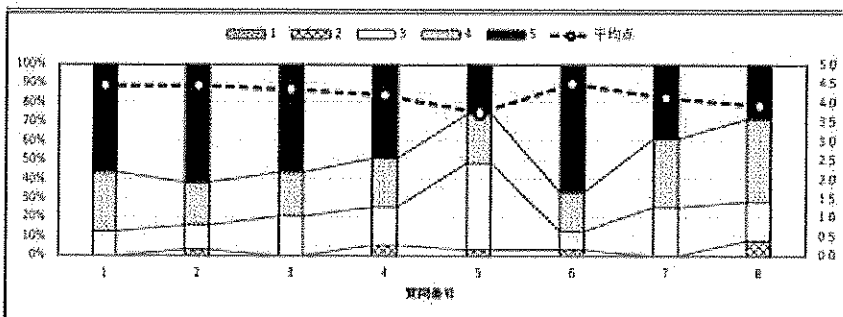
学生の意見を聴取する制度として、授業アンケート・学級担任・学生相談室・意見箱等がある。授業アンケートは毎年7～8月と2月に実施し、集計結果（学生の評価・問題点の指摘、担当教員の所見・授業改善案）を学内LANに公開している（資料4-2-2）。学級担任（又は副担任）は「担任マニュアル」「教員マニュアル」（資料4-2-3）に従い、また科目担当者はオフィスアワーを活用して、学生の意見を聴取する。学生相談室も設置し、利用されている。意見箱は学生玄関に設置し、回答が速やかに学生玄関に掲示されると共に学内LANでも公開される（資料4-2-4）。最近では学生相談室が充実しており、平成28年度の投書は3件、平成27年度は0件と減少傾向にある。投書の内容は学業・学校生活に関するものであり、校長が教員と面談を行うことで改善を図った。

## 資料4-2-2

学生による授業アンケート集計表（1授業分、各項目名中心に一部抜粋のみ）

○科目名〈解析学〉・クラス〈4M〉

質問	←良いできた		普通			悪いできなかった		回答数	平均
	6	4	3	2	1				
1 総合評価	22	12	5	0	0	39	4.44		
2 説明の仕方・準備の使い方	23	9	5	1	0	39	4.44		
3 教科書や教材の選定	22	9	8	0	0	39	4.36		
4 学生の理解度の確認	19	10	8	2	0	39	4.18		
5 授業に興味を持たせる工夫	10	16	18	1	0	39	3.74		
6 シラバスどおりの授業	26	8	4	1	0	39	4.51		
7 授業目標の理解	15	14	10	0	0	39	4.13		
8 授業の目標の達成	11	17	8	3	0	39	3.92		



○質問項目 問1（総合評価） 問2（説明の仕方） 問3（教材の選定） 問4（理解度の確認）  
問5（興味を持たせる工夫） 問6（計画達成度） 問7（授業目標の理解） 問8（目標達成度）  
以上の5段階評価（各設問の平均 3.74～4.51）

○自由記述（授業の良かった点と改善点。毎回出される課題によって、復習がしやすかった。証明が丁寧。授業の残り時間に質問を受けてくれることに感謝しています。授業の内容に対して演習課題が難しく全く解けないことがあった。など）

○教員の講評（全体として、授業（付随する自己学習を含む）への取り組みや理解度の良いクラスであった。問題の解き方を教えほしいという要望はいつも少数あるが、例えば定理を使って解く問題の場合、定理の内容と使い方（適用の手順）を別々に覚えようとするのではなく、導出過程を理解してから取り組みれば、配布した演習課題の中に難しいものはそれほど多くないと思う。）

## 資料名「自己点検・評価報告書（平成 29 年 3 月） p.72～107」（10/36）

## IV 教育の成果及び改善システム

## 資料 4-2-3

## 「担任マニュアル」（抜粋）

## 1. 学級運営

## 学級運営の心得

学生との人間的な触れ合いを大切にし、できる限り接触の時間を多くとるよう心掛ける。その際、問題によっては毅然たる態度も必要であるが、偏見にとらわれず公平な態度で、受容の心をもって接する。

個々の学生の特質をよく理解し、発達過程を見守りながら、きめ細かい適切な指導を進める。ことに学業や生活面で問題を抱えている学生には積極的に働きかけ、学習意欲の育成・向上に努める。

『学生生活のてびき』等の配布物をよく読むよう指導し、諸手続の仕方、学校の規則などを理解させる。同時に、『シラバス』の活用を奨励し、それを通して自学自習の習慣を確立するよう、積極的な学習態度の育成に努める。

担当クラスを有機的な集団、すなわち学生相互の健全な連帯感に支えられた集団へと育成する。そのためには、学級のリーダーやムードメーカーとなりうる学生をいち早く見抜き、その活動を積極的に方向付け、支援していくことも有効な手段の一つである。（以下、略。中心的な表題のみ）

## 1-1. 基本的業務

## 年度当初の業務 等

## 3. 学習指導

## 3-1. 学生の成績履歴

・前担任との引継、学生の成績把握

## 3-2. 日常の学習指導

HRでの指導、個別指導、教科担当教員との連携 等

## 3-3. 定期試験時の指導

定期試験前の指導、定期試験後の指導 等

## 4. 生活指導

## 4-6. 寮生の指導

寮生指導の心得、寮務主事・寮務係との連携 等

## 4-10. 学生相談室・保健室等との連携

学生相談室との連携、保健室との連携 等

## 「教員マニュアル」（項目のみ抜粋）

## 1. 高等教育機関

## 2. 明石高専の特色と教育目的

## 3. 「共生システム工学」教育プログラム

## 4. 明石高専のアドミッションポリシーと学習・教育目標

## 5. 組織と校務分担

## 6. 学級担任

## 7. 科目担当

## 資料名「自己点検・評価報告書（平成29年3月）p.72～107」（11/36）

## IV 教育の成果及び改善システム

- 8. 部活動の顧問
- 9. 学寮の宿日直
- 10. 教育活動への参加
- 11. 明石高専の情報、事務手続き

## 資料4-2-4

## 学校に対する要望書（抜粋）

## 26-3-1

要望：1. ホームルーム運営について；連絡を早くして欲しい 2. 進路指導について；慎重に対応して欲しい 3. 見学旅行について；行き先・金額等、事前相談と報告をして欲しい

回答：校長が当該教員との面談を行い、学生とのコミュニケーションを図り、学級運営を円滑に行うよう改善を要望しました。

## 26-3-2

要望：授業・シラバスについて  
シラバスの内容に沿った授業を進めて欲しい

回答：校長が当該教員との面談を行い、改善を要望しました。

学外関係者の意見は、主に進路先及び卒業生、修了生アンケートと企業・大学・行政からの委員で構成される有識者懇談会により聴取している。

進路先および修了生アンケートは平成26年2月に実施し、30企業（大学院を含む）と33名の修了生から回答を得た。集計結果はFD委員会、専攻科・JABEE委員会合同で報告し、学内LANに掲載した（資料4-2-5）。

有識者懇談会は、平成23年9月、平成25年1月、平成26年2月、平成26年11月、平成28年1月に開催し、その協議内容は各回の「有識者懇談会報告書」（資料4-2-1）で報告した。

平成27年度有識者懇談会において、グローバル・コンピテンシーや明石高専への期待等に関する提言がなされており、各専門委員会においてその検討を行っている。これまでの経過として平成25年度にアクティブラーニングセンター運営委員会、平成27年度にグローバルエデュケーションセンター運営委員会（旧・国際交流センター）、グローバルエデュケーションオフィス（通称：グローバルテラス）を設置し、本校におけるアクティブラーニングおよびグローバル人材育成の円滑な推進を図る施策をとっている（資料4-2-6）。平成27年度のグローバル事業において、海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN」プログラムに7名、留学プログラム（夏期研修、春期研修）に約60名が参加している。

平成27年6月には明石高専熟議DAYを開催し、教員、学生、ステークホルダーによる議論の場を設けることで、明石高専の課題や解決策を探り、教育改善に役立てられている（資料4-2-7）。

## 資料名「自己点検・評価報告書（平成 29 年 3 月） p.72~107」（12/36）

## IV 教育の成果及び改善システム

資料 4-2-5

進路先および修了生アンケート結果（抜粋）  
教育目的の反映度合（人）

対象者	教育目的	明石高専の授業やカリキュラムへの反映度合				
		反映されている	どちらかといえば 反映されている	どちらともい えない	どちらかといえば 反映されていない	反映されてい ない
修了生	健康な心身と豊かな人間性	7	14	11	1	0
	柔軟な問題解決能力	10	15	6	1	1
	実践的な技術力	15	12	6	0	0
	国際性と指導力	2	5	19	5	2
企業	健康な心身と豊かな人間性	3	7	2	0	0
	柔軟な問題解決能力	1	8	3	0	0
	実践的な技術力	3	4	5	0	0
	国際性と指導力	1	2	7	2	0
大学院	健康な心身と豊かな人間性	6	9	1	1	0
	柔軟な問題解決能力	4	7	5	1	0
	実践的な技術力	10	4	1	0	1
	国際性と指導力	1	4	9	1	2

資料 4-2-6

年度計画実施状況報告書（平成27年度）（抜粋）

(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム	
・平成 27 年度入学者から必修科目で「アクティブラーニングⅠ」を開設し、学生の主体的な学習に向けた計画とする。	平成 27 年度前期に 1 年生の授業科目として「アクティブラーニングⅠ」を開講した。学生に主体的な学習の手法を体験させた。
3 国際交流等に関する事項	
・海外から教員を招聘し、英語による授業及び教職員研修等を検討する。	グローバルエデュケーションセンターにおいて、ブリテイツェカウンシル専門講師による教員対象の英語教授法の講義開催を 3 月に開催し、34 名の教員（技術職員を含む）が参加した。

（出典 明石工業高等専門学校 年度計画実施状況報告書（平成27年度））

## 資料名「自己点検・評価報告書（平成29年3月）p.72~107」（13/36）

## IV 教育の成果及び改善システム

## 資料4-2-7

ワーク①「いまの明石高专の良いところ・悪いところ」全体共有（抜粋）

- 1) ワーク①で出された意見の中から、これぞと思う意見を10点程度話し合ってから選ぶ
- 2) テーブルマスターが班で選んだ意見をポストイットに書き出し、前に提出
- 3) 昼休み中、ファシリテーターらが各班から出された意見をまとめて8個のテーマに分類
- 4) 昼休み後、出た意見の振り返り

## ▷ もっと明石高专の実態を正しく伝えるためには？

学校の広報/情報発信が少ない/企業の評価/学校のPR/よく知らない/学校の目指すべき姿/外部からの評価/中学校への働きかけが少ない/情報共有不足/学校の見える化/成果の学内通知がない/学生への情報提供が少ない

## ▷ もっと国際力を高めるには？

英語留学/学外交流/留学制度/日本にいる留学生の受け入れ/留学生の中学校への講師派遣/さらなる国際化/留学しやすい環境/海外に行く機会多い etc..

## ▷ 学生の想像力・主体性を伸ばすためには？

学生の特長/社会問題に対して関心度が低い/個性が強い/壁破りな人が少ない/想像力の欠如/主体性のなさ/色々しすぎ/その場しのぎの学生/学内の問題に対し積極的に対処する先生が少ない/コンテスト・賞 etc..

## ▷ どんな進路を目指したらいいか？

進学・就職率が高い/優秀すぎ/学力が高い/真面目/恵まれた進路/個性/進学率が高い/素晴らしい進学実績/進学の幅が狭い/あまり実践的な技術を教えていない/高专は進学のための通過点/一流企業 etc..

(出典 熱議DAY in 明石高专)





## IV 教育の成果及び改善システム

## 2.4 教員の教育改善への取組

学生による評価として、授業方法等の 8 項目の 5 段階評価とともに学生の自由記述欄、及びそのまとめが授業アンケートとして実施され、その結果は平成14年度から学内LAN上で全て公開されている（資料 4-2-8）。個々の教員は学生の授業アンケートによる評価結果に基づいて、教育の質の向上を図り、教授内容等の継続的改善を行っている。例えば、学生の授業評価において 3 未満の得点項目に関しては、改善策の提案を求めるシステムが確立している。また、各教員からは、自己評価としての授業点検書の提出が平成14年度から主として 4 年生以上の全科目に、平成16年度から全科目に義務付けられている（資料 4-2-9、表 4-2-2）。授業点検は学期ごとに実施され、教員相互の授業方法・成績評価等のチェック機能を果たしている。

FD委員会は教育改善の取り組みとして、毎年授業に関する意見交換会を開催している（資料 4-2-10）。平成26年度より、アクティブラーニングセンター主導で教授法に関する新たな取り組みも行われ、本研修に毎回10名弱の教員が参加して教育改善に取り組んでいる（資料 4-2-11）。

さらに、独自の教材開発に対する自己申告制度を設けている（表 4-2-3）。シラバスに関しては、学習・教育到達目標との整合性を図るため、専攻科・JABEE委員会にて常に再確認を行っている（資料 4-2-12）。

資料 4-2-8

学生による授業アンケート結果（学内LAN）

年度	結果
平成27年度	平成27年度授業アンケート結果
平成26年度	平成26年度授業アンケート結果
平成25年度	平成25年度授業アンケート結果
平成24年度	平成24年度授業アンケート結果
平成23年度	平成23年度授業アンケート結果
平成22年度	平成22年度授業アンケート結果
平成21年度	平成21年度授業アンケート結果
平成20年度	平成20年度授業アンケート結果
平成19年度	平成19年度授業アンケート結果
平成18年度	平成18年度授業アンケート結果
平成17年度	平成17年度授業アンケート結果
平成16年度	平成16年度授業アンケート結果
平成15年度	平成15年度授業アンケート結果
平成14年度	平成14年度授業アンケート結果

IV 教育の成果及び改善システム

資料4-2-9

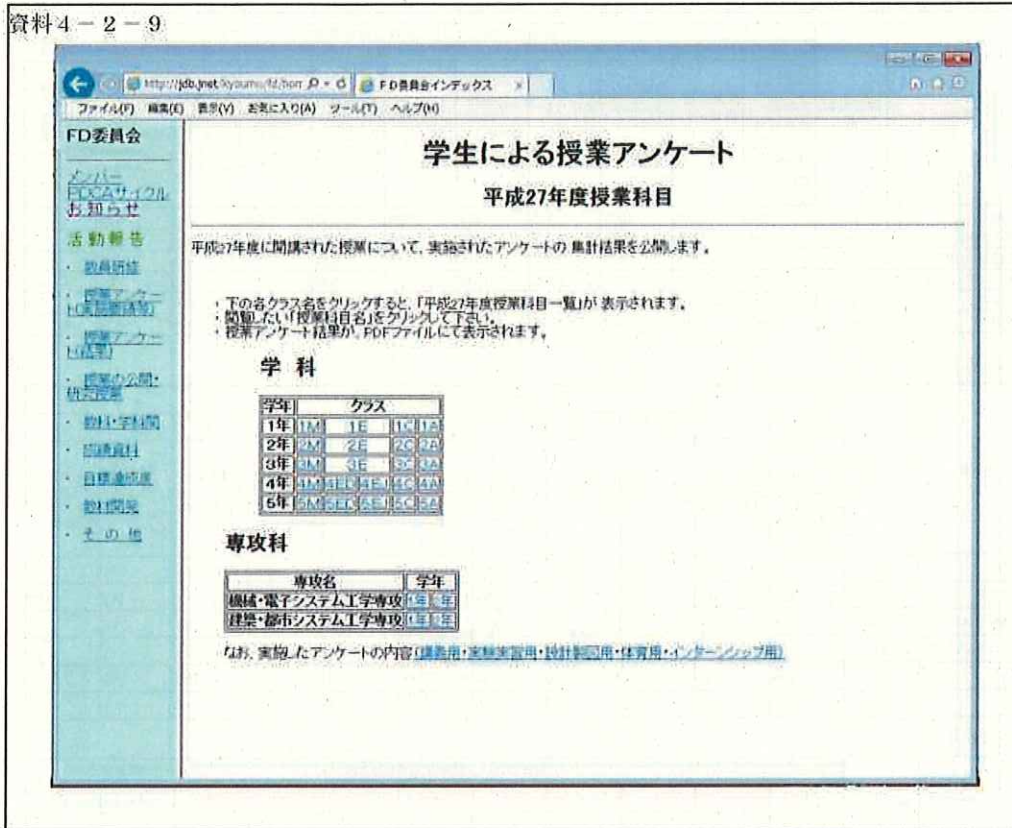


表4-2-2 授業点検集計表（平成23年度～平成27年度）

平成23年度

学科名	回答科目数	検別に「はい」と回答した科目数の割合(%)										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
一般科目	161	100%	99%	99%	100%	100%	89%	100%	100%	98%	76%	6%
機械工学科	37	100%	100%	97%	97%	97%	95%	100%	100%	95%	57%	3%
電気情報工学科	136	100%	89%	94%	96%	99%	87%	99%	100%	93%	37%	7%
都市システム工学科	83	100%	100%	99%	100%	100%	99%	100%	100%	99%	59%	5%
建築学科	62	100%	100%	98%	100%	100%	94%	100%	100%	98%	81%	2%
全学科	476	100%	100%	97%	99%	100%	91%	100%	100%	98%	61%	5%

資料名「自己点検・評価報告書(平成29年3月)p.72~107」(17/36)

IV 教育の成果及び改善システム

平成24年度

学科名	回答科目数	設問に「はい」と回答した科目数の割合(%)										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
一般科目	59	95%	100%	100%	98%	100%	98%	100%	100%	93%	88%	0%
機械工学科	20	100%	100%	100%	100%	100%	85%	100%	100%	100%	45%	5%
電気情報工学科	59	100%	98%	97%	100%	100%	86%	88%	100%	93%	46%	5%
都市システム工学科	33	97%	100%	100%	100%	100%	97%	100%	100%	94%	70%	3%
建築学科	30	100%	100%	97%	100%	100%	100%	100%	100%	83%	60%	0%
全学科	201	98%	100%	98%	100%	100%	95%	100%	100%	93%	58%	2%

平成25年度

学科名	回答科目数	設問に「はい」と回答した科目数の割合(%)										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
一般科目	146	99%	99%	95%	100%	100%	95%	100%	100%	88%	80%	5%
機械工学科	69	88%	81%	87%	88%	88%	80%	88%	88%	71%	36%	10%
電気情報工学科	108	85%	88%	71%	86%	86%	72%	84%	85%	78%	31%	6%
都市システム工学科	84	92%	94%	95%	95%	95%	83%	95%	95%	90%	71%	6%
建築学科	67	85%	84%	82%	84%	84%	78%	85%	85%	70%	55%	0%
全学科	474	92%	91%	86%	92%	92%	85%	92%	92%	81%	51%	5%

平成26年度

学科名	回答科目数	設問に「はい」と回答した科目数の割合(%)										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
一般科目	66	98%	100%	86%	100%	100%	100%	100%	100%	88%	87%	6%
機械工学科	22	100%	88%	95%	100%	100%	91%	100%	100%	82%	41%	18%
電気情報工学科	58	100%	98%	91%	98%	100%	81%	100%	100%	95%	40%	5%
都市システム工学科	45	100%	100%	100%	100%	100%	96%	100%	100%	96%	58%	4%
建築学科	28	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	81%	77%	4%
全学科	217	100%	98%	93%	100%	100%	93%	100%	100%	90%	58%	6%

平成27年度

学科名	回答科目数	設問に「はい」と回答した科目数の割合(%)										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
一般科目	129	99%	98%	86%	99%	98%	98%	99%	99%	99%	84%	0%
機械工学科	35	100%	100%	100%	100%	100%	94%	100%	100%	100%	97%	0%
電気情報工学	71	100%	97%	92%	97%	99%	77%	100%	100%	100%	96%	0%
都市システム	57	98%	100%	100%	100%	100%	98%	100%	100%	100%	89%	0%
建築学科	29	100%	100%	97%	100%	100%	97%	100%	100%	100%	90%	0%
全学科	321	99%	99%	96%	99%	99%	93%	100%	100%	100%	89%	0%

## 資料名「自己点検・評価報告書（平成 29 年 3 月） p.72～107」（18/36）

## IV 教育の成果及び改善システム

資料 4-2-10

## 研究授業（意見交換会）の案内

機械工学科教員各位

松塚（FD 委員）です。  
いつもお世話になっております。

当日のご連絡となりまして大変申し訳ございません。

10 月 22 日の学科会議でお伝えしました通り、11 月 10 日（火）に藤原先生にご協力  
いただきまして、研究授業（英語での授業）を実施いたしました。  
本日、研究授業の意見交換会を以下の通り実施いたします。

- ・日時：11 月 16 日（月）放課後（16:20～）
- ・会場：テクノセンター会議室

授業を参観されなかった先生方もご参加いただけるとのことですので、英語での  
授業へのご関心や放課後お時間がございましたら、ご参加くださいますようよろ  
しくお願い申し上げます。

（出典 平成 27 年度研究授業意見交換会の案内メール）

資料 4-2-11

## 教授方法勉強会の参加者募集について

2015 年 3 月 10 日 教員会資料  
アクティブラーニングセンター

以下のとおり、来年度も教授方法の勉強会を開催します。参加を希望される教員の方は、3 月 16  
日（月）までに岡田までご連絡ください。

- ・実施スケジュール：2015 年 4 月中旬～2015 年 7 月（予定）
- ・募集人数：数名～10 名程度
- ・申込み及び問い合わせ：AP 担当 岡田大輔

Email : dokada@akashi.ac.jp TEL : 内線 6026

例えば、「より学生が自ら考えるような授業にしたい」「新たな機器を取り入れ授業をしてみたい」  
などをはじめとして、多くの先生方の参加をお待ちしています。

（出典 平成 27 年度教授方法勉強会の案内 教員会で配布 抜粋）

資料名「自己点検・評価報告書（平成29年3月）p.72～107」（19/36）

IV 教育の成果及び改善システム

表4-2-3 教材開発（抜粋）

学科名	開発者	開発年月	教材の種類	教材の概要	教材の使用状況または使用予定			
					学年	学科名	授業科目	使用開始(年)
一般科目	橋本 浩英	平成17年01月	教科書(共著)	「American History in Focus」(ワシントン・ポスト)映画「フォレストガンプ 一期一会」を使用した現代アメリカ史を2のテーマに分けて編纂された大学教養課程の英語授業用教科書。英語力向上を促すことに加え文化的側面を理解するエクササイズが用意されている。主なトピックに、KKKの指導、ケネディ大統領暗殺、ベトナム戦争介入と戦後後遺症、ヒッピー文化、ウォーターゲート事件などが収録されている。	5	全学科	英語C	平成17年04月
都市システム工学科	友久 誠司	平成19年04月	自著教科書	土質実験法(改訂版)(高島出版会) 大学、高専、工業系校などの土質調査、土質試験の学習で扱うものにふさわしい項目を取り上げ、その指導書として編纂されたものである。特に、著者はすべて高専で土質実験にたづさわっている者で、試験方法や結果の工学的意味から実用までを視覚を通してわかりやすく解説している。	4	都市システム工学科	工学実験Ⅱ	平成19年04月
建築学科	中川 肇	平成18年12月	その他(本造模型教材・DVD教材)	明石晋吾出前講演は平成16年度から実施されている。この出前講演は防災、地震をテーマとした講演を実施するために、平成17年から2年間、大地震時の本造住宅の崩壊の様子を再現できる模型教材を開発し、実験の様子をビデオカメラで撮影しDVD教材(ナレーションなし)を作成した。更に、出前講演で4回、市民講演で2回紹介している。土質実験法(改訂版)(高島出版会) 大学、高専、工業系校などの土質調査、土質試験の学習で扱うものにふさわしい項目を取り上げ、その指導書として編纂されたものである。特に、著者はすべて高専で土質実験にたづさわっている者で、試験方法や結果の工学的意味から実用までを視覚を通してわかりやすく解説している。			出前講演で使用	平成18年12月
電気情報工学科	大向 雅人	平成19年06月	その他(演習付きのテキスト概要)	他学科の3年生が半年で電気気象学と電気回路(交流回路)の基礎が身に付く教材	3	都市システム工学科	工学基礎Ⅲ	平成19年10月
電気情報工学科	大向 雅人	平成10年02月	その他(演習付きのテキスト概要)	半導体を中心とした電子物性を定量的に解説したもの。数学的な基礎もその程度説明を入れている特徴がある。また、演習もつけている。	4	電気情報工学科	電気電子材料	平成10年04月
電気情報工学科	上 泰	平成19年09月	テキスト	4端子回路網について、例には教科書とは別のアプローチをとりながら要点をまとめたものである。講義の進行は、本資料の配付が前提となるため学生にノートを取らせる時間を省略し、ほぼ毎回の講義で20～30分の演習時間の確保ができるようになった。	3	電気情報工学科	回路論(後期)	平成19年10月
都市システム工学科	鍋島 隆之	平成20年04月	その他(講義の補助教材)	地盤工学Ⅰ、地盤工学Ⅱの講義で教科書に記載されていない内容より詳細な説明を追加した補助教材を作成した。	3・4	都市システム工学科	地盤工学Ⅰ 地盤工学Ⅱ	平成20年04月
電気情報工学科	佐村 融治	平成18年06月	その他(e-learning教材)	「Webベースタッチタイピング学習システム」(コンピュータ初習者のために、Webブラウザでタッチタイピングを学習するシステムを開発した。本システムは学内であればどこでも利用することができる。また、タイピング試験を行えるようにユーザー認証機能や試験結果履歴機能等を装備している。毎回授業中にタイピング試験を行っている。	1	都市システム工学科	コンピュータ基礎	平成18年07月
建築学科	中川 肇	平成20年09月	テキスト	4年建築学科、建築構造力学Ⅱで使用する教材で、不特定構造物の理論及び演習問題を数多く掲載している。高専生に十分理解できる内容としている。大学編入試験、大学院入試にも対応できるように演習問題を作成している。	4	建築学科	建築構造力学Ⅱ	平成20年10月
電気情報工学科	程 桂太郎	平成18年12月	教科書(自著)	図解Verilog HDL実習(森北出版)ハードウェア記述言語を用いたデジタル回路設計手法の基本を実験的な実習により学べる高専・大学向けの教科書	専2	機械・電子システム工学専攻	デジタル回路設計	平成18年04月
電気情報工学科	程 桂太郎	平成20年07月	教科書(自著)	PSpiceで学ぶ電子回路設計入門(電気書院)電子回路シミュレータを用いて回路の動作を確認しながら、電子回路設計の基本を習得する高専・大学向けの教科書	5	電気情報工学科	電子回路設計	平成20年07月
電気情報工学科	上 泰	平成21年04月	テキスト	古典制御の基礎について、できる限り平易にまとめた講義ノートである。これまでは資料プリントで配布していたが、見づらいバラバラになる等の課題から製本化の要求が出ていたことだったので、製本化して学生に持たせ、ノートを取らせる時間を省略し、ほぼ毎回の講義で20～30分の演習時間の確保ができるようになった。	4	電気情報工学科	制御工学	平成21年4月
一般科目	橋本 浩英	平成20年01月	教科書(自著)	映画「カサブランカ」で学ぶ多様な英語表現。映画を用いて学生のモチベーションを高める教材として執筆。実際の会話で使われる表現を映像とリスニングを通して学習出来る構成となっている。	5	全学科	英語C	平成20年04月
一般科目	橋本 浩英	平成21年01月	教科書(自著)	映画「ローマの休日」で学ぶ日常で使える英語表現映画を用いて学生のモチベーションを高める教材として執筆。日常生活で使われる表現を映像とリスニングを通して学習出来る構成となっている。	3	全学科	英語ⅡA	平成21年04月
建築学科	中川 肇	平成25年09月	教科書(自著)	基礎から学ぶ建築構造力学 基礎と演習からのアプローチ本書は、高専生および大学生を対象に、全18章で構成し、1～14章を「非定力学編」、15～18章を「非定力学編」と区分し、できる限り理論を丁寧に記述し、多くの例題、演習問題・解説を通じて理解を深めるように編纂している。	4	建築学科	建築構造力学Ⅲ	平成26年4月

## IV 教育の成果及び改善システム

資料 4-2-12

専攻科・JABEE 委員会議事録（抜粋）

## 1. 「共生システム工学」教育プログラムにおける科目の分類について

科目構成表（学習履歴点検表）において、同一科目が電気電子工学コースと情報工学コースで異なる分類となっていることについて分類を揃えるほうがよいか検討したが、従来どおり異なる分類のままとすることとなった。

2 年生の ME (M 系) 学生が他専攻履修している「構造システムⅡ」は「専門応用系」に分類することとなった。

2 年生の AC (A 系) 学生が本科 5 年生で取得した「プロダクトデザイン」(E 科科目) は設計・システム系に分類することとなった。

2 年生の AC (C 系) 学生が本科 5 年生で取得した「コンピュータシミュレーション」(E 科科目) は専門応用系に分類することとなった。

(出典 平成 27 年度臨時専攻科・JABEE 委員会議事録)

## 2.5 研究活動による教育の質の改善

各教員の担当科目と研究内容等については、本校ホームページに研究者総覧として公表している(資料 4-2-13)。本校では年 1 回、研究紀要(資料 4-2-14)を発行しており、教員等の研究の成果が報告されている。また、専攻科特別研究の成果を報告するための研究年報も年 1 回発行され(資料 4-1-3)、同様に巻末には専攻科生の学会発表等の状況も掲載されている(表 4-1-6)。テクノセンターを中心とした地域の企業や自治体、NPO・民間組織などとの共同・受託研究も含めて、教員研究は卒業研究、専攻科特別研究などに反映されており、学生の学術賞等受賞の実績もある(表 4-1-7)。

教員の研究や学生の学会発表などが積極的に行われ、テクノセンターを中心とした学外との共同研究・受託研究の実績も重ねてきている。これらの成果が学生の卒業研究や専攻科特別研究に反映され、専門科目の授業内容にも活かされている。なお、平成 27 年度の学位授与機構による特例適用専攻科の審査において、本校の専攻科は全て特例適用専攻科(教員の研究業績評価により、大学改革支援・学位授与機構による試験が免除される特例)と認定された。このことより、研究活動が教育の質の改善に活かされていることが示されている。

IV 教育の成果及び改善システム

資料4-2-13

**研究者総覧（明石高専ホームページ）**


**国立明石工業高等専門学校**

[お問い合わせ](#) | [交通アクセス](#)・[キャンパスマップ](#) | [教育](#)・[研究施設](#) | [教職員公募](#)

[Japanese](#) | [English](#)

[受給生の方](#) | [学生・保護者の方](#) | [地域・企業の方](#) | [卒業生の方](#)

---

[学校案内](#) | [学科・専攻科](#) | [入試情報](#) | [学生生活](#) | [就職・進学](#) | [教育・研究](#) | [地域・国際連携](#) | [産学官連携](#)

[トップページ](#) > [お知らせ](#) > [研究者総覧](#)

**※ 研究者総覧**  
 更新日：平成27年5月18日  
 平成27年度の明石高専研究者総覧です。  
 本研究者総覧はResearchmapから提供されている情報です。  
 各研究者氏名をクリックすると、Researchmapが提供する各研究者の情報が表示されます。

一般科目	機械工学科	電気情報工学科	都市システム工学科	建設学科
藤部 正志	加藤 隆弘	大岡 野人	石丸 和宏	大塚 義彦
仁木 真実	加藤 隆弘	谷村 敏治	江口 忠雄	上原 知彦
本城 智也	加藤 隆弘	藤 祥雄	神田 成一	坂井 省三
石田 祐	加藤 隆弘	中井 俊一	橋 友夫	田中 誠一
西田 文	加藤 隆弘	栗田 孝弘	橋本 謙之	平石 洋弘
松田 真	加藤 隆弘	雷 桂太郎	石内 昌子	八木 雅夫
栗田 謙三	加藤 隆弘	船井イスマイル	松崎 真哉	花岡 謙也
栗田 ひろみ	加藤 隆弘	菅 野 隆	高野 崇	中川 肇
松尾 勇人	加藤 隆弘	菅 野 隆	武田 孝典	藤野 アドリアナ
高元 利江	加藤 隆弘	菅 野 隆	三村 誠夫	丸島 あかね
小笠原 弘道	加藤 隆弘	菅 野 隆	高野 崇	角野 直樹
松丁 幸一	加藤 隆弘	菅 野 隆	菅 野 崇	
藤野 太之	加藤 隆弘	菅 野 隆		
藤本 浩美	加藤 隆弘	菅 野 隆		
藤野 純美	加藤 隆弘	菅 野 隆		
松田 安地	加藤 隆弘	菅 野 隆		
村上 英樹	加藤 隆弘	菅 野 隆		
ハーバート ジョン	加藤 隆弘	菅 野 隆		



資料名「自己点検・評価報告書（平成 29 年 3 月） p.72～107」（22/36）

IV 教育の成果及び改善システム

資料 4-2-14

明石工業高等専門学校研究紀要 第 58 号（平成 28 年 2 月）

目次

（研究論文）

- ピエゾセンサーを用いた木のひずみ計測 …… 石丸 和宏、浅葉 健太、清水 恭平 (1)  
リーニ二相系ステンレス鋼溶接箱形短柱の初期不整 …… 三好 崇夫、切山貴文 (7)  
長周期地震動を受ける二段階免震構造物の地震応答特性について …… 中川 肇、前田 智香 (15)

（教育論文）

- アクティブラーニングの成果に関する意識調査報告 …… 田坂 誠一、石田 百合子、保田 洋 (20)  
数学の授業におけるアクティブラーニングの効果について …… 面田 康裕 (26)  
パーソナル・ファブリケーション教育のための歩行ロボット教材の開発 …… 中村 陽介、大西 一生、  
西村 敏生 (31)  
クラウドサービス導入とメールアカウント一括管理システムの構築 …… 中川 卓也、福田 豊、  
大向 雅人 (37)

（出典 明石工業高等専門学校研究紀要 第 58 号）

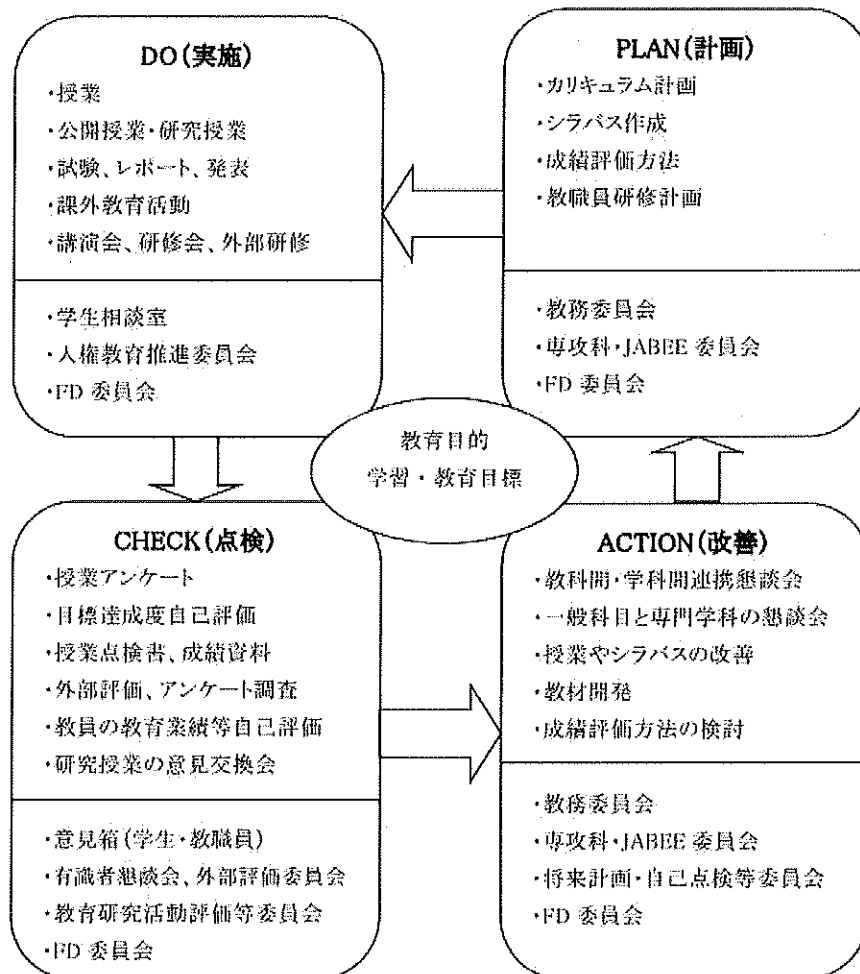
IV 教育の成果及び改善システム

3. 教員と教育支援者の資質向上のシステム

3.1 FD（ファカルティ・ディベロップメント）の取組と成果

本校では、教員の資質向上を図るため平成16年度よりFD委員会を設置し、教育の質の向上と授業の改善に取り組んでいる。FD活動は、本校の教育目的及び学習・教育目標を達成するため、計画・実施・点検・改善というPDCAサイクルに基づいて実行される（図4-3-1）。

図4-3-1 PDCAサイクルに基づくFD活動



## 資料名「自己点検・評価報告書（平成 29 年 3 月）p.72～107」（24/36）

## IV 教育の成果及び改善システム

平成 16 年 11 月には、学内 LAN に FD 委員会のホームページを設置し、FD 活動の実施状況、懇談会等のまとめと資料、授業アンケート、公開授業における授業参観者アンケートの結果等、教員の質的向上と教育改善に役立つ情報が全教職員に開示されている。（図 4-3-2）

FD 活動に関する委員会等の組織の関係は図 4-2-2 に示すとおりである。FD 活動は中期計画の一環として将来計画・自己点検等委員会において策定され（資料 4-3-1）、教務委員会や専攻科・JABEE 委員会との連携により計画・実施される。

図 4-3-2 FD 委員会のホームページ

FD委員会	FD委員会 お知らせ
<p>メンバー PDCAサイクル お知らせ</p> <p>活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員研修</li> <li>・ 授業アンケート(実施要領等)</li> <li>・ 授業アンケート(結果)</li> <li>・ 授業の公開・研究授業</li> <li>・ 教科・学科間</li> <li>・ 成績資料</li> <li>・ 目標達成度</li> <li>・ 教材開発</li> <li>・ その他</li> </ul>	<p><b>授業の公開</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <a href="#">2016年度前期「授業の公開」</a></li> <li>・ <a href="#">2016年度前期「授業の公開」に関する意見のまとめ</a></li> </ul> <p><b>授業アンケート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <a href="#">授業アンケート【実施要領等】</a></li> <li>・ <a href="#">授業アンケート【結果】</a></li> </ul> <p><b>教員マニュアル</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <a href="#">教員マニュアル(word形式)</a></li> </ul> <p><b>担任マニュアル</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <a href="#">担任マニュアル(平成25年度版)(PDF形式)</a></li> </ul>

## 資料 4-3-1 将来計画・自己点検等委員会規程（抜粋）

## 将来計画・自己点検等委員会規程（抜粋）

## （趣旨）

第1条 中期計画等の策定並びに自己点検及び自己評価（以下「自己点検等」という。）を行うため、将来計画・自己点検等委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## （組織）

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもつて組織する。

- (1) 副校長（総務担当）、副校長（組織改革担当）及び校長補佐
- (2) 各学科長及び一般科目長
- (3) 事務部長及び各課長
- (4) その他校長が指名する者

（出典 明石工業高等専門学校規則集）

資料名「自己点検・評価報告書（平成29年3月）p.72～107」（25/36）

## IV 教育の成果及び改善システム

FD委員会は、委員会規程に基づいてFD活動を具体的に計画し実施する組織である（資料4-3-2）。委員会は各科の教員により構成され、活動内容については教員のニーズが反映されている。また、学生や教職員が自由に意見を投稿できる意見箱が設置されている。教職員意見箱については意見の早期把握を目的に平成22年8月よりWeb方式に変更されている（図4-3-3）。

授業の公開は平成14年度から毎年行われている。前期と後期にそれぞれ1回ずつ、1週間の期間に渡りすべての授業が全教員、保護者を対象に公開されている。授業参観の意見は学内LANに開示するとともに、「工夫が見られた点」、「改善意見」、「保護者の意見」等を当該教員に印刷配布し、授業の改善に役立てている。また、毎回議事録をまとめて学内LANにて開示している（資料4-3-3）。

教育に関する教科間・学科間の連携を図るための懇談会を平成14年度から平成27年度まで毎年実施している（表4-3-1）。平成28年度以降はアクティブラーニング教育、グローバル教育等の学科間の連携を超えた教育が通常に行われるようになったため、アクティブラーニングセンター等との共催として研修会を行うようになる予定である。

教職員研修については、教職員の資質向上を図るための研修会や講演会を実施している（表4-3-2）。また、新任教員を対象にガイダンスを実施しており（資料4-3-4）、校長、副校長及び校長補佐から講話を受け、更に教員マニュアルを配布して教育業務の円滑な遂行を支援している（資料4-3-5）。

教員の授業方法の改善については、授業点検書の作成及び授業アンケートへの講評やコメントの記入により実施している。FD委員会では教員から提出された書類を集計し、その結果を取り纏めて学内LANに開示している（資料4-3-6（授業点検書）、資料4-3-7（授業アンケート【担当教員からの講評】）、資料4-3-8（授業アンケート【授業の改善すべき点】））。

資料4-3-2

## FD委員会規程（抜粋）

（趣旨）

第1条 明石工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員研修に関する事及び教育活動についての点検・改善について、審議するためFD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教員研修に関する事。
- (2) 授業アンケートに関する事。
- (3) 授業公開に関する事。
- (4) 教育に関する教科間・学科間の連携に関する事。
- (5) 成績資料の点検に関する事。
- (6) シラバスの点検とフィードバックに関する事。
- (7) 学生の目標達成度の点検とフィードバックに関する事。
- (8) その他の教育の点検・改善に関する事。

（出典 明石工業高等専門学校規則集）

資料名「自己点検・評価報告書（平成 29 年 3 月） p.72～107」（26 / 36）

## IV 教育の成果及び改善システム

図 4 - 3 - 3 明石高専教職員意見箱

**「明石高専教職員意見箱」**

教職員の皆様へ

本校を取り巻く教育環境の変化に即応するため、教職員から学校運営等に関する意見を広く求めることにより、不断の改善を行い、もって本校の発展に資することを目的として「明石高専教職員意見箱」を開設しています。

皆様からの法人運営及び学校運営に関する平直なご意見、ご要望、ご指摘をお待ちしております。

**▼ 高専意見箱 送信フォーム ▼**

氏名  〔任意/匿名可〕

連絡先tel  〔任意〕

連絡先mail  〔任意〕

ご意見、ご要望、ご指摘等(分かりやすい表現で明確に記入して下さい)

区分(1)  〔選択必須〕

区分(2)  〔選択必須〕

事項名  〔必須〕 〔入力例:○○○○○以外〕

内容  〔必須〕

送信前に確認事項が実行されます

資料名「自己点検・評価報告書（平成 29 年 3 月）p.72～107」（27/36）

## IV 教育の成果及び改善システム

資料 4-3-3

## 平成 27 年度授業の公開 保護者・中学校教員アンケート結果

- ・保護者アンケート：28件 中学校教員アンケート：5件
- 【質問1 感想】良かった：28件 悪かった：0件 どちらでもない：3件 無回答：2件
- 【質問2 参加意思】是非：14件 時間があれば：18件 無回答：1件
- 【質問3 時期】保護者懇談会の週：21件（うち、「11月頃」も併記しているもの1件）  
6月下旬～7月上旬：3件 11月中旬：1件  
いつでも：3件 無回答：5件
- 【質問4 良い点】
- ・ 良いお天気ですがきつと赤は冷たいでしょう。でも3ヶ月が過ぎ元気そうな姿で安心しました。
  - ・ 内容はむずかしくてわからなかったのですが物理の考え方が法則の考えとかたいへん勉強になりました。雑学もまたおもしろかったです。ありがとうございました。
  - ・ 参観しやすかったです。
  - ・ 大震災を経験していない世代にとっては、体験に基づく講義は貴重だと思う。
  - ・ みなさん親切で、案内や声がけしていただいたので見学しやすかったです。
  - ・ 普段の授業風景が見られたと思う。
  - ・ 学生は廊下ですれ違った時あいさつを自らしてくれ礼儀正しかったです。授業はどのクラスどの学年も熱心に聞いていて好ましかった。
  - ・ 分かり易そうな（内容は分かりませんが）聞きとり易い授業でした。
  - ・ コンピューターの部屋にも入れて、どのような授業を受けているのか気になっていたの  
で、良かった。学食も食べれたので、久しぶりに学生気分が味わえた。

(出典：学内資料)

表 4-3-1 教育に関する教科間・学科間の連携懇談会

年度	開催月日	懇談会名
23	9月3日	委員会間連携懇談会
	9月26日	自然科学担当教員と専門学科教員との懇談会
	12月9日	キャリア支援教育懇談会
24	9月24日	学習支援に関する懇談会
	12月5日	インターンシップへの取り組みに関する懇談会
25	9月27日	クラス運営に関する懇談会
	11月28日	グローバルFDに関する懇談会
26	9月25日	授業外学習の可視化に関する懇談会
	12月3日	PDCAサイクルによる教育改善
27	9月28日	グローバル化に向けた取り組みに関する懇談会
	12月4日	学修単位化に向けての懇談会

## 資料名「自己点検・評価報告書（平成29年3月）p.72～107」（28/36）

## IV 教育の成果及び改善システム

表4-3-2 教職員対象の研修会（学内）

年度	分類	開催年月日	担当委員等
23	学校の危機管理について	H23. 6. 6	学生相談室
	科研を取りにいくということ	H23. 8. 30	FD委員会
	モデルコアカリキュラムについて	H23. 12. 19	FD委員会
24	あなたの教育にかける思いを教えてください・ティーチング・ポートフォリオの紹介・	H24. 8. 3	学生相談室・人権教育推進委員会
	教育・研究力向上のための外部研究資金獲得の重要性	H24. 9. 28	FD委員会
	医療・健康福祉領域への工学応用と医工学教育の必要性	H24. 11. 28	FD委員会
25	男女共同参画社会を目指して・国内外の動向と高専機構における取組・	H25. 6. 5	学生相談研修会・人権教育推進委員会
	次世代型教育手法実践モデル構築事業について	H25. 12. 4	総務課、FD委員会
	青少年のネットでの問題行為	H25. 3. 6	学生相談研修会・人権教育推進委員会
	富山高専におけるビジネス系学科の現状	H26. 3. 17	総務課、FD委員会
26	ACTIVE LEARNING (CDIO 研修会)	H26. 6. 5	FD委員会
	人事交流報告会	H26. 8. 5	FD委員会
	科学研究費補助金ーその申請におけるポイント	H26. 9. 1	FD委員会
	インド工科大学カンブール校における教育・研究とアクティブラーニングの現状	H27. 2. 19	FD委員会
27	英語による授業研修	H28. 3. 15	グローバルエデュケーションセンター、FD委員会

資料名「自己点検・評価報告書（平成29年3月）p.72～107」（29/36）

IV 教育の成果及び改善システム

資料4-3-4

平成27年度新規採用等教職員研修会

1. 開催日時：平成27年4月1日（火）13時30分～
2. 場 所：一般管理棟3階 大会議室
3. 受講対象者：H26.7.1以降本校の教職員となった者で同様の研修未受講の者（非常勤教職員除く）

所 属	職 名	氏 名	採用日等
一般科目	助 教	*****	*****
一般科目	助 教	*****	*****
都市理工学科	准教授	*****	*****
総務課	財務係主任	*****	*****
総務課	人事係員	*****	*****
学生課	学生係員	*****	*****
総務課	施設係員	*****	*****
	特命助教	*****	*****
	特命助教	*****	*****
	特命助教	*****	*****
	リサーチ・アドバイザー	*****	*****
	リサーチ・アドバイザー	*****	*****
	リサーチ・アドバイザー	*****	*****

教員3名、職員4名、有期雇用教職員6名 計13名

4. 研修内容等

時 間	研 修 内 容	講 師
13:30～13:45(15分)	副校長講話	副校長
13:45～14:15(30分)	教務・学生・事務に関する話	副校長（教務主事） 校長補佐（学生主事） 校長補佐（事務主事）
14:15～14:30(15分)	明石高専の組織・管理運営について	事務部長
14:30～14:50(20分)	ハラスメントの防止等について DVD「なくそう、あごう、アカ デミック・ハラスメント」鑑賞(約12分)	学生相談室長
14:50～15:00(10分)	休 憩	
15:00～15:15(15分)	公的研究費の不正使用防止について	総務課課長補佐
15:15～15:35(20分)	情報セキュリティ、校内ネットワーク について	情報図書係長
15:35～15:55(20分)	就業規則等について	総務課課長補佐
15:55～16:30(35分)	変形労働時間制、労働状況記録簿記入 説明 及び事務手続き等	人事係

○休憩以降については、H27.4.1異動の6名以外は自由参加とする。

(出典：学内資料)



## 資料名「自己点検・評価報告書（平成 29 年 3 月） p.72～107」（30/36）

## IV 教育の成果及び改善システム

## 資料 4-3-5 教員マニュアル（抜粋）

## 教員マニュアル

FD 委員会作成

## 1. 高等教育機関

- (1)教育と研究の両立
- (2)高専と大学の相違
- (3)教育の 3 本柱：授業、学生指導、これに係わる校務
- (4)「教育=教科の教育」ではない。授業は教育の柱であっても全体ではない。
- (5)学生としての自覚・自律を求めつつ、必要に応じて高校的な教育方法（例：学生生活における指導、欠席遅刻に対する指導、いわゆる一般の高校で行われている生活指導、LHR を通じた道徳的な指導、黒板や教室の掃除の指導、各種委員の責務の徹底、学生と教員相互による日誌の記述、日直業務の徹底等）を加味しなければならない。
- (6)自由をはき違えることのないように適切に指導しなければならない（例：アルバイト、車、飲酒・喫煙、その他）。

## 2. 明石高専の特色と教育目的

- (1)中学卒業程度以上を入学資格とし、学科 5 年間で専攻科 2 年間の教育を行う学校であり、次の特色がある。①幅広い教養教育と早期専門教育 ②実験・実習・演習の重視 ③学科卒業生には「準学士」、専攻科修了生には「学士」の授与 ④多様な進路の保障
- (2)豊かな教養と感性を育てると共に、科学技術の進歩に対応した専門の知識・技術を教授し、次の能力を備えた技術者を養成することを目的にしている。①健康な心身と豊かな人間性 ②柔軟な問題解決能力 ③実践的な技術力 ④豊かな国際性と指導力

【明石高専ホームページ】（学校案内—本校の使命と教育目的）を参照

（出典 明石工業高等専門学校 教員マニュアル）

## 資料 4-3-6 授業点検書集計

授業科目名	担当教員	クラス	講義・演習・実験	はい:1、いいえ:0									「はい」の場合の具体例	
				1	2	3	4	5	6	7	8	9		
1 情報基礎	***	1M	講義	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	授業毎に演習時間を設け、自主的な取り組みにより理解を深めさせている
2 機械工学実習 I	***	1M	講義	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
3 機械加工学 I	***	1M	講義	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
4 防災リテラシー	***	1M	講義	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
5 設計製図 I	***	1M	講義	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
6 工作実習 I	***	1M	講義	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

（出典 授業点検書集計結果）

## 資料名「自己点検・評価報告書（平成 29 年 3 月）p.72～107」（31/36）

## IV 教育の成果及び改善システム

## 資料 4-3-7 平成 27 年度授業アンケートの集計結果（【担当教員からの講評】抜粋）

## 担当教員からの講評

- ・結果より概ね良好と考える。今後もこの授業がより良くなるよう努力したい。
- ・よい評価をいただきました。ただ、全般的にレポートの仕上がりは、例年より悪かったと思います。概ね良好かと存じます。
- ・特に問題がないようですので、来年度も同様の方法で講義を行っていきます。
- ・前半は難しい内容だったと思いますが、電気電子系の学生もがんばっていたと思います。授業がやりやすかったです。
- ・当初の受講希望者は 8 名であったが、最後まで受講したのは 6 名である。定期試験を実施せず、授業を行って直ちに演習を実施した。演習の実施回数は 12 回である。受講生 6 名は最後まで、良く取り組んでいた。
- ・今年度、授業で使用するスライドをすべて英語で書き換えました。それに対するコメントがなかったのは残念ですが、どの項目もまずまずの評価となりました。
- ・プログラミング課題の提案がありましたが、シラバスの自己学習のところで 2 つのプログラムの作成が必要としています。次年度以降は自己学習について詳しく説明します。
- ・概ね良い評価が得られたと思います。機械、電気の学生さんにとってはあまり馴染みのない分野で、課題も難しく感じたとと思いますが、しっかり取り組んでくれたと思います。
- ・研究テーマに関して不満（問題）があるようです。教員側にも改善の余地はあると思いますが、教員が決めたテーマであっても、そのテーマの背景や問題点を調べて解決方法を模索することが、研究に求められることであると思います。また、与えられたテーマの中で、自分の興味を見出すことも必要であると思います。

(出典 授業アンケート集計結果)

## 資料 4-3-8 平成 27 年度授業アンケート集計結果（【授業の改善すべき点】抜粋）

## 授業の改善すべき点（項目のみ）

1. 説明の仕方
2. 授業の進め方・工夫
3. 黒板の使い方
4. 教材等
5. 課題等
6. 試験・評価
7. その他

(出典 授業アンケート集計結果)

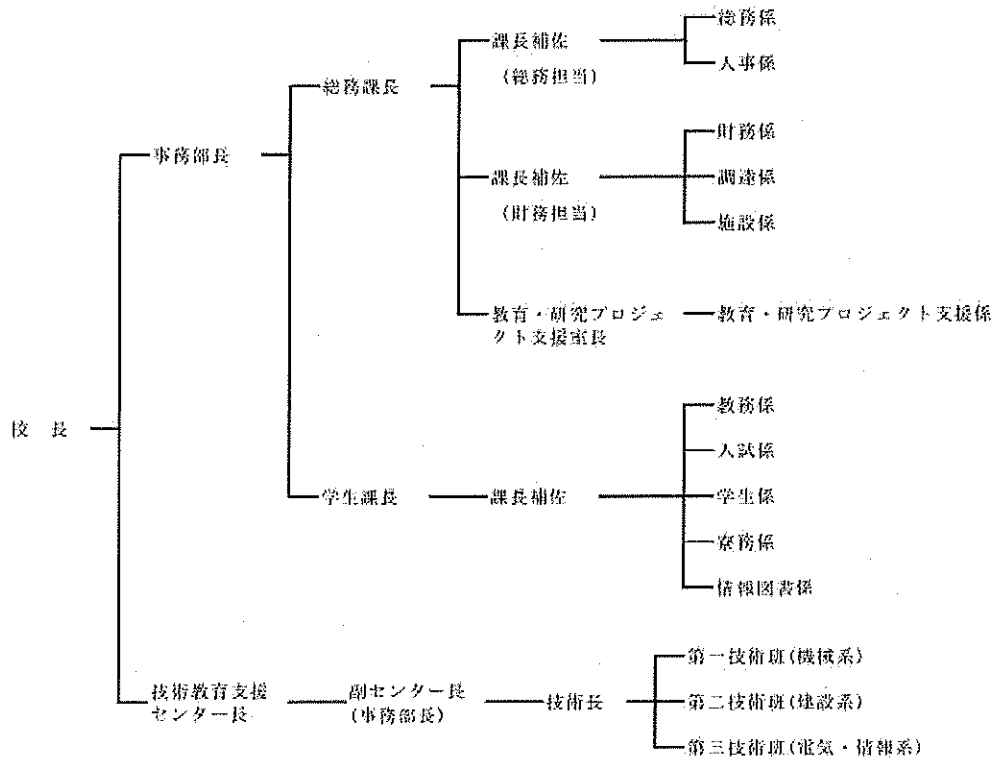
資料名「自己点検・評価報告書（平成 29 年 3 月）p.72～107」（32/36）

## IV 教育の成果及び改善システム

## 3.2 教育支援者等の資質向上

本校の事務職員及び技術職員の関係組織図を図 4-3-4 に示す。事務職員組織は事務部長以下 2 課体制となっており、組織及び所掌事務については事務組織規程（資料 4-3-9）、課長補佐及び各係の名称や事務分掌については事務分掌規程（資料 4-3-10）に定められている。また、技術職員組織は技術教育支援センター長（教員）以下、副センター長、技術長、3 技術班から構成されており、その業務については技術教育支援センター規則（資料 4-3-11）に定められている。

図 4-3-4 事務職員及び技術職員の関係組織図



## 資料名「自己点検・評価報告書（平成 29 年 3 月） p.72～107」（33 / 36）

## IV 教育の成果及び改善システム

## 資料 4-3-9

## 事務組織規程（抜粋）

## （趣旨）

第 1 条 この規程は、明石工業高等専門学校の事務組織及びその所掌事務について定める。

## （事務部の組織）

第 2 条 事務部に総務課及び学生課を置く。

## （総務課の事務）

第 3 条 総務課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学校の事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。
- (2) 儀式・会議、その他諸行事に関すること。
- (3) 学則その他諸規程の制定及び改廃に関すること
- (4) 内地研究員、在外研究員、教育研究集会等に関すること。
- (5) 科学研究費及び研究助成等に関すること。
- (6) 学術団体等との連絡に関すること。
- (7) 自己点検・評価、外部評価及び認証評価に関すること。
- (8) 広報及び情報公開に関すること。
- (9) 渉外に関すること。
- (10) 法人文書類の取受、発送、編集及び保管に関すること。

（出典 明石工業高等専門学校規則集）

## 資料 4-3-10

## 事務分掌規程（抜粋）

## （趣旨）

第 1 条 事務組織規程第 5 条第 3 項及び第 7 条第 2 項の規定に基づく課長補佐並びに各係の名称及び事務分掌については、この規程の定めるところによる。

## （総務課）

第 2 条 総務課に課長補佐（総務担当）、課長補佐（財務担当）、課長補佐（教育・研究プロジェクト支援室長）及び次の 6 係を置く。

総務係

人事係

財務係

調達係

施設係

教育・研究プロジェクト支援係

（出典 明石工業高等専門学校規則集）

## 資料名「自己点検・評価報告書（平成29年3月）p.72～107」（34/36）

## IV 教育の成果及び改善システム

## 資料4-3-11

## 技術教育支援センター規則（抜粋）

## （設置）

第1条 明石工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、教育・研究に関する技術的支援と専門的業務を円滑かつ効率的に行うため、技術教育支援センター（以下「センター」という。）を置く。

## （組織）

第2条 センターに、センター長、副センター長、技術長、技術専門職員及び技術職員を置く。

2 センターに、技術専門員を置くことができる。

3 前項に掲げる者のほか、特定事項の教育支援を行うため、専任教員を置くことができる。

4 センターに、第1技術班（機械系）、第2技術班（建設系）、第3技術班（電気・情報系）を置く。

## （業務）

第3条 センターは、本校の教育・研究の支援及び技術に関する次の業務を行う。

(1) 学生の実験実習、演習及び卒業研究に関する技術指導

(2) 全校を対象とした技術に関する業務

(3) 共同研究等における技術相談、技術協力及び技術指導に関すること

(4) センターの管理・運営に関すること

(5) その他、センター長が必要と認めたもの

2 前条第3項に定める各技術班においては、当該各分野に関する専門技術業務及び技術開発並びに学生の技術指導を行う。

（出典 明石工業高等専門学校規則集）

職員の資質向上のため、学内及び学外で種々の研修会が開催されている。学内で開催される教職員対象の研修については、総務課人事係が全教職員に対して周知している（資料4-3-12）。開催状況は表4-3-2に示すとおりである。学外で開催される研修については毎年度当初に参加計画を策定し、適切な研修会に適正な人員が参加している。参加状況を表4-3-3に示す。

資料名「自己点検・評価報告書（平成 29 年 3 月）p.72～107」（35 / 36）

IV 教育の成果及び改善システム

資料 4-3-12

Subject: 【通知】SD 研修会の開催について

Date: Tue, 2 Feb 2016 08:42:42 +0900

From: 総務課人事係 <jinji.jim@akashi.ac.jp>

To: anet-o.stf@akashi.ac.jp

平成 28 年 2 月 2 日

職員各位

事務部長

SD 研修会の開催について

このたび、職員の資質向上のため、下記のとおり SD 研修会を開催いたしますので、お知らせいたします。

※SD（スタッフ・ディベロップメント）とは、事務職や技術職などの職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取り組みを指す。

記

1. 日時 平成 28 年 2 月 16 日（火）13:00～15:00
2. 場所 合併教室
3. 対象 事務職員及び技術職員
4. 目的 職員の意識を高め、仕事へのモチベーションを高めるとともに、職員間のコミュニケーションを図る機会とする
5. 内容 コミュニケーション講座
6. 講師 NPO 法人シミンズシーズ 柏木輝恵 氏 （出典：学内メール）

表 4-3-3 事務職員・技術職員の研修実績

研修会等名称	23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		主催等
	技術	事務	技術	事務	技術	事務	技術	事務	技術	事務	
近畿地区国立高専技術職員研修			2	0			4	0			近畿地区国立高専
近畿地区国立高専技術職員懇話会	2	0			9	1			2	0	近畿地区国立高専
西日本地域高専技術職員特別研修会			1	0	1	0			1	0	国立高専機構
新任課長研修							0	1	0	1	国立高専機構
新任課長補佐研修会	0	2			0	1	0	1	0	2	国立高専機構
新任係長研修会	0	2	0	2			0	2	0	2	国立高専機構
初任職員研修会	0	3	1	1	1	2	1	2	0	3	国立高専機構
学務関係職員研修会	0	1	0	1	0	1	0	1			国立高専機構
労務管理研修					0	1	0	3	0	1	国立高専機構
会計入門研修					0	1			1	2	国立高専機構
独法講習研修	0	1	0	1			0	2	0	2	国立高専機構
箱倉研修会		1		1		2		4	0	3	国立高専機構
施設担当職員研修会			1	0	1	0			1	0	国立高専機構
情報担当職員研修会			0	1	0	1					国立高専機構
IT人材育成研修会									1	0	国立高専機構
近畿地区研究・知的財産契約業務研修									0	2	国立高専機構
三徳潤澤連携技術科学大学ベナン校SD海外研修							0	1			国立高専機構
近畿地区中堅係員研修	0	1	0	1			1	0	1	1	人學院近畿事務局
近畿地区課長補佐研修			0	1							人學院近畿事務局
近畿地区課長研修							0	1			人學院近畿事務局
兵庫県下教育機関事務系職員（新採用者）研修	0	3	1	1	1	2	1	1	0	1	兵庫県立大学
アプリケーションソフト研修			0	5			0	2			神戸大学
近畿地区学生指導研修会			0	1			0	1	0	1	東海・北陸・近畿地区学生指導研究会
近畿地区国立大学法人等会計事務研修					0	1	0	1			国立大学協会近畿地区支団
国立大学法人等施設担当職員研修会					1	0	1	0			国立大学
情報システム統一研修			0	2	0	1	1	1	1	0	総務省
委員会研修			1	2	2	1	2	1	1	1	明石高専
SD研修							11	13	11	11	明石高専

## IV 教育の成果及び改善システム

## 4. 優れた点及び改善を要する点

## (優れた点)

- ・卒業時及び専攻科修了時における学生の学習・教育目標の達成度評価システムが確立している。
- ・各授業に対する学生や他の教員による授業評価システムが確立しており、その結果を教員にフィードバックし、授業改善を行っている。
- ・準学士課程及び専攻科課程において、研究成果の学会等への発表が積極的に行われており、学会等から表彰を受けた学生が多い。
- ・専攻科修了生、進路先企業及び大学院から、修了生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見をアンケートにより聴取して、改善策を講じてそれを実行している。
- ・FD委員会、教務委員会、専攻科・JABEE委員会を中心として教育活動の実態を示すデータや資料を収集・蓄積し、その評価結果を教育改善に繋げる体制を整備している。それらの活動と有識者懇談会の提言から、国際交流センターをグローバルエデュケーションセンターに改組し、アクティブラーニングセンターを設置した。
- ・毎年授業公開の期間を設け、全授業を教員、保護者、中学校教員に公開するとともに、研究授業を設定し各科で授業改善のための取組を実施している。
- ・授業アンケートの結果を、学内LANを通して全教職員及び学生に公表している。

## (改善を要する点)

- ・学習・教育目標のうち、「国際性と指導力」について専攻科修了生の達成度が不十分であるとの意見が、企業、大学院でそれぞれ36%、18%あった。その結果を踏まえて、国際性については平成27年度、学科1年生に科目「グローバルスタディーズI」を新設し、英語を自主的に学べる場所「グローバルエデュケーションオフィス（通称：グローバルテラス）」を設置するなどした。一方、指導力については学科・学年を横断してPBLとアクティブラーニングを実践する科目を平成28年度に導入する。それらの効果を客観的に公正に見極め、次のアクションを考えることが必要である。

## 資料名「学習環境に関する評価を踏まえていることがわかる資料」

学生からの「学校に対する要望書」の中から、学習環境に関する意見とその回答を抜粋

No. 29-5-8 の回答後の本校学生課の対応状況について

新システム（入試・教務システム）の開発は、機構本部情報企画課において進められている。開発の遅れから、他の要望が未対応であるため、「メールによる授業変更の通知機能を開発」の要望は控えている。タイミングをみて要望をしていくこととしたい。

整理 No.	要望等	回答
29-5-4	情報処理センターのPCについて2クラス同時使用でも動作速度を上げてほしい。	OSの仕様により常時回線を使うため動作が重くなることがあるとの報告を受けました。情報担当者からは日々改善を行いますとのことですので。ご理解ください。
29-5-5	学修単位制で通年科目が半期になったためシラバス(エンジニアリング)に無理が生じている。	学修単位制の導入の前提として学習時間を自ら補うこととしています。多様なスキルを自学自習により習得してください。
29-5-8	授業変更についてメール等でも連絡してほしい。	現在、新システム導入(平成31年度)の検討を行っています。確約はできませんがメールによる授業変更の通知機能を開発担当部署へ要望します。
29-5-10	エアコンの設定温度を見直して欲しい。	たぶんほとんどの教職員も学生と同じ思いで過ごしていますが、温暖化対策の一環なのでできません。節度を保ちつつ服装で調整してください。

出典「明石高専イントラネット 学生の皆さんからの「学校に対する要望書」について  
(回答29-5)」



資料名「学生による教育・学習の達成度に関する評価を踏まえていることがわかる資料」(1/2)

学生による学習・教育目標の達成度評価集計表

平成25年度				
学習目標	準学士課程		専攻科課程	
	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年
(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身	3.94	3.77	4.19	4.31
(B)国際性と指導力	3.51	4.02	3.93	4.20
(C)技術者倫理	3.79	4.02	4.19	4.37
(D)基礎学力と自主的・継続的学習能力	3.71	3.94	4.12	4.36
(E)コミュニケーション能力	3.78	3.97	4.04	4.37
(F)柔軟かつ創造的な設計能力	3.65	3.86	4.23	4.41
(G)実践的な問題解決能力	3.66	3.94	4.12	4.47
(H)多角的なシステム思考	3.54	3.93	4.12	4.36
評価:十分達成できた(5)、ある程度達成できた(4)、普通(3)、あまり達成できなかった(2)、達成できなかった(1)				
平成26年度				
学習目標	準学士課程		専攻科課程	
	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年
(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身	3.74	3.46	4.52	4.24
(B)国際性と指導力	3.46	3.69	4.26	3.99
(C)技術者倫理	3.63	3.69	4.46	4.17
(D)基礎学力と自主的・継続的学習能力	3.59	3.80	3.97	4.27
(E)コミュニケーション能力	3.57	3.67	4.47	4.10
(F)柔軟かつ創造的な設計能力	3.62	3.50	4.41	4.14
(G)実践的な問題解決能力	3.65	3.57	4.46	4.21
(H)多角的なシステム思考	3.56	3.62	4.36	3.80
評価:十分達成できた(5)、ある程度達成できた(4)、普通(3)、あまり達成できなかった(2)、達成できなかった(1)				
平成27年度				
学習目標	準学士課程		専攻科課程	
	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年
(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身	3.61	3.50	4.04	4.52
(B)国際性と指導力	3.40	3.78	4.00	3.35
(C)技術者倫理	3.65	3.78	4.42	4.49
(D)基礎学力と自主的・継続的学習能力	3.56	3.59	4.00	3.93
(E)コミュニケーション能力	3.63	3.60	4.21	3.83
(F)柔軟かつ創造的な設計能力	3.46	3.63	4.29	3.79
(G)実践的な問題解決能力	3.63	3.70	3.96	4.12
(H)多角的なシステム思考	3.37	3.62	4.25	4.16
評価:十分達成できた(5)、ある程度達成できた(4)、普通(3)、あまり達成できなかった(2)、達成できなかった(1)				
平成28年度				
学習目標	準学士課程		専攻科課程	
	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年
(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身		3.69	3.75	3.68
(B)国際性と指導力		3.17	3.24	3.50
(C)技術者倫理		3.46	3.84	3.90
(D)基礎学力と自主的・継続的学習能力		3.72	3.50	4.05
(E)コミュニケーション能力		3.38	3.34	3.80
(F)柔軟かつ創造的な設計能力		3.28	3.50	3.89
(G)実践的な問題解決能力		3.52	3.27	4.05
(H)多角的なシステム思考		3.55	3.24	3.81
評価:十分達成できた(5)、ある程度達成できた(4)、普通(3)、あまり達成できなかった(2)、達成できなかった(1)				

※平成29年度未集計

出典「平成25～28年度の学生による学習・教育目標の達成度評価を集計、平成28年度集計結果の詳細」

資料名「学生による教育・学習の達成度に関する評価を踏まえていることがわかる資料」(2/2)

平成28年度学習教育目標達成度自己評価の集計結果

本科5年および専攻科の各クラスにおいて、目標達成度自己評価のアンケートを後期末に実施した。

アンケート概要

次の(A)~(H)の項目の達成度および、達成度の自己点検結果を自分の学習に反映させているか(反映)の合計9項目について、学生が5段階で自己評価を行った。

アンケート項目

- (A)「共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身」
- (B)「国際性と指導力」
- (C)「技術者倫理」
- (D)「基礎学力、自主的・継続的学習能力」
- (E)「コミュニケーション能力」
- (F)「柔軟かつ創造的な設計能力」
- (G)「実践的な問題解決能力」
- (H)「多次元的なシステム思考」

5段階評価

- 5：十分達成できた
- 4：ある程度達成できた
- 3：普通
- 2：あまり達成できなかった
- 1：達成できなかった

(反映)「学習・教育目標に対する達成度の自己点検結果を自分の学習に反映させているか」

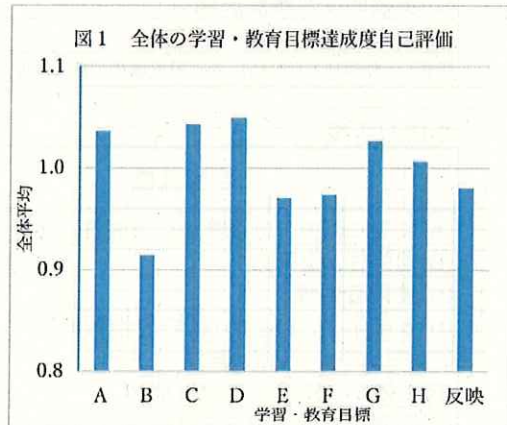
集計結果

全クラスの集計結果

図1に全体の学習・教育目標達成度自己評価の集計結果を示す。どの項目とも比率1付近となっている。

(A)「豊かな人間性」、(C)「技術者倫理」の値が高く、(B)「国際性と指導力」の値が低いという点は、平成27年度と同様の傾向である。

今年度は、(D)「基礎学力、自主的・継続的学習能力」の値が高くなっており、自律的に学習できる学生が増えてきている傾向が読み取れる。(反映)の値も上昇しており、自己点検結果を踏まえてPDCAサイクルを回すことが学生全体に定着しつつあると考えられる。



クラス別の集計結果

表1にクラス別の集計結果を示す。全体的には、学年が上がる毎に平均値も高くなる傾向にある。

	学習・教育目標																		9項目平均	
	A		B		C		D		E		F		G		H		反映			
	5段階平均	比率	5段階平均	比率	5段階平均	比率	5段階平均	比率	5段階平均	比率	5段階平均	比率	5段階平均	比率	5段階平均	比率	5段階平均	比率		
5M	3.90	1.10	3.20	0.91	3.60	1.02	3.80	1.08	3.40	0.96	3.30	0.93	3.80	1.08	3.60	1.02	3.70	1.05	3.59	1.02
5E	3.54	1.00	3.08	0.87	3.58	1.01	3.58	1.01	3.13	0.88	3.33	0.94	3.42	0.97	3.33	0.94	3.33	0.94	3.37	0.95
5C	3.43	0.97	2.71	0.77	3.00	0.85	3.71	1.05	2.86	0.81	3.14	0.89	3.29	0.93	3.71	1.05	3.14	0.89	3.22	0.91
5E	3.89	1.10	3.67	1.04	3.67	1.04	3.78	1.07	4.11	1.16	3.33	0.94	3.56	1.01	3.56	1.01	3.56	1.01	3.68	1.04
1ME	3.50	0.99	2.80	0.79	4.00	1.13	3.00	0.85	3.00	0.85	3.00	0.85	3.20	0.91	2.80	0.79	2.70	0.76	3.11	0.88
1AC	4.00	1.13	3.67	1.04	3.67	1.04	4.00	1.13	3.67	1.04	4.00	1.13	3.33	0.94	3.67	1.04	4.33	1.23	3.81	1.08
2ME	3.50	0.99	3.30	0.93	3.80	1.08	4.10	1.16	3.60	1.02	4.00	1.13	4.50	1.27	4.10	1.16	4.00	1.13	3.88	1.10
2AC	3.85	1.09	3.69	1.04	4.00	1.13	4.00	1.13	4.00	1.13	3.77	1.07	3.85	1.09	4.00	1.13	3.62	1.02	3.86	1.09
全体	3.66	1.04	3.23	0.91	3.69	1.04	3.71	1.05	3.43	0.97	3.44	0.97	3.63	1.03	3.56	1.01	3.47	0.98	3.53	1.00

## 資料名「学生による満足度評価を踏まえていることがわかる資料」(1/2)

本科 1~4 年生へのアンケート (学校生活に関する項目を抽出)

高専生活に関するアンケート(平成29年度)					
○ このアンケートは、あなたが、より充実した学生生活を送れるように支援する目的で、学生相談室が実施しています。					
通常の健康診断と同様、記名のアンケートです。必ず氏名・実施日等記入して下さい。回答はマークシートにして下さい。(質問は両面です)					
マークシート用紙の番号欄に、右詰で学籍番号の数字4ケタを記入し、その下欄にマークして下さい。					
○ 今、困っていることや気になることなど、学生相談室に対応してほしいことがあれば、マークシート用紙の裏に書いてください。					
○ あなたの許可なく、第三者に内容を伝えることはありません。安心して思っていることをありのままに答えて下さい。					
○ 相談室員は、あなたの力になりたいと思っています。別紙の学生相談室案内をご覧ください、いつでも気軽に相談に来てください。					
あなたの最近の体調や気持ちについて質問します。いちばん、よくあてはまる答えを <b>マークシートにマークして下さい。</b>					
2	先生と話す機会を持つようとしている。	そのとおり 1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう 4
14	私は、先生に親しみやすさを感じる。	そのとおり 1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう 4
23	私は、この学校で気軽に話せる先生がいる。	そのとおり 1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう 4
25	私は、授業をよく理解している。	そのとおり 1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう 4
30	ホームルーム活動や、行事には、協力的である。	そのとおり 1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう 4
32	学校の規則は、当たり前だと思う。	そのとおり 1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう 4
34	私は、この学校の先生を信頼している。	そのとおり 1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう 4
43	私は、この学校で相談できる先生がいる。	そのとおり 1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう 4
46	友達がいるから学校が楽しい。	そのとおり 1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう 4
50	課外活動(運動・文化活動 学生会を含む)に入っている。「はい」は1 「いいえ」は4にマーク	はい 1			いいえ 4
☆以下 51~55は、問 50で「はい」に○をつけた人だけ答えてください。					
51	私は、課外活動に意欲的に取り組んでいる。	そのとおり 1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう 4
52	私は、課外活動に自主的に参加している。	そのとおり 1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう 4
53	課外活動をやることで、何かをやり遂げているという実感が得られる。	そのとおり 1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう 4
54	課外活動があるから学校が楽しい。	そのとおり 1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう 4
55	私は、課外活動に参加することが楽しい。	そのとおり 1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう 4

※集計結果は、必要に応じて実地審査時に示します。

## 資料名「学生による満足度評価を踏まえていることがわかる資料」(2/2)

本科5年生・専攻科生へのアンケート(学校生活に関する項目を抽出)

高専生活に関するアンケート(平成29年度)					
○ このアンケートは、あなたが、より充実した学生生活を送れるように支援する目的で、学生相談室が実施しています。					
通常の健康診断と同様、記名のアンケートです。必ず氏名・実施日等記入して下さい。回答はマークシートにして下さい。(質問は両面です)					
マークシート用紙の番号欄に、右詰で学籍番号の数字4ケタを記入し、その下欄にマークして下さい。					
○ 今、困っていることや気になることなど、学生相談室に対応してほしいことがあれば、マークシート用紙の裏に書いてください。					
○ あなたの許可なく、第三者に内容を伝えることはありません。安心して思っていることをありのままに答えて下さい。					
○ 相談室員は、あなたの力になりたいと思っています。別紙の学生相談室案内をご覧ください、いつでも気軽に相談に来てください。					
あなたの最近の体調や気持ちについて質問します。いちばん、よくあてはまる答えをマークシートにマークして下さい。					
2	先生と話す機会を持つとしている。	そのとおり1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう4
14	私は、先生に親しみやすさを感じる。	そのとおり1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう4
23	私は、この学校で気軽に話せる先生がいる。	そのとおり1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう4
25	私は、授業をよく理解している。	そのとおり1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう4
30	ホームルーム活動や、行事には、協力的である。	そのとおり1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう4
32	学校の規則は、当たり前だと思う。	そのとおり1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう4
34	私は、この学校の先生を信頼している。	そのとおり1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう4
43	私は、この学校で相談できる先生がいる。	そのとおり1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう4
46	友達がいるから学校が楽しい。	そのとおり1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう4
以下は、研究に関する質問です。					
51	教職員の私に対する態度が周囲の友人に対するものと比べ厳しい。	そのとおり1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう4
52	学習指導や研究指導が十分に受けられていない。	そのとおり1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう4
53	学業や研究に無関係な業務や作業を教職員から強制されたことがある。	そのとおり1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう4
54	教職員より脅迫めいた言葉を投げかけられたことがある。	そのとおり1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう4
55	学習指導や研究指導が理不尽な時間に設定されることがある。	そのとおり1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう4
56	卒業研究や特別研究にやり甲斐を感じている。	そのとおり1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう4
57	指導教員とのコミュニケーションがとれている。	そのとおり1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう4
58	指導教員は、私のことをよく理解している。	そのとおり1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう4
59	一生懸命に取り組んでいるが、研究が思うように進まない。	そのとおり1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう4
60	現在の研究テーマを変更したい。	そのとおり1	どちらかと 言えばそう 2	どちらかと 言えばちがう 3	全くちがう4

※集計結果は、必要に応じて実地審査時に示します。

出典「平成29年度高専生活に関するアンケート」

## 資料名「外部有識者懇談会実施一覧表」

## 明石工業高等専門学校 有識者懇談会

年度	実施日	テーマ	有識者氏名 (◎は座長、敬称略)	所属・職名
H25	H26. 2. 7	地域連携を活かした人材育成 について	◎奥村 弘 東元 良宏 高橋 嗣郎 富田 康雄 平岡 勝功 江角 清次	神戸大学地域連携推進室長 兵庫県東播磨県民局県民室長 明石市副市長 高砂市副市長 明石商工会議所会頭 三菱重工業株式会社高砂製作所所長代理
H26	H26. 11. 28	グローバル人材の育成と 今後の展望	◎笠井 秀明 藤本 晶 佐野 正新 陸山 慎吾 和田 満	大阪大学大学院工学研究科附属高度人材育成センター長 和歌山工業高等専門学校専攻科長 産業創造研究機構技術移転部門長 兵庫県中学校長会会長(神戸市立鈴蘭台中学校長) 明石市副市長
H27	H28. 1. 27	明石高专における15歳からの グローバル・コンピテンシー 【AP事業共催】	◎藤田 清士 今井 貴弘 小林 一木 時任 隼平	大阪大学大学院工学研究科国際交流推進センター長 川崎重工業株式会社人事部採用課基幹職 株式会社ベネッセコーポレーション高校事業部アセスメント開発ユニット長 関西学院大学高等教育推進センター専任講師
H28	H28. 1. 31	自立、協働、創造の力を向上させる ためのカリキュラムについて 【AP事業共催】	◎秋田 喜代美 鈴木 克明 加治佐 哲也 八木 雅夫	東京大学大学院教育学研究科教授 熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻長 独立行政法人国立高等専門学校機構監事 独立行政法人国立高等専門学校機構教育研究調査室長
	H29. 2. 6	近畿地区7高专連携による 防災技能を有した技術者教育の構築	◎藤田 一郎 小西 敏敬 小林 哲生 荒木 俊光	神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻教授 明石市総合安全対策局長 錦浦校区まちづくり協議会長 公益社団法人兵庫工業会常任理事事務局長
H29	H30. 1. 31	地域と協働できるPBLの場づくり に向けて 【AP事業共催】	◎田端 和彦 三浦 一郎 柏木 登起	兵庫大学・兵庫大学短期大学部副学長 姫路市手柄小学校教諭 特定非営利活動法人シミズシーズ代表理事

出典「平成 25～29 年度有識者懇談会報告書」から作成

## 資料名「外部有識者の検証がわかる資料（有識者懇談会）」

平成29年度 大学教育再生加速プログラム  
「テーマⅠ アクティブ・ラーニング」  
＜有識者懇談会＞次第

日時 平成30年1月31日（水）15:00～17:00

場所 明石工業高等専門学校 一般管理棟3階 大会議室

テーマ 「地域と協働できるPBLの場づくりに向けて」

参加者 外部有識者 3名

教員 13名（校長、副校長、校長補佐、各学科長及び一般科目長、  
アクティブラーニングセンター長  
イノベーションオフィス長、石田特命准教授）

事務職員 8名（事務部長、各課長、各課長補佐、総務・人事チーム係長）

（スケジュール）

【懇談会】

15:00～15:10 開会、校長挨拶、有識者自己紹介

15:10～15:20 本校取り組みについての紹介

15:20～16:20 活動紹介・学校やAP事業に対する提言

{ 15:20～15:35 田端 和彦 氏（兵庫大学）

{ 15:35～15:50 三浦 一郎 氏（姫路市立手柄小学校）

{ 15:50～16:05 柏木 登起 氏（NPO法人シミズシーズ）

16:05～16:55 意見交換

16:55～17:00 校長謝辞、閉会

## 資料名「教育活動に関する第三者評価がわかる資料」(1/2)

## 点検評価活動のページ

お問い合わせ | 交通アクセス・キャンパスマップ | 教育・研究施設 | 教職員公募  
 受験生の方 | 学生・保護者の方 | 地域・企業の方 | 卒業生の方

Japanese | English

検索

トップページ >> 学校案内 >> 点検評価活動 >>

## 学校案内

校長挨拶

本校の使命と教育目的

三つのポリシー

本校の特色

沿革

学生歌・校章

教育・研究施設

同窓会

JABEE認定プログラム

広報誌・パンフレット

## 点検評価活動

平成28年度 自己点検・評価報告書

平成22年度 自己点検・評価報告書

平成17年度 自己点検・評価報告書

平成23年度 高等専門学校機関別認証評価 自己評価書

平成17年度 高等専門学校機関別認証評価 自己評価書

平成23年度 選択的評価事項に係る評価 自己評価書

## 組織

教育情報の公表

オープンデータ

学科・専攻科

入試情報

学生生活

就職・進学

教育・研究

地域・国際連携

産学官連携

リンク集

## 点検評価活動

## 一 自己点検・評価報告書

- 平成28年度
- 平成22年度
- 平成17年度

## 一 高等専門学校機関別認証評価 自己評価書

- 平成23年度
- 平成17年度

## 一 認証評価結果

- 平成23年度認証評価結果【PDF】(独立行政法人 大学評価・学位授与機構)
- 平成17年度認証評価結果【PDF】(独立行政法人 大学評価・学位授与機構)

## 一 選択的評価事項に係る評価 自己評価書

- 平成23年度

学校案内 | 学科・専攻科 | 入試情報 | 学生生活 | 就職・進学 | 教育・研究 | 地域・国際連携 | 産学官連携 | Facebook | Twitter

〒674-8501 兵庫県明石市魚住町西岡 679-3 078-946-6017 (代表)  
 >> お問い合わせ >> プライバシーポリシー >> リンク集

学校案内

校長挨拶

学科・専攻科

一般科目

入試情報

入試情報一覧

学生生活

時間割・授業時間

就職・進学

学科進学状況

教育・研究

Jabee認定プログラム

## 資料名「教育活動に関する第三者評価がわかる資料」(2/2)

## 平成23年度機関別認証評価のページ

お問い合わせ | 交通アクセス・キャンパスマップ | 教育・研究施設 | 教職員公募  
 受験生の方 | 学生・保護者の方 | 地域・企業の方 | 卒業生の方

Japanese | English  
 校章

トップページ » 学校案内 » 点検評価活動 » 平成23年度 高等専門学校機関別認証評価... »

## 学校案内

校長挨拶

本校の使命と教育目的

三つのポリシー

本校の特色

沿革

学生寮・校章

教育・研究施設

同窓会

JABEE認定プログラム

広報誌・パンフレット

点検評価活動

平成28年度 自己点検・評価報告書

平成22年度 自己点検・評価報告書

平成17年度 自己点検・評価報告書

平成23年度 高等専門学校機関別認証評価 自己評価書

平成17年度 高等専門学校機関別認証評価 自己評価書

平成23年度 選択的評価事項に係る評価 自己評価書

組織

教育情報の公表

オープンデータ

学科・専攻科

入試情報

学生生活

就職・進学

教育・研究

地域・国際連携

産学官連携

リンク集

## 平成23年度 高等専門学校機関別認証評価 自己評価書

対象高等専門学校の現況及び特徴【PDF 126KB】

1. 目的【PDF 116KB】

2. 基準ごとの自己評価

- ・ 基準1 高等専門学校への目的【PDF 2.3MB】
- ・ 基準2 教育組織【PDF 593KB】
- ・ 基準3 教員及び教育支援者【PDF 1MB】
- ・ 基準4 学生の受入【PDF 1.8MB】
- ・ 基準5 教育内容及び方法【PDF 81.1MB】
- ・ 基準6 教育の成果【PDF 1.8MB】
- ・ 基準7 学生支援等【PDF 4.6B】
- ・ 基準8 施設・設備【PDF 2.9MB】
- ・ 基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム【PDF 27.3MB】
- ・ 基準10 財務【PDF 4.3MB】
- ・ 基準11 管理運営【PDF 3.8MB】

本校は、平成23年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構が実施する高等専門学校機関別認証評価・選択的評価事項に係る評価を要請し、高等専門学校評価基準を満たしていると認定されました。

- ・ 認定結果報告書【PDF 636KB】
- ・ 選択的評価事項に係る認定結果報告書【PDF 386KB】
- ・ 認定書【PDF 307KB】

学校案内 | 学科・専攻科 | 入試情報 | 学生生活 | 就職・進学 | 教育・研究 | 地域・国際連携 | 産学官連携 | Facebook | Twitter

〒674-8501 兵庫県明石市魚住町西岡 679-3 078-946-6017 (代表)  
 » お問い合わせ » プライバシーポリシー » リンク集

学校案内

校長挨拶

学科・専攻科

一般科目

入試情報

入試情報一覧

学生生活

時間割・授業時間

就職・進学

学科進学状況

教育・研究

Jabee認定プログラム



資料名「実施体制がわかる資料（アクティブラーニングセンター規則、FD部門要項）」（1/2）

アクティブラーニングセンター規則

（設置）

第1条 明石工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、課題解決型の能動的学修方法の開発及び実践のためアクティブラーニングセンター（以下、「センター」という。）を置く。

（業務）

第2条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 教育方法の開発・実践
- (2) 教育資源の開発・共有
- (3) 教育環境の開発・運用
- (4) 教育効果の評価
- (5) 教員研修に関する事
- (6) 教育活動の点検・改善

（部門）

第3条 センターの業務を円滑に実施するため、次の部門を置く。

- (1) 教育方法・教育資源・教育環境開発部門
- (2) 教育効果評価部門
- (3) FD部門

2 教育方法・教育資源・教育環境開発部門は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 教育方法の開発及び実践に関する事。
- (2) 教育資源の開発及び共有に関する事。
- (3) 教育環境の開発・運用に関する事。

3 教育効果評価部門は、教育効果の評価に関する業務を行う。

4 FD部門は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 教員研修に関する事。
- (2) 教育活動の点検・改善に関する事。

（略）

資料名「実施体制がわかる資料（アクティブラーニングセンター規則、FD部門要項）」（2/2）

FD部門要項

（趣旨）

第1条 アクティブラーニングセンター規則第3条第1項第3号に定めるFD部門の運用については、この要項によるものとする。

（業務内容）

第2条 センター規則第3条第4項第1号に定める業務は、次の各号に掲げる事項とする。

(1) 教員研修の計画立案に関する事。

(2) 教員研修の点検・改善に関する事。

2 センター規則第3条第4項第2号に定める業務は、次の各号に掲げる事項とする。

(1) 授業アンケートに関する事。

(2) 授業公開に関する事。

(3) 教育に関する教科間・学科間の連携に関する事。

(4) 成績資料の点検に関する事。

(5) シラバスの点検とフィードバックに関する事。

(6) 学生の目標達成度の点検とフィードバックに関する事。

(7) その他教育の点検・改善に関する事。

~~~~~ (略) ~~~~~

資料名「実施体制がわかる資料（教務委員会規程）」

教務委員会規程

第1条 教育課程の編成及び教育計画の立案その他教務に関する事項について審議するため、  
教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第2条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 教務主事及び教務副主事
- (2) 技術教育支援センター長
- (3) 専任教員（助手を除く。）のうちから教務主事の推薦に基づき、校長が指名した者
- (4) 学生課長

第3条 前条第3号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、補欠による後任委員の任期は前任者の残りの期間とする。

第4条 教務主事は委員長となり委員会を招集し、その議長となる。委員長に事故があるときは、委員長の指名する委員がその職務を代行する。

第5条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことはできない。

第6条 委員長が必要と認める場合は、構成員以外の者を会議に出席させ、意見を述べさせることができる。

第7条 委員会の事務は、学生課において処理する。

~~~~~ (略) ~~~~~

## 資料名「実施体制がわかる資料（専攻科・JABEE 委員会規程）」

## 専攻科・JABEE 委員会規程

## (趣旨)

第1条 明石工業高等専門学校（以下「本校」という。）の専攻科及び JABEE プログラムに関することについて、審議するため専攻科・JABEE 委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 特別研究・特別実習等の発表や審査に関すること。
- (2) 学位審査に関すること。
- (3) 専攻科入学前の学習履歴の点検・認定に関すること。
- (4) 総合試験の実施・認定に関すること。
- (5) JABEE プログラムの成績管理と履修指導に関すること。
- (6) その他専攻科の運営及び JABEE プログラムに関すること。

## (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 専攻科長
- (2) テクノセンター長
- (3) 研究主幹
- (4) 専攻主任
- (5) 専任教員（助手を除く。）のうちから専攻科長の推薦に基づき、校長が指名した者
- (6) 学生課長

2 第1項第5号に掲げる委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。

- 2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長が指名する委員が、その職務を代行する。

## (委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めることができる。

## (専門委員会)

第6条 委員会に専門的事項を審議するため必要がある場合は、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に必要な事項については、委員会が定める。

## (事務)

第7条 委員会の事務は、学生課において処理する。

~~~~~ (略) ~~~~~

資料名「実施体制がわかる資料（教育研究活動評価等委員会規程）」

教育研究活動評価等委員会規程

(趣旨)

第1条 教員の教育活動及び研究活動の評価及びその運用に関する事項を検討するため、教育研究活動評価等委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 副校長（総務担当）、副校長（教育改革担当）
- (3) 教務主事、学生主事、寮務主事
- (4) 専攻科長
- (5) イノベーションオフィス長
- (6) 事務部長
- (7) 各課長
- (8) その他校長が指名する者

(委員長)

第3条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、校長の指名する委員がその職務を代行する。

(意見の聴取)

第4条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴取することができる。

(作業部会)

第5条 委員会は、必要があるときは、特定の事項について作業部会を設けることができる。

2 作業部会の組織及び運営に関し必要な事項は別に定める。

(事務)

第6条 委員会の事務は、総務課において処理する。

~~~~~ (略) ~~~~~

資料名「実施体制がわかる資料（外部評価実施要項）」

外部評価実施要項

(趣旨)

第1条 明石工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育研究及び管理運営の改善に資することを目的として学外の有識者による評価（以下「外部評価」という。）を実施することとし、これについて必要な事項を定めるものとする。

(外部評価委員会)

第2条 本校に、次の各号に掲げる事項について、外部評価を実施するため、外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- (1) 教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項
- (2) 教育研究活動等の状況について本校が行う評価に関する重要事項
- (3) その他運営に関する重要事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者を委員として、若干名をもって組織する。

- (1) 教育研究分野に精通した大学又は高等専門学校の教育研究機関の教員等
- (2) 産業界の産業動向に精通した者
- (3) 本校の所在する地域の関係者で、教育に関し、広く、かつ、高い識見を有する者
- (4) その他高等専門学校に関し、広く、かつ、高い識見を有する者

(委嘱)

第4条 委員は、校長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は、外部評価の実施に必要な期間とする。

2 委員は、再任することができる。

(委員長)

第6条 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、校長が委嘱する。

(運営)

第7条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

(外部評価の実施方法)

第8条 外部評価は、資料による調査のほか、本校において実施する実状聴取及び実地調査等により行う。

(外部評価の実施結果)

第9条 委員会は、外部評価の実施結果について、外部評価報告書を作成し、公表するものとする。

(外部評価に対する改善)

第10条 本校は、外部評価報告書に基づき、改善のための諸方策を講じるものとする。

(事務)

第11条 外部評価の実施に関する事務は、総務課において処理する。

(実施細目)

第12条 この要項に定めるもののほか、外部評価の実施に関し必要な事項は、校長が別に定める。

~~~~~ (略) ~~~~~

資料名「前回の機関別認証評価における評価結果について、「改善を要する点」として指摘された事項がわかる資料」

~~~~~(略)~~~~~

6-1-⑤ 卒業（修了）生や進路先等の関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取する取組は、アンケート調査を中心に実施している。平成 19～21 年度全学科卒業生（144 人）、全学科卒業生進路先企業（41 社）、修了生（41 人）、修了生進路先企業（14 社）及び修了生進路先大学院（29 校）による教育目的の反映度調査では、「豊かな国際性と指導力」においては 5 段階評価で 2 点台もあるが、その他はおおむね 3 点台後半となっている。

進路先関係者から卒業（修了）生の資質・能力は平均約 4 点で、総合的には「よい」と評価されている。

これらのことから、在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しており、また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっていると判断する。

以上の内容を総合し、「基準 6 を満たしている。」と判断する。

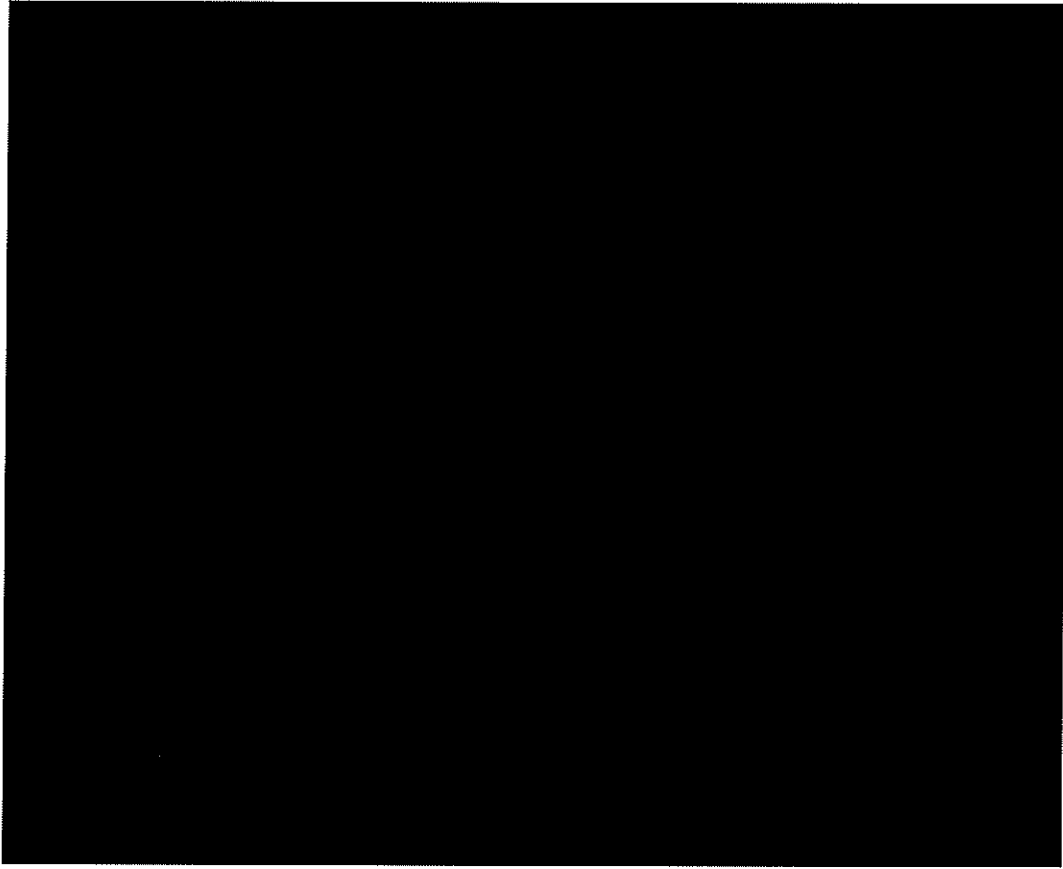
#### 【優れた点】

- 就職について、準学士課程、専攻科課程ともに就職率（就職者数／就職希望者数）は極めて高く、就職先も建設業や製造業、電気・ガス・水道業、運輸・通信業関連などの当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても、準学士課程、専攻科課程ともに進学率（進学者数／進学希望者数）は極めて高く、進学先も学科・専攻の専門分野に関連した工学系の大学や大学院となっている。

#### 【改善を要する点】

- 専攻科課程において、一部の学習・教育目標に関する達成状況を把握・評価するための取組について未整備なところがみられる。

資料名「改善を要する点」として指摘された事項への対応状況がわかる資料 (1/2)

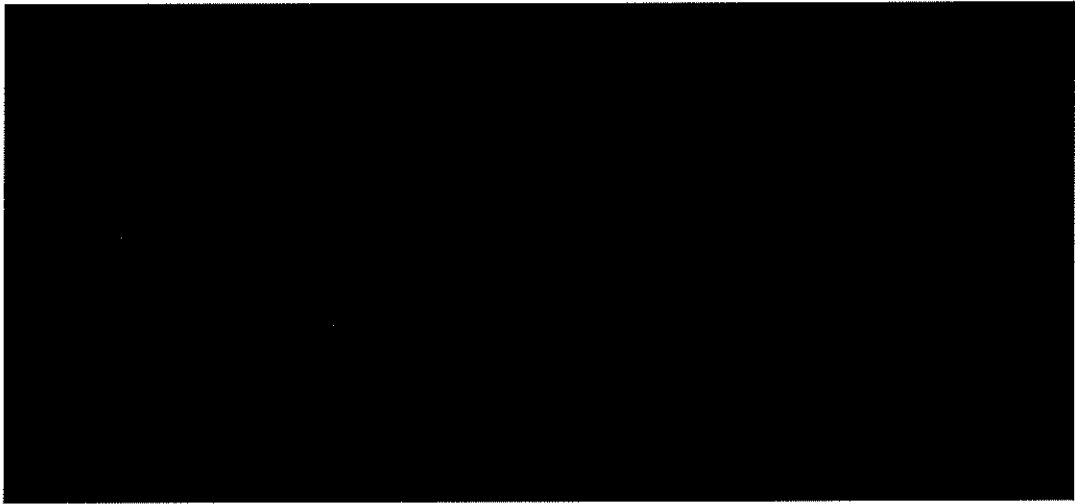


~~~~~ (略) ~~~~~

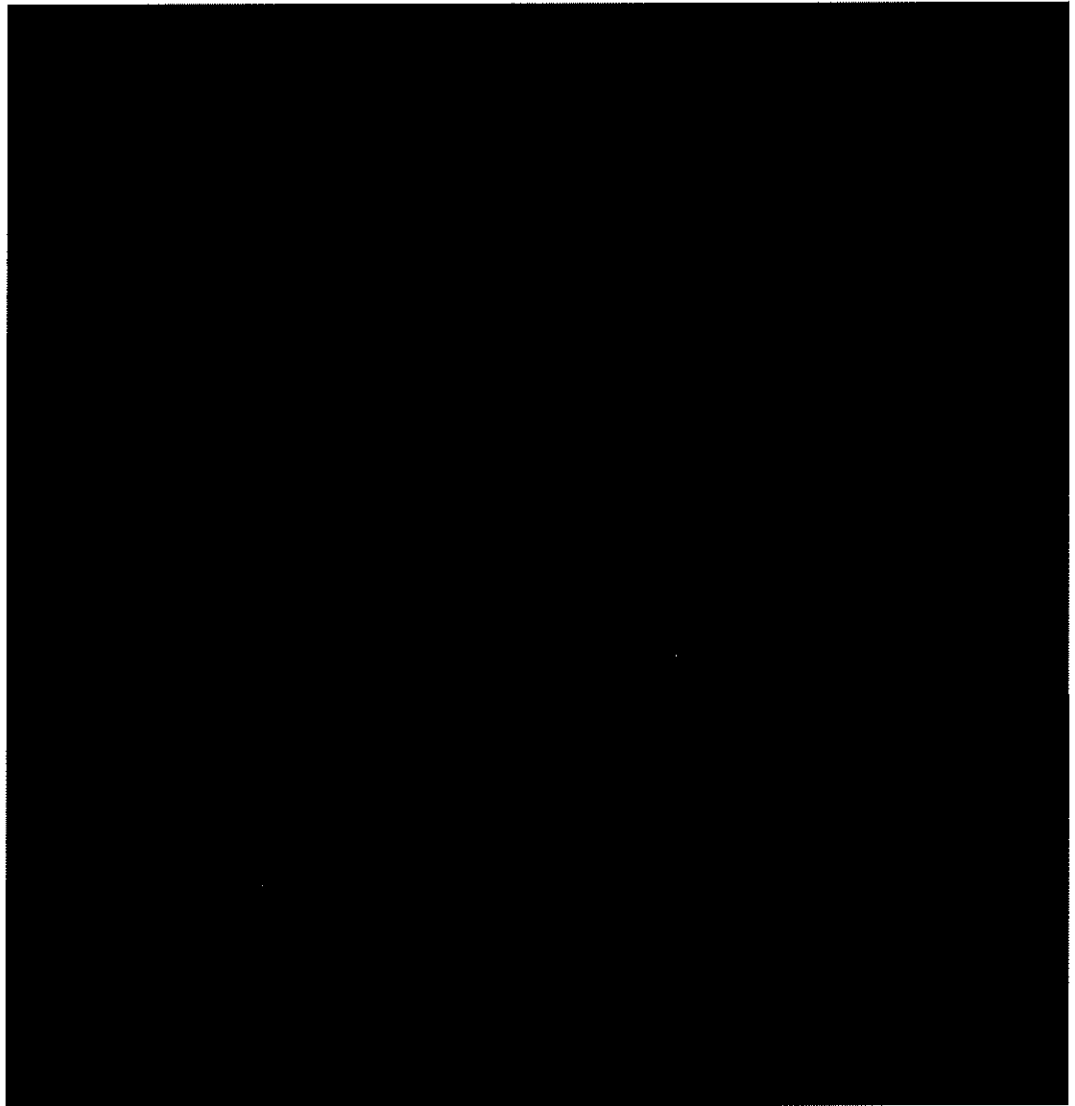
出典「平成24年度第6回運営会議議事録、平成24年度第7回運営会議議事録」



資料名「改善を要する点」として指摘された事項への対応状況がわかる資料 (2/2)



~~~~~ (略) ~~~~~



~~~~~ (略) ~~~~~

出典「平成 24 年度第 6 回運営会議議事録、平成 24 年度第 7 回運営会議議事録」

## 資料名「平成 28 年度自己点検・評価報告書」

お問い合わせ | 交通アクセス・キャンパスマップ | 教育・研究施設 | 教職員公募  
 受験生の方 | 学生・保護者の方 | 地域・企業の方 | 卒業生の方

Japanese | English

検索

トップページ » 学校案内 » 点検評価活動 » 平成28年度 自己点検・評価報告書 »

## 学校案内

## 平成28年度 自己点検・評価報告書

## 校長挨拶

## 本校の使命と教育目的

## 三つのポリシー

## 本校の特色

## 沿革

## 学生歌・校章

## 教育・研究施設

## 同窓会

## JABEE認定プログラム

## 広報誌・パンフレット

## 点検評価活動

## 平成28年度 自己点検・評価報告書

## 平成22年度 自己点検・評価報告書

## 平成17年度 自己点検・評価報告書

## 平成23年度 高等専門学校機関別認証評価 自己評価書

## 平成17年度 高等専門学校機関別認証評価 自己評価書

## 平成23年度 選択的評価事項に係る評価 自己評価書

## 組織

## 教育情報の公表

## オープンデータ

## 学科・専攻科

## 入試情報

## 学生生活

## 就職・進学

## 教育・研究

## 地域・国際連携

## 産学官連携

## リンク集

• まえがき【PDF 71KB】

1. 目的・目標【PDF 470KB】
2. 教育体制と教員及び支援職員【PDF 820KB】
3. 教育内容と方法【PDF 2MB】
4. 教育の成果及び改善システム【PDF 2MB】
5. 学生の受け入れ【PDF 411KB】
6. 学生支援【PDF 1MB】
7. 研究状況及び学外への教育サービス【PDF 1.1MB】
8. 管理運営【PDF 920KB】

• あとがき【PDF 137KB】

• 明石工業高等専門学校将来計画・自己点検委員会委員名簿等【PDF 125KB】

学校案内 | 学科・専攻科 | 入試情報 | 学生生活 | 就職・進学 | 教育・研究 | 地域・国際連携 | 産学官連携 | Facebook | Twitter

〒674-8501 兵庫県明石市魚住町西岡 679-3 078-946-6017 (代表)  
 ※ お問い合わせ ※ プライバシーポリシー ※ リンク集

## 学校案内

校長挨拶

## 学科・専攻科

一般科目

## 入試情報

入試情報一覧

## 学生生活

時間前・授業時間

## 就職・進学

学科進学状況

## 教育・研究

Jabee認定プログラム

資料名「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料（目的・目標）」（1/2）

平成 28 年度自己点検・評価報告書に記された改善を要する点（目的・目標）

~~~~~ (略) ~~~~~

(改善を要する点)

- ・ 育成する人材像について、検討が行われているが明確な人材像が示されていない。グローバル高専モデル校として、早急に育成すべき人材像を明示しディプロマポリシーに基づくカリキュラムポリシーを策定する必要がある。
- ・ 教育目的の周知状況を把握するためアンケートが近年実施されていない。アンケートを実施しその結果から問題点を分析し、今後の方針を見出すようにつとめる必要がある。

出典「自己点検・評価報告書（平成 29 年 3 月） p.15」

改善の取組を示す資料（カリキュラムポリシーの策定）

[お問い合わせ](#) | [交通アクセス・キャンパスマップ](#) | [教育・研究施設](#) | [教職員公募](#)

受験生の方
学生・保護者の方
地域・企業の方
卒業生の方

[Japanese](#) | [English](#)

トップページ » [学校案内](#) » [三つのポリシー](#) »

**学校案内**

- 校長挨拶
- 本校の使命と教育目的
- 三つのポリシー
- 本校の特色
- 沿革
- 学生取・校章
- 教育・研究施設
- 同窓会
- JABEE認定プログラム
- 広報誌・パンフレット
- 点検評価活動
- 組織
- 教育情報の公表
- オープンデータ

学科・専攻科

入試情報

学生生活

就職・進学

教育・研究

地域・国際連携

産学官連携

リンク集

### 三つのポリシー

---

本校において、各学科、専攻科ごとにディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの三つの方針を定めています。  
詳しくは以下を参照下さい。

**学科**

- 機械工学科
- 電気情報工学科
- 都市システム工学科
- 建築学科

**専攻科**

- 機械・電子システム工学専攻
- 建築・都市システム工学専攻

出典「明石高専ホームページ 学校案内 三つのポリシー」

資料名「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料(目的・目標)」(2/2)

改善の取組を示す資料(教育目的の周知状況を把握するためのアンケートの実施)

## 平成29年度教育目的と学習・教育目標に関する意識調査結果

| 学年            | 教育目的の周知度 | 学習・教育目標の周知度 |
|---------------|----------|-------------|
| 1             | 3.49     | 3.30        |
| 2             | 3.40     | 3.33        |
| 3             | 3.27     | 3.19        |
| 4             | 3.33     | 3.20        |
| 5             | 3.70     | 3.60        |
| 専攻科1          | 3.46     | 3.75        |
| 専攻科2          | 3.27     | 3.09        |
| *5段階評価の平均値    |          |             |
| 5 よく理解している    |          |             |
| 4 大体知っている     |          |             |
| 3 説明を受けたことがある |          |             |
| 2 見たことがある     |          |             |
| 1 全く知らない      |          |             |

出典「オンラインアンケート(平成29年度後期)意識調査結果」

資料名「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料（教育体制と教員及び支援職員）」

平成 28 年度自己点検・評価報告書に記された改善を要する点（教育体制と教員及び支援職員）

~~~~~ (略) ~~~~~

(改善を要する点)

- ・事務職員及び技術職員数の削減、職員の産休や育休に対応するため、授業支援、業務支援、地域連携活動への支援等のサービスレベルを維持しつつ、更に円滑かつ効率的に実施するための支援体制に係る組織改編及び職員の再配置の検討が必要である。

出典「自己点検・評価報告書（平成 29 年 3 月） p. 34」

改善の取組を示す資料（授業支援体制に係る検討例）

平成 28 年 4 月 5 日

教員各位

技術職員による授業「Co'work」の技術教育支援について

技術教員支援センター長  
関森大介

技術職員による授業「Co'work」の技術教育支援の申請から実施までの流れを以下に示す。

```

    graph TD
      A[技術教育支援センター  
技術長] -- "①支援申請" --> B((教員))
      B -- "②支援可否  
の通知" --> A
      A -- "③支援指示" --> C((技術職員))
      C -- "④支援の実施" --> B
  
```

①支援申請  
教員が授業の 1 週間前までに申請書に所定事項を記入して、技術長に提出する。教員から直接技術職員個人に支援依頼はできない。原則として、支援業務は授業時間のみとし、放課後や休日は不可とする。また、支援で発生する費用（材料費、工具費など）は教員負担とする。

②支援可否の通知  
技術長が申請書を基に技術職員の配置を計画し、授業の 3 日前（土日を含めず）までに教員に支援可否の通知を行う。

(以下、支援可の場合)

③支援指示  
技術長が担当技術職員に支援の指示を行う。

④支援の実施  
技術職員が教員の指示の基に支援業務を行う。原則として、支援中、教員の立ち会いが必要となる（出張等で不在の場合には代理教員が必要）。

出典「平成 28 年 4 月 5 日付 教員宛技術教育支援センター長通知」

資料名「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料(教育内容と方法)」

平成28年度自己点検・評価報告書に記された改善を要する点(教育内容と方法)

~~~~~(略)~~~~~

(改善を要する点)

- ・高専機構本部が進めているモデルコアカリキュラム、Web シラバス、ルーブリックによる達成度評価などを、効果的に運用できるように環境を整備していく必要がある。
- ・学生の自主的・能動的学習を進めるため、できるだけ多くの科目でアクティブラーニング手法を取り入れていくことが必要である。また、より効果的な教授法を活用できるように、継続的な授業改善を進めていくことが必要である。

出典「自己点検・評価報告書(平成29年3月) p.60」

改善の取組を示す資料

(モデルコアカリキュラム・Web シラバス・アクティブラーニングに関する講演会・研修会の実施)

## FD委員会 教員研修に関すること

### 平成29年度の取り組み

#### 講演会「アクティブラーニング講演会(GI-net配信)」

日時:平成30年1月11日(木)16:00~17:30

内容:「トランジションをいらんでアクティブラーニング型授業への組織的転換」

講師:清上 慎一氏(京都大学高等教育研究開発推進センター教授 教育アセスメント室長)

#### 研修会「機関別認証評価に向けたFD」

日時:平成29年12月7日(木)13:30~15:30

内容:「トランジションをいらんでアクティブラーニング型授業への組織的転換」

講師:認証評価部会副部長・アクティブラーニングセンター長 梶村 好宏

#### 研修会「MCC(モデルコアカリキュラム)導入の考え方について」

日時:平成29年11月22日(水)14:00~15:30→延期

講師:教育研究調査室 併任教員 梶村 好宏

#### 研修会「MCC(モデルコアカリキュラム)、Webシラバスの導入に向けて」

日時:平成29年8月30日(水)13:00~13:30

内容:MCCの到達目標に対する各科目への対応(紐付け方法)について

(Webシラバス上で各科目の到達目標にMCCの到達目標を紐付けて  
いく作業の説明)

#### 研修会「MCC(モデルコアカリキュラム)、Webシラバスの導入に向けて」

日時:平成29年8月1日(火)13:30~15:30

内容:・MCCとWebシラバスの関係  
・Webシラバスを入力する

#### 研修会「グローバルFD研修公開授業」(3機関連携事業)

日時:平成29年6月1日(木)13:50~15:20

内容:高専教員3名による英語での公開授業

1. 13:50~14:20 「Introduction to Electronic Circuit」

講師:飯田 民夫 氏(岐阜工業高等専門学校電気情報工学科准教授)

2. 14:20~14:50 「Introduction to Energy Conversion Engineering」

講師:櫻根 健史 氏(鹿児島工業高等専門学校電気電子工学科准教授)

3. 14:50~15:20 「PBL activity instruction and guidance」

講師:加藤 文武 氏(茨城工業高等専門学校機械システム工学科准教授)

出典「明石高専イントラネット 【FD】教員研修関係」

資料名「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料（教育の成果及び改善システム）」

平成28年度自己点検・評価報告書に記された改善を要する点（教育の成果及び改善システム）

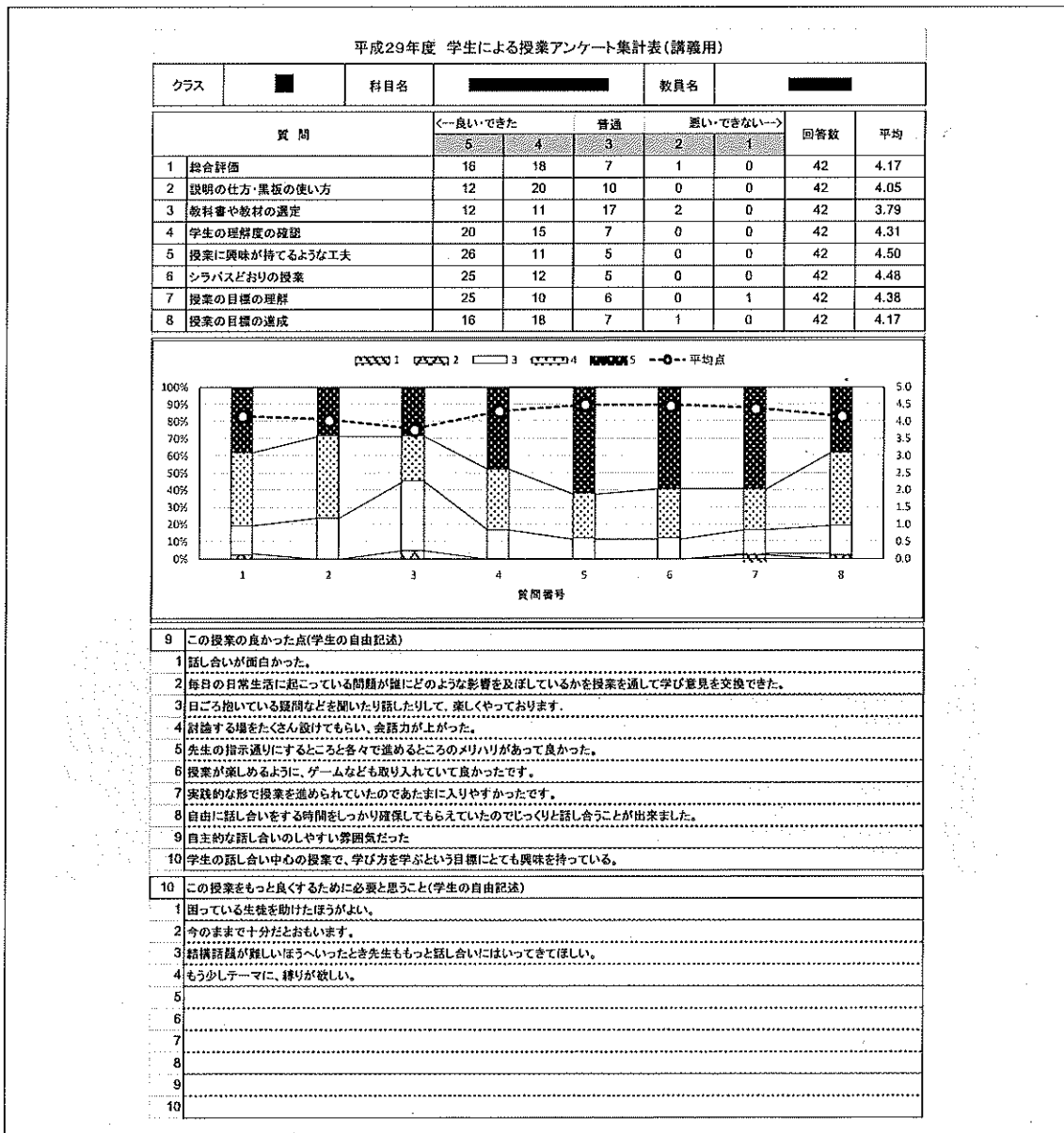
~~~~~ (略) ~~~~~

(改善を要する点)

・学習・教育目標のうち、「国際性と指導力」について専攻科修了生の達成度が不十分であるとの意見が、企業、大学院でそれぞれ36%、18%あった。その結果を踏まえて、国際性については平成27年度、学科1年生に科目「グローバルスタディーズI」を新設し、英語を自主的に学べる場所「グローバルエデュケーションオフィス（通称：グローバルテラス）」を設置するなどした。一方、指導力については学科・学年を横断してPBLとアクティブラーニングを実践する科目を平成28年度に導入する。それらの効果を客観的に公正に見極め、次のアクションを考えることが必要である。

出典「自己点検・評価報告書（平成29年3月） p.107」

改善の取組を示す資料（アクティブラーニングを実践する科目の授業アンケート集計表）



出典「平成29年度学生による授業アンケート集計表」

資料名「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料（学生の受入れ）」(1/2)

平成28年度自己点検・評価報告書に記された改善を要する点（学生の受入れ）

~~~~~ (略) ~~~~~

(改善を要する点)

- ・ 相対評価から絶対評価に移行した中学校側の成績評価変更の影響については、今後とも追跡調査を行い、より適切な選抜方法を検討する必要がある。
- ・ 編入学選抜において、過去5年に志願者ゼロの学科があるため、原因を分析して、優秀な受験者を増やす取り組みが必要である。
- ・ 女子中学生へのアピールはここ5年間で一定の成果を上げているが、まだ学生全体の中での割合は少なく、今後も継続することが必要である。
- ・ 志願者確保の方法として、平成27年度から、兵庫県の高등학교の学区再編により受験校の選択の自由度が大きくなったため、本校を受験する生徒の動向を適切に把握し、志願者確保の対策を練る必要がある。
- ・ 専攻科の学生定員に対する充足率が200%を超えることがあり、講義室等の定員を超える可能性がある。
- ・ これまでに社会人の専攻科入学生が1人もおらず、企業への広報活動について検討する必要がある。

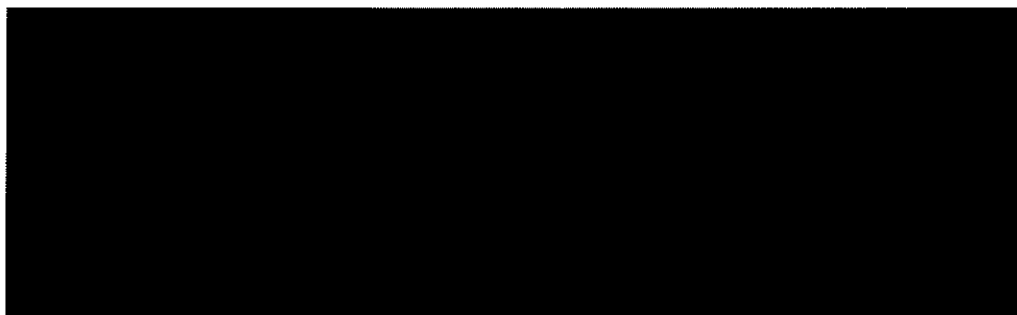
出典「自己点検・評価報告書（平成29年3月） p. 116」

改善の取組を示す資料（平成29年度入試分析報告まとめ）

H30年5月 教員会資料

入学試験における調査書と学力検査等の相関に関する報告

~~~~~ (略) ~~~~~



出典「平成30年度第2回教員会資料」



資料名「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料（学生の受入れ）」(2/2)

## 改善の取組を示す資料（志願者確保対策例）

## 学生関係の報告事項

H30.1.17 教員会

~~~~~ (略) ~~~~~

## 2 志願者確保関係

- (1) 学校案内  
原稿・写真の提出締切：1/31(水)
- (2) 来年度のオープンキャンパスの計画  
2日間で実施（詳細スケジュールは今後検討）  
8/10(金)～8/11(土)で調整中
- (3) 新行事（仮称：進学相談交流会）  
6/23(土)（文化発表会と並行実施）  
新聞広告を50万円程度削減し、学生への謝金を確保  
（参加者の約90%はHPと中学校からの情報で説明会・オープンキャンパスに参加している）
- (a) 学生によるポスター発表（授業、課外活動、研修旅行、海外研修、寮生活など）  
(b) 個別相談ブース（教員、学生、保護者）
- (4) 来年度の説明会の日程・会場  
広報の効果を高める。予算削減（10万円程度）、会場よりも日程が重要と考えられるため。
- 入試懇談会（中学校教諭、塾講師向け）  
本校会場：2回実施（9/26(水)、10/5(金)）  
他会場：三田（9/28(金)）、姫路・西宮会場は廃止
  - 学校説明会（中学生・保護者向け）  
本校会場：回数を増やす（11/3(土)、12/1(土)、ほかに2回程度）  
他会場：三田・小野の2会場とする。姫路・神戸・西宮会場は廃止

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「平成29年度第9回教員会資料」

改善の取組を示す資料（専攻科の学生定員に対する充足率）

## 専攻科の学生定員に対する充足率(%)

| 専攻名               | 項目      | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|-------------------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 機械・電子システム<br>工学専攻 | 入学者数    | 18     | 14     | 17     | 16     | 8      |
|                   | 入学定員    | 8      | 8      | 8      | 8      | 8      |
|                   | 入学定員充足率 | 2.25   | 1.75   | 2.12   | 2.00   | 1.00   |
| 建築・都市システム<br>工学専攻 | 入学者数    | 18     | 17     | 15     | 16     | 11     |
|                   | 入学定員    | 8      | 8      | 8      | 8      | 8      |
|                   | 入学定員充足率 | 2.25   | 2.12   | 1.87   | 2.00   | 1.37   |

出典「別添資料「平均入学定員充足率計算表」」から抽出して作成

資料名「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料（学生支援）」（1/2）

平成 28 年度自己点検・評価報告書に記された改善を要する点（学生支援）

~~~~~ (略) ~~~~~

(改善を要する点)

- ・ 進路指導は各学科等において適切に実施されているが、保護者から、全体のプログラムを把握できないとの要望があり、入学初年度から在学期間を通した進路指導の方針・計画を示すことが必要である。
- ・ 自主的な活動のスペースとして協同学習センター、福利施設を解放しているが、数多くの自主活動プロジェクトがあり、更なるスペースの確保が必要である。
- ・ 学生相談室では、学生の悩みや相談を受けるために、臨床心理士によるカウンセリングの時間を確保する努力をしているが、非常勤勤務ということもあり、十分なケアが行き届いていないことが懸念される。
- ・ 課外活動のための、体育施設が少なく活動に苦慮している。各施設をローテーションで使用しているが、特に冬季の屋外施設は、日照時間の関係で使用時間が少なくなる。照明器具の設置等の改善が必要である。

出典「自己点検・評価報告書（平成 29 年 3 月） p. 158」

改善の取組を示す資料（進路指導年間計画）

| 平成29年度 進路指導計画 |  |  |  |   |  |
|---------------|--|--|--|---|--|
|               | 1年生  | 2年生  | 3年生  | 4年生   | 5年生  |
| 目標            | 専門分野に対して広い視野を持つ<br>(4/20-21)新入生合宿研修(学科別ミーティング)進路に関するオリエンテーション  | 専門分野に対して広い視野を持つ  | 進路に対する意識を高める   | 進路の意志決定   | 進路を決定<br>(4月)大学編入学出願開始   |
|               | (6/24-7/2)保護者懇談会   | (6/24-7/2)保護者懇談会   | (6/24-7/2)保護者懇談会   | (6/24-7/2)保護者懇談会  | (6/1~)就職校長推薦書  |
|               |  |  | (10/26-27)3年生合宿研修  | (4月)インターンシップ説明会,希望調査<br>(5-7月)インターンシップ事前指導<br>(8-9月)インターンシップ実地指導<br>(9-10月)インターンシップ事後指導<br>(10月)インターンシップ発表会   | (10/1~)就職内定  |
|               |  |  |  | (11-1月)学科特別講演会  |  |
|               | (2月)キャリア支援セミナー   |  |  | (11-3月)保護者対象進路説明会・懇談会   | (1月)卒業オリエンテーション  |
| M科            | (6-7月)保護者懇談時に進路に関する相談および進路実績等に関する情報開示<br>(1月)正担任(学科教員)より機械工学科および他学科の進学先,就職先の紹介   | (4月)専門学科講話(進路に関する内容を含む)<br>(6月)保護者面談時に進路実績などの情報開示<br>(12月)専門学科講話(製造業者によるプレゼンを含む)<br>(1月)キャリア形成に関する担任講話   | (4月)担任による就職活動の話<br>(6月)個別面談,進路希望調査<br>(6月)保護者面談(進路実績等の情報開示)<br>(8月)担任による就職・進学の話(5M進路状況について)<br>(12月)企業による技術紹介<br>(1月)担任による就職・進学の話(就職活動,企業,大学等の情報提供)            | (5月)キャリア支援セミナー<br>(5月)進路希望等面談<br>(6月)OB講話<br>(7月)就職セミナー<br>(12月)個別進路相談<br>(1月)進路希望調査,個別進路相談,就職セミナー,OB講話<br>(2月)OB講話   | (3月)新5年生保護者対象進路説明会<br>(4月-10月)個別進路相談,履歴書・エントリーシート作成指導,面接練習   |
| E科            | (5月)専門学科講話(コース分け等。進路に関する内容を含む)<br>(6月)専門学科講話(国際交流インターンシップに関して)<br>(6月)専門学科講話(電気情報工学科卒業生の進路に関して)<br>(11月)専門学科講話(進路に関して1)<br>(1月)専門学科講話(進路に関して2) | (5月)専門学科講話(研究と進路。これまでの経験・データを踏まえて)<br>(6月)専門学科講話(研究と対外発表。進路例の紹介)<br>(11月)専門学科講話(国際会議参加のすすめ。進路に関するアドバイス)<br>(2月)専門学科講話(次年度以降の学習と研究。進路に関する内容を含む) | (4月)コース分け・研究室配属・進路の概要説明,第1次コース希望調査,進路希望調査,個別面談<br>(6-7月)保護者面談(進路について,保護者の質問に答える形で説明)<br>(10月)第2次コース希望調査,進路状況と進路の決め方について説明<br>(1月)コース分けに関する質問・疑問・悩みについて回答,コース決定 | (4月)進路希望調査<br>(5月)個別面談,進路選択に関する話<br>(6,7月)保護者懇談で進路に関する説明と相談<br>(10月~1月)進路希望に関する個別相談<br>(2月)進路希望調査<br>(2月)次年度の学科長・担任による進路説明会<br>(3月)就職希望学生に対する今年度と次年度の学科長・担任による面接練習及び次年度の学科長による面談<br>(3月下旬~)次年度の学科長による就職希望者の保護者懇談会,エントリーシートの作成指導 | (4月)進学希望学生に対する昨年度と今年度の学科長・担任による個人面談と面接練習,今年度の担任による進学希望学生の保護者懇談会<br>(4-10月)学科長(就職担当)と担任(進学担当)による個別進路相談<br>(1月)卒業オリエンテーション |

資料名「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料（学生支援）」（2/2）

|    |   |  |   |   |   |
|----|---|--|---|---|---|
| C科 | (4月)進路に関する講話<br>(5,6,11,12月)専門学科教員による講話 | (4月)専門学科教員による就職・進路についての講話<br>(5月)専門学科教員による就職・進路についての講話<br>(7月)専門学科教員による関係分野における研究と仕事についての講話<br>(11月)専門学科教員による関係分野における研究と仕事についての講話<br>(1月)専門学科教員による関係分野における研究と仕事についての講話 | (6月)進路に関する講話<br>(6月)個別進路相談<br>(11月)キャリア支援セミナー<br>(12月)5年進路決定者による進学の体験話<br>(12・1月)履歴書・自己分析シートの説明および作成指導<br>(2月)社会人に向けたマナー指導<br>(2月)進路希望、インターンシップ希望調査 | (4月)第1回進路希望調査<br>(4月)個別面談(以降、随時)<br>(4-6月)自己分析<br>(4-7月)インターンシップ事前指導<br>(6月)保護者懇談時に進路説明<br>(10月)第2回進路希望調査<br>(11月)上級生による進路報告会(進学・就職)<br>(12月)5年進路決定者による進学の体験話<br>(1-3月)履歴書、エントリーシート、面接指導<br>(2月)学生・保護者対象進路説明会   | (4月)就職希望学生の個人面談<br>(4月)企業説明会<br>(4-10月)個別進路相談、エントリーシート・履歴書作成指導、面接練習<br>(5月)進学希望学生の個人面談<br>(5月)大学編入学出願開始<br>(11月)進路未定者懇談 |
| A科 | (4月)グローバル社会におけるキャリア形成初期講座               | (10月)明石高専で行っている各種プロジェクトを紹介し、授業以外で主体的に活動することで成長していく事例を説明した。<br>(11月)個別にトピクテに応募希望の学生にはグローバル化するなかでの進路の広がりについて話した。   | (4月)担任によるキャリアガイダンス<br>(6月)保護者との面談で進路の希望その他を聞く。<br>(11月)JOB.OGによる建築セミナーで企業で働姿を学ぶ<br>(12月)ProGテストで本人の適性を知る。テスト結果は2月に通知。<br>(2月)進路に関する意識調査             | (4月)担任による個人面談、進路説明会<br>(5月)第1回進路希望調査、インターンシップ説明会<br>(6月)キャリア支援指導①<br>(7月)キャリア支援指導②、研究室・指導教員への訪問と面談、インターンシップの事前指導<br>(8-9月)キャリア支援指導③、インターンシップの実施<br>(10月)インターンシップ報告会、キャリア支援指導③<br>(11月)第2回進路希望調査<br>(12月)保護者懇談会、進路指導(就職/進学)<br>(1月)学生対象進路説明会<br>(1-3月)進路指導(就職/進学)<br>(3月)近畿地区高専生対象の就職合同説明会への参加 | (4-8月)就職希望学生の応募書類の作成指導、個人面接指導<br>(4-10月)進学希望学生の指導、大学編入学出願開始<br>(11月)進路未定者懇談及び指導   |

出典「平成 29 年度進路指導年間計画」


改善の取組を示す資料（常勤カウンセラーの採用）

[お問い合わせ](#) | [交通アクセス](#)・[キャンパスマップ](#) | [教育・研究施設](#) | [教職員公募](#)

Japanese | English

受験生の方 | 学生・保護者の方 | 地域・企業の方 | 卒業生の方

検索



学生相談室  
Counseling Room

あなたと一緒に

トップページ » 学生相談室 » お知らせ » 相談員紹介を更新しました »

学生相談室とは

新着情報一覧

利用案内

KOSEN健康相談室

ハラスメントの防止

相談員紹介

Q&A

学生相談室だより

**相談員紹介を更新しました**

---

今年度から常勤カウンセラーとして本坊教員を迎えました。  
H29年度の相談員はコチラです。

2017年4月1日

出典「明石高専ホームページ 学生相談室」

資料名「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料（研究状況及び学外への教育サービス）」(1/2)

平成 28 年度自己点検・評価報告書に記された改善を要する点（研究状況及び学外への教育サービス）

~~~~~ (略) ~~~~~

(改善を要する点)

○研究状況

- ・科学研究費補助金の申請と採択については、更なる充実を目指して教職員の積極的な申請を促す必要がある。
- ・共同研究、受託研究の件数、金額は伸びているが実用化されたものが誕生していないので、今後企業のニーズを調査しながら実用化に結びつく研究を行う必要がある。

○正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

- ・テクノセンターの活動においては、本学研究者の産学連携活動の割合を増やすため、地元産業界の産業構造研究、ニーズ調査、人材育成事業などを引き続き積極的に行い、それらを通じて産学連携活動をさらに活性化させる必要がある。

出典「自己点検・評価報告書(平成 29 年 3 月) p. 185」

改善の取組を示す資料（科学研究費補助金採択向上制度）

## 科学研究費補助金採択向上制度について

各学科等からの推薦により、下記の者を科研アドバイザーとする

| 学 科 等     | 職 名 | 氏 名     | 備 考 |
|-----------|-----|---------|-----|
| 機械工学科     | 准教授 | 岩 野 優 樹 |     |
| 電気情報工学科   | 准教授 | 上 素     |     |
|           | 講 師 | 奥 村 紀 之 |     |
| 都市システム工学科 | 教 授 | 神 田 佳 一 |     |
| 建築学科      | 准教授 | 莊 所 直 哉 |     |
|           | 准教授 | 水 島 あかね |     |
| 一般科目      | 教 授 | 松 宮 篤   |     |
|           | 准教授 | 仁 木 夏 実 |     |
|           | 准教授 | 井 上 英 俊 |     |
| 計         |     | 9名      |     |

出典「明石高専イントラネット 研究助成関係 科研アドバイザー一覧」

資料名「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料（研究状況及び学外への教育サービス）」(2/2)

改善の取組を示す資料（産学連携コーディネータの採用）

コーディネーター

高専機構「企業技術者等活用プログラム」

|                        |      |                                           |
|------------------------|------|-------------------------------------------|
| コーディネーター：澤田俊郎（さわだとしろう） |      |                                           |
|                        | 連絡先  |                                           |
|                        | 勤務時間 | 8:30~17:00                                |
|                        | 一言   | 本校3回生の澤田です。産学官の連携を推進するため、少しでもお役に立てれば幸いです。 |

勤務日：毎週火・金曜日（変動あり）

出典「明石高専イントラネット テクノセンター コーディネータ」

資料名「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料（管理運営等）」(1/3)

平成28年度自己点検・評価報告書に記された改善を要する点（管理運営等）

~~~~~ (略) ~~~~~

(改善を要する点)

○施設・設備

- ・本館・電気都市棟及び機械建築棟の増築を伴う大改修から15～17年が経過し、外壁等の劣化に伴う大雨時の漏水も起きている。屋上防水を含めたこれらの改修整備を年次計画で実施していく必要がある。
- ・校内道路の舗装が劣化し、凹凸状の路面が多く見られる。敷設後20年以上が経過した給排水・ガス・電力等のインフラと併せて改修整備する必要がある。

○財務

- ・近隣の企業や自治体との更なる連携を図り、受託研究、共同研究などの外部資金獲得に努めるとともに、科学研究費補助金等の獲得のための取組を積極的に行う必要がある。
- ・単年度においては計画的に予算が執行されているが、建物、設備等の老朽化に対応するため、中、長期的な予算の計画を立てる必要がある。

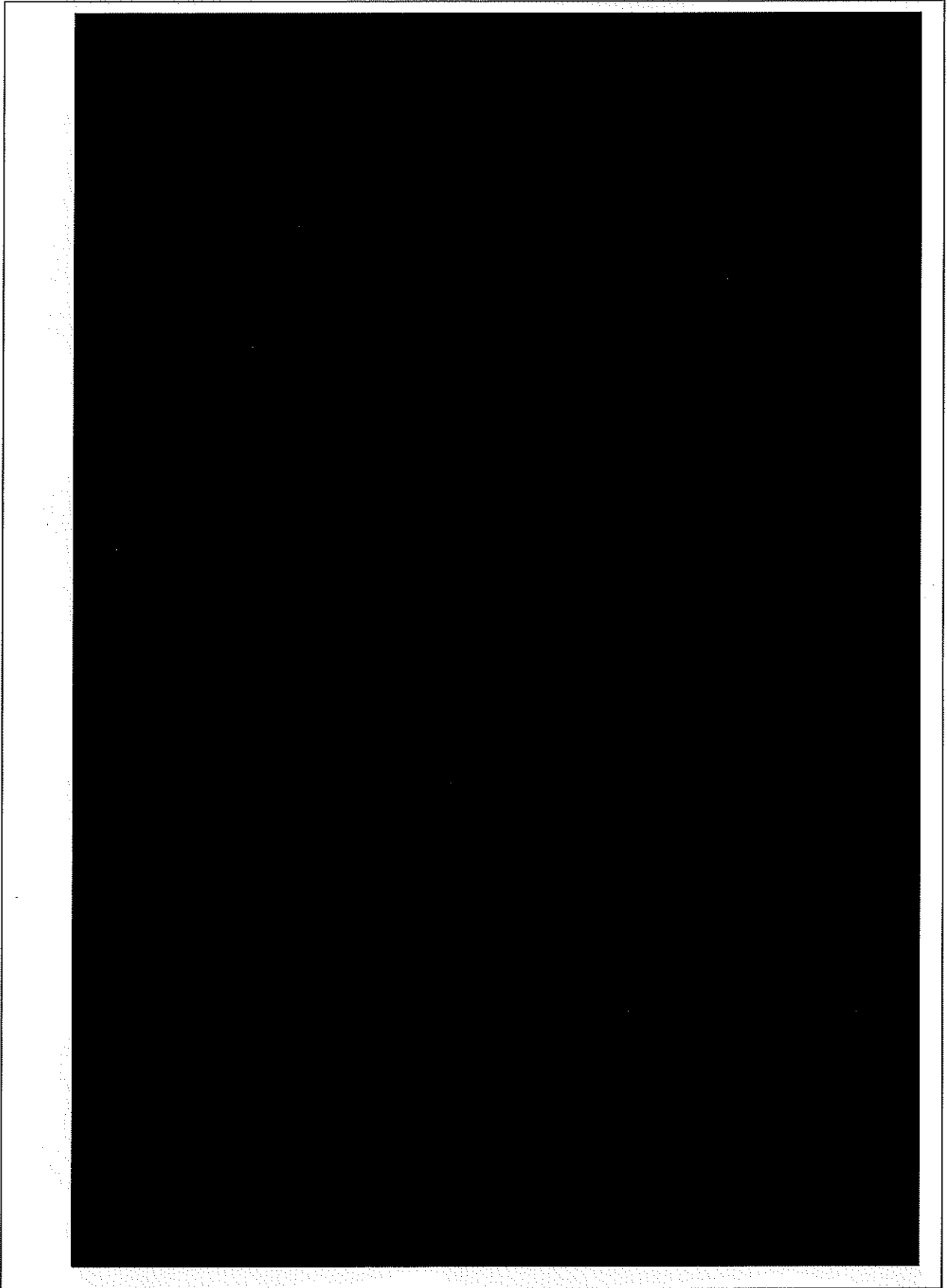
○管理運営

- ・校務合理化を進めていくために運営組織の見直しを行う必要がある。

出典「自己点検・評価報告書（平成29年3月） p. 218」

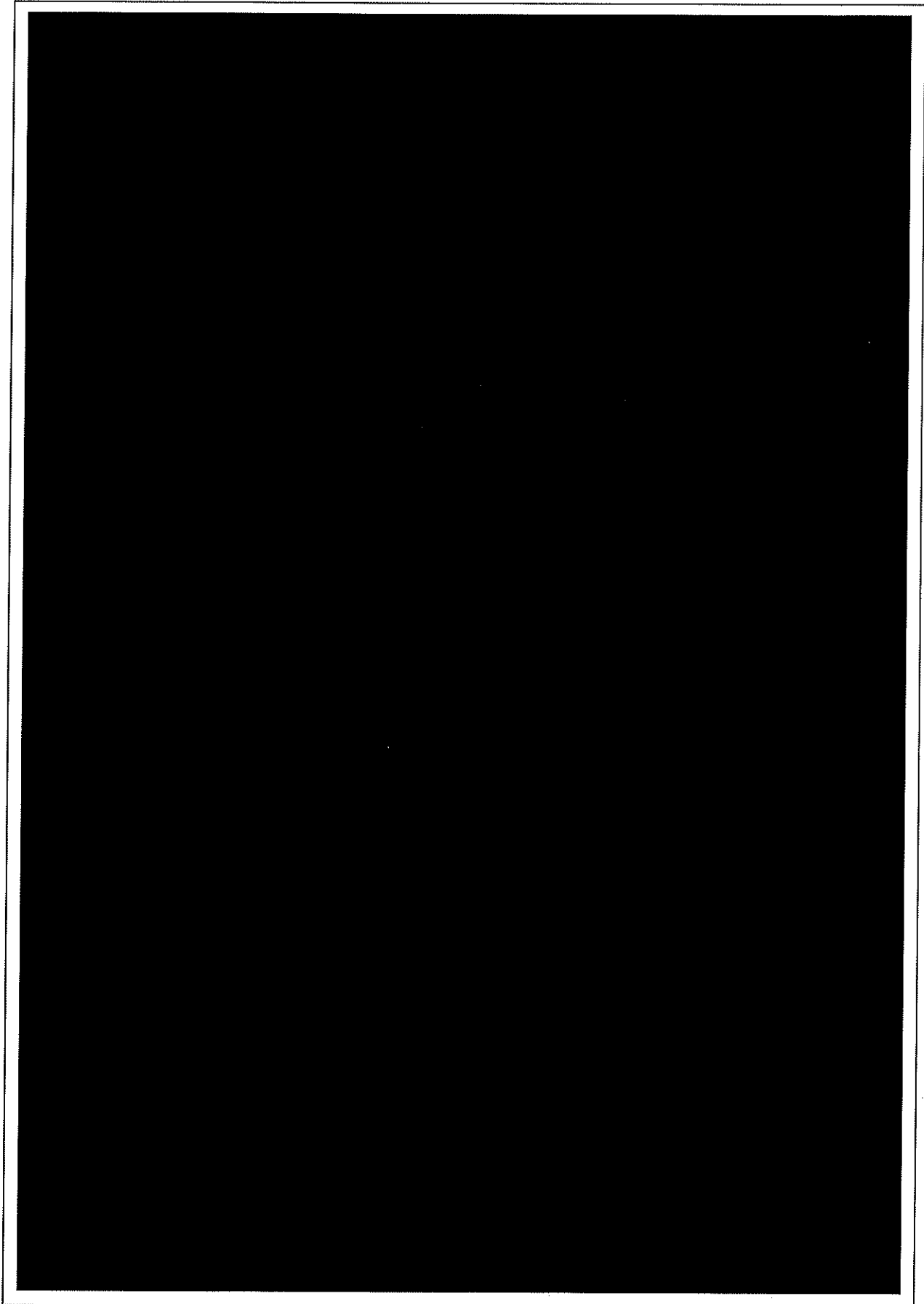
資料名「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料（管理運営等）」(2/3)

改善の取組を示す資料（校務合理化）



出典「平成 28 年度第 8 回運営会議資料」


資料名「評価結果を受けた改善の取組がわかる資料（管理運営等）」(3/3)



出典「平成 28 年度第 8 回運営会議資料」



資料名「策定した卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」

|   |  |                                       |   |
|---|--|---------------------------------------|---|
|  <b>国立明石工業高等専門学校</b><br><small>National Institute of Technology, Akashi College, Japan</small> | お問い合わせ   交通アクセス・キャンパスマップ   教育・研究施設<br>  教職員公募  | 受験生の方   学生・保護者の方   地域・企業の方<br>  卒業生の方 | Japanese   English<br><input type="text"/> 検索 |
|   | 学校案内   学科・専攻科   入試情報   学生生活   就職・進学   教育・研究   地域・国際連携   産学官連携  |                                       |   |
| トップページ » 学校案内 » 三つのポリシー »   |  |                                       |   |
| 学校案内  |  | * 三つのポリシー                             |   |
| 校長挨拶<br>本校の使命と教育目的<br>三つのポリシー<br>本校の特色<br>沿革<br>学生歌・校章<br>教育・研究施設<br>同窓会<br>JABEE認定プログラム<br>広報誌・パンフレット<br>点検評価活動  | 本校において、各学科、専攻ごとにディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの三つの方針を定めています。<br>詳しくは以下を参照下さい。<br><b>学科</b><br>機械工学科<br>電気情報工学科<br>都市システム工学科<br>建築学科<br><b>専攻科</b><br>機械・電子システム工学専攻<br>建築・都市システム工学専攻 |                                       |   |

本校は、三つの方針について、4学科に共通したものとしているが、学科ごとに定めていると捉えている。

\* 三つのポリシー

ーディプロマ・ポリシー


どのような力を身につけた者に卒業を認定するのかを定める方針

次に示すような素養を身につけ、学業成績の評価等に関する規程を満たした学生に卒業を認定します。

1. 自然・文化・社会について広く理解し、専門分野に対する基礎知識を修得している。
2. 専門的スキルや汎用的スキルを用いた問題解決ができる。
3. 協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・能動的に行動できる。
4. 多様化する社会を俯瞰的に把握し、創造的に思考できる。

~~~~~(以下省略)~~~~~

資料名「策定した教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」

|                                                                                                                                                                                 |        |                 |          |                    |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-----------------|----------|--------------------|
|  <b>国立明石工業高等専門学校</b><br><small>National Institute of Technology, Akashi College, Japan</small> | お問い合わせ | 交通アクセス・キャンパスマップ | 教育・研究施設  | Japanese   English |
|                                                                                                                                                                                 | 教職員公募  | 受験生の方           | 学生・保護者の方 | 地域・企業の方            |
|                                                                                                                                                                                 |        |                 | 卒業生の方    |                    |

---

[学校案内](#) | [学科・専攻科](#) | [入試情報](#) | [学生生活](#) | [就職・進学](#) | [教育・研究](#) | [地域・国際連携](#) | [産学官連携](#)

[トップページ](#) » [学校案内](#) » [三つのポリシー](#) »

---

|                                                                                                                                        |                                                                                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>学校案内</b><br>校長挨拶<br>本校の使命と教育目的<br><b>三つのポリシー</b><br>本校の特色<br>沿革<br>学生歌・校章<br>教育・研究施設<br>同窓会<br>JABEE認定プログラム<br>広報誌・パンフレット<br>点検評価活動 | <b>* 三つのポリシー</b><br>本校において、各学科、専攻ごとにディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの三つの方針を定めています。<br>詳しくは以下を参照下さい。 |
|                                                                                                                                        | <b>学科</b><br>機械工学科<br>電気情報工学科<br>都市システム工学科<br>建築学科                                                     |
|                                                                                                                                        | <b>専攻科</b><br>機械・電子システム工学専攻<br>建築・都市システム工学専攻                                                           |

本校は、三つの方針について、4学科に共通したものとしているが、学科ごとに定めていると捉えている。

**\* 三つのポリシー**

~~~~~(略)~~~~~


**ー カリキュラム・ポリシー**

どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める方針  
 一般科目と専門科目を低学年から高学年まで体系的に配置したカリキュラムにより、基礎知識・スキルの修得から創造力・問題解決能力の養成まで一貫した構想の下に教育を行います。

1. 自然・文化・社会に対する理解と専門分野の基礎知識を修得できるよう、自然科学系科目、人文社会系科目および工学分野の専門科目による系統的な学習の機会を提供する。
2. 問題解決のための幅広いスキルを修得できるよう、実験・実習やコミュニケーションに関する実践的な学習の機会を提供する。
3. 協働を通して主体的・能動的に社会に貢献する能力を身に付けられるよう、グループによる学習や継続的に課題に取り組む機会を提供する。
4. 社会の変化に対応できる創造力を身に付けられるよう、基礎的な知識・スキルを活用して主体的・能動的に取り組む総合的な学習の機会を提供する。
5. 学生が学習の過程において自身の達成度を把握できるよう、成績評価方法を記したシラバスを公開する。

~~~~~(以下省略)~~~~~

## 資料名「策定した入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）」

|                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                    |           |  |       |  |         |  |           |  |      |  |            |  |               |  |               |  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|-----------|--|-------|--|---------|--|-----------|--|------|--|------------|--|---------------|--|---------------|--|
|  <b>国立明石工業高等専門学校</b><br><small>National Institute of Technology, Akashi College Japan</small>                | お問い合わせ   交通アクセス・キャンパスマップ   教育・研究施設                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | Japanese   English |           |  |       |  |         |  |           |  |      |  |            |  |               |  |               |  |
|                                                                                                                                                                                               | 教職員公募   受験生の方   学生・保護者の方   地域・企業の方   卒業生の方                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 検索                 |           |  |       |  |         |  |           |  |      |  |            |  |               |  |               |  |
| <a href="#">学校案内</a>   <a href="#">学科・専攻科</a>   <a href="#">入試情報</a>   <a href="#">学生生活</a>   <a href="#">就職・進学</a>   <a href="#">教育・研究</a>   <a href="#">地域・国際連携</a>   <a href="#">産学官連携</a> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                    |           |  |       |  |         |  |           |  |      |  |            |  |               |  |               |  |
| <a href="#">トップページ</a> » <a href="#">学校案内</a> » <a href="#">三つのポリシー</a> »                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                    |           |  |       |  |         |  |           |  |      |  |            |  |               |  |               |  |
| <b>学校案内</b><br>校長挨拶<br>本校の使命と教育目的<br><b>三つのポリシー</b><br>本校の特色<br>沿革<br>学生歌・校章<br>教育・研究施設<br>同窓会<br>JABEE認定プログラム<br>広報誌・パンフレット<br>点検評価活動                                                        | <h2 style="text-align: center;">* 三つのポリシー</h2> <p>本校において、各学科、専攻ごとにディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの三つの方針を定めています。<br/>詳しくは以下を参照下さい。</p> <table border="0"> <tr> <td><b>学科</b></td> <td></td> </tr> <tr> <td>機械工学科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>電気情報工学科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都市システム工学科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>建築学科</td> <td></td> </tr> <tr> <td><b>専攻科</b></td> <td></td> </tr> <tr> <td>機械・電子システム工学専攻</td> <td></td> </tr> <tr> <td>建築・都市システム工学専攻</td> <td></td> </tr> </table> |                    | <b>学科</b> |  | 機械工学科 |  | 電気情報工学科 |  | 都市システム工学科 |  | 建築学科 |  | <b>専攻科</b> |  | 機械・電子システム工学専攻 |  | 建築・都市システム工学専攻 |  |
| <b>学科</b>                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                    |           |  |       |  |         |  |           |  |      |  |            |  |               |  |               |  |
| 機械工学科                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                    |           |  |       |  |         |  |           |  |      |  |            |  |               |  |               |  |
| 電気情報工学科                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                    |           |  |       |  |         |  |           |  |      |  |            |  |               |  |               |  |
| 都市システム工学科                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                    |           |  |       |  |         |  |           |  |      |  |            |  |               |  |               |  |
| 建築学科                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                    |           |  |       |  |         |  |           |  |      |  |            |  |               |  |               |  |
| <b>専攻科</b>                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                    |           |  |       |  |         |  |           |  |      |  |            |  |               |  |               |  |
| 機械・電子システム工学専攻                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                    |           |  |       |  |         |  |           |  |      |  |            |  |               |  |               |  |
| 建築・都市システム工学専攻                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                    |           |  |       |  |         |  |           |  |      |  |            |  |               |  |               |  |

本校は、三つの方針について、4学科に共通したものとしているが、学科ごとに定めていると捉えている。

## \* 三つのポリシー

~~~~~(略)~~~~~

### ー アドミッション・ポリシー (入学生)

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、どのように入学者を受け入れるかを定める方針  
自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。

1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人
2. 総合的な基礎学力を持ち、理数系科目および英語が得意な人
3. さまざまな実験や実習に周囲と協働して取り組める人

選抜方針はこちら

### ー アドミッション・ポリシー (編入学生)

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、どのように入学者を受け入れるかを定める方針  
自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。

1. 数学および英語に関して工学教育を受けるための必要な学力を有する人
2. 専門的基礎学力に優れている人
3. さまざまな実験や実習に周囲と協働して取り組める人

選抜方針はこちら

出典「明石高専ホームページ 学校案内 三つのポリシー」

資料名「策定した入学者の受入れに関する方針（選抜方針の部分）」

## \* 選抜方針

アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れるため、次の基本方針で入学者選抜を行います。

### ●本科入学生

#### ・推薦選抜

中学校等を卒業見込みの者で、学業・人物とも優秀であることにより在籍する中学校等の校長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意であり、さまざまな実験や実習に周囲と協働して主体的に取り組む意欲のある人を選抜します。

#### ・学力選抜


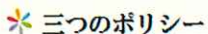
中学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に数学および英語が得意である人を選抜します。

### ●本科編入学生


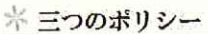
工業高等学校又は、高等学校の工業に関する学科を卒業（見込み含む）した者で、学業・人物とも優秀であることにより出身の高等学校長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に数学、英語、当該学科の専門科目が得意であり、さまざまな実験や実習に周囲と協働して主体的に取り組む意欲のある人を選抜します。

~~~~~(以下省略)~~~~~


資料名「策定した修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」

|                                                                                                                                                                                 |                                               |                                                                                                                                                                                                  |                      |                                               |                       |                         |                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|-----------------------------------------------|-----------------------|-------------------------|-----------------------|
|  <b>国立明石工業高等専門学校</b><br><small>National Institute of Technology, Akashi College, Japan</small> | お問い合わせ   交通アクセス・キャンパスマップ   教育・研究施設<br>  教職員公募 |                                                                                                                                                                                                  |                      | Japanese   English<br><input type="text"/> 検索 |                       |                         |                       |
|                                                                                                                                                                                 | 受験生の方                                         | 学生・保護者の方                                                                                                                                                                                         | 地域・企業の方<br>卒業生の方     |                                               |                       |                         |                       |
| <a href="#">学校案内</a>                                                                                                                                                            | <a href="#">学科・専攻科</a>                        | <a href="#">入試情報</a>                                                                                                                                                                             | <a href="#">学生生活</a> | <a href="#">就職・進学</a>                         | <a href="#">教育・研究</a> | <a href="#">地域・国際連携</a> | <a href="#">産学官連携</a> |
| <a href="#">トップページ</a> » <a href="#">学校案内</a> » <a href="#">三つのポリシー</a> »                                                                                                       |                                               |                                                                                                                                                                                                  |                      |                                               |                       |                         |                       |
| <b>学校案内</b>                                                                                                                                                                     |                                               |  <b>三つのポリシー</b>                                                                                                 |                      |                                               |                       |                         |                       |
| 校長挨拶<br>本校の使命と教育目的<br><b>三つのポリシー</b><br>本校の特色<br>沿革<br>学生歌・校章<br>教育・研究施設<br>同窓会<br>JABEE認定プログラム<br>広報誌・パンフレット<br>点検評価活動                                                         |                                               | 本校において、各学科、専攻ごとにディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの三つの方針を定めています。<br>詳しくは以下を参照下さい。<br><br><b>学科</b><br>機械工学科<br>電気情報工学科<br>都市システム工学科<br>建築学科<br><br><b>専攻科</b><br>機械・電子システム工学専攻<br>建築・都市システム工学専攻 |                      |                                               |                       |                         |                       |

本校は、三つの方針について、2専攻に共通したものとしているが、専攻ごとに定めていると捉えている。

|                                                                                                                                                                                                         |  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|                                                                                                                     |  |
| さらに高度な教育・研究の2年間のカリキュラム                                                                                                                                                                                  |  |
| <a href="#">トップページ</a> » <a href="#">専攻科</a> » <a href="#">三つのポリシー</a> »                                                                                                                                |  |
| <b>専攻科</b><br>Advanced Course                                                                                                                                                                           |  |
|  <b>三つのポリシー</b>                                                                                                      |  |
| <b>ディプロマ・ポリシー</b><br>どのような力を身につけた者に修了を認定するのかを定める方針<br>次に示すような素養を身につけ、学業成績の評価等に関する規程を満たした学生に修了を認定します。                                                                                                    |  |
| 1. 自然・文化・社会について広く理解し、複数の専門分野に対する基礎知識を修得している。<br>2. 工学的な様々な問題に対して、専門的スキルや汎用的スキルを用いて自ら目標を設定し、それらを解決することができる。<br>3. 協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・能動的に行動できる。<br>4. 多様化する社会を俯瞰的に把握し、創造的に思考できる。 |  |
| ~~~~~(以下省略)~~~~~                                                                                                                                                                                        |  |

資料名「策定した教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」



**国立明石工業高等専門学校**  
National Institute of Technology, Azashi College, Japan

お問い合わせ | 交通アクセス・キャンパスマップ | 教育・研究施設

教職員公募 | **受験生の方** | 学生・保護者の方 | 地域・企業の方 |  検索

卒業生の方

Japanese | English

---

学校案内
学科・専攻科
入試情報
学生生活
就職・進学
教育・研究
地域・国際連携
産学官連携

トップページ » 学校案内 » 三つのポリシー »

学校案内

校長挨拶

本校の使命と教育目的

**三つのポリシー**

本校の特色

沿革

学生歌・校章

教育・研究施設

同窓会

JABEE認定プログラム

広報誌・パンフレット

点検評価活動

### \* 三つのポリシー

本校において、各学科、専攻ごとにディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの三つの方針を定めています。詳しくは以下を参照下さい。

|                                                                           |                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| <p><b>学科</b></p> <p>機械工学科</p> <p>電気情報工学科</p> <p>都市システム工学科</p> <p>建築学科</p> | <p><b>専攻科</b></p> <p>機械・電子システム工学専攻</p> <p>建築・都市システム工学専攻</p> |
|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|

本校は、三つの方針について、2専攻に共通したものとしているが、専攻ごとに定めていると捉えている。

**専攻科**  
Advanced Course

さらに高度な教育・研究の2年間のカリキュラム

---

トップページ » 専攻科 » 三つのポリシー »

専攻科案内

### \* 三つのポリシー

~~~~~(略)~~~~~

#### - カリキュラム・ポリシー

どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める方針


一般教養科目、専門共通科目および専門展開科目を体系的に配置したカリキュラムにより、基礎知識・スキルの修得から創造力・問題解決能力の養成まで一貫した構想の下に教育を行います。

1. 自然・文化・社会に対する理解と専門分野の基礎知識を幅広く修得し、国際的に活躍できるように自然科学系科目、人文社会系科目および複数の工学分野の専門科目による系統的な学習の機会を提供する。
2. 問題解決のための幅広いスキルを修得できるよう、実験・実習やコミュニケーションに関する実践的な学習および学外における社会学習の機会を提供する。
3. 協働を通して主体的・能動的に社会に貢献する能力を身に付けられるよう、グループによる学習や継続的に課題に取り組む機会を提供する。
4. 社会の変化に対応できる創造力を身に付けられるよう、基礎的な知識・スキルを活用して主体的・能動的に取り組む総合的な学習の機会を提供する。
5. 学生が学習の各段階で自身の達成度を把握できるよう、成績評価は複合的に行うことを原則とし、その方法を記したシラバスを公開する。

~~~~~(以下省略)~~~~~

出典「明石高専ホームページ 専攻科 三つのポリシー」

## 資料名「策定した入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）」

|                                                                                                                                                                  |        |                 |          |                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-----------------|----------|--------------------|
|  <b>国立明石工業高等専門学校</b><br>National Institute of Technology, Akashi College, Japan | お問い合わせ | 交通アクセス・キャンパスマップ | 教育・研究施設  | Japanese   English |
|                                                                                                                                                                  | 教職員公募  | 受験生の方           | 学生・保護者の方 | 地域・企業の方            |
|                                                                                                                                                                  |        |                 | 卒業生の方    |                    |

---

[学校案内](#) | [学科・専攻科](#) | [入試情報](#) | [学生生活](#) | [就職・進学](#) | [教育・研究](#) | [地域・国際連携](#) | [産学官連携](#)

[トップページ](#) » [学校案内](#) » [三つのポリシー](#) »

**学校案内** \* [三つのポリシー](#)

|                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>校長挨拶</p> <p>本校の使命と教育目的</p> <p><b>三つのポリシー</b></p> <p>本校の特色</p> <p>沿革</p> <p>学生歌・校章</p> <p>教育・研究施設</p> <p>同窓会</p> <p>JABEE認定プログラム</p> <p>広報誌・パンフレット</p> <p>点検評価活動</p> | <p>本校において、各学科、専攻ごとにディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの三つの方針を定めています。</p> <p>詳しくは以下を参照下さい。</p> <p><b>学科</b></p> <p>機械工学科</p> <p>電気情報工学科</p> <p>都市システム工学科</p> <p>建築学科</p> <p><b>専攻科</b></p> <p>機械・電子システム工学専攻</p> <p>建築・都市システム工学専攻</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

本校は、三つの方針について、2専攻に共通したものとしているが、専攻ごとに定めていると捉えている。

**専攻科**  
Advanced Course

さらに高度な教育・研究の2年間のカリキュラム

[トップページ](#) » [専攻科](#) » [三つのポリシー](#) »

**専攻科案内** \* [三つのポリシー](#)

~~~~~(略)~~~~~

**ーアドミッション・ポリシー**

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、どのように入学者を受け入れるかを定める方針  
自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。

1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人
2. 総合的な基礎学力および専門分野の基礎能力を身に付けている人
3. 自己の専門分野以外も学習する意欲があり、自然や社会との共生に関心のある人

[選抜方針はこちら](#)

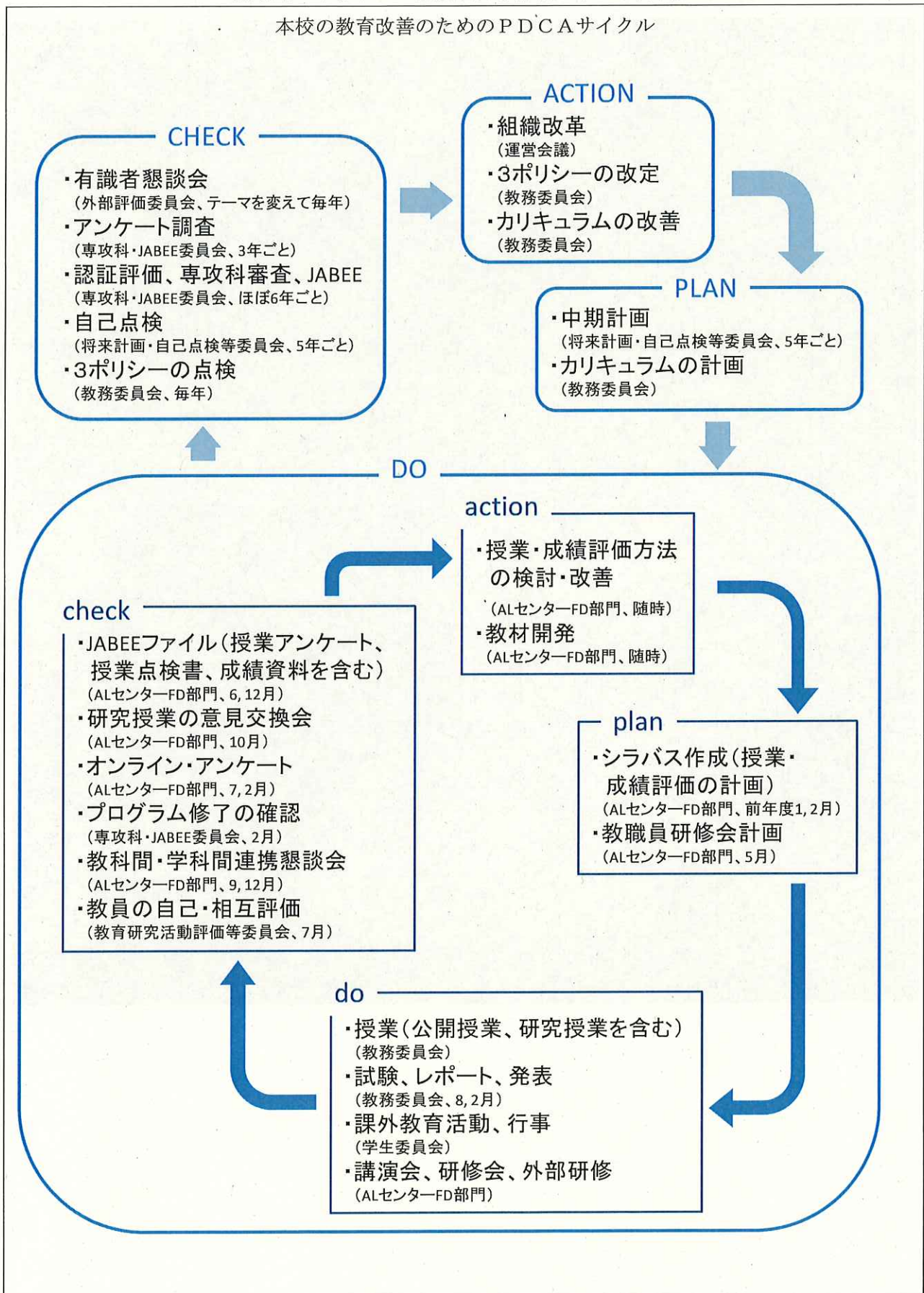
## 資料名「策定した入学者の受入れに関する方針（選抜方針の部分）」

| 専攻科<br>Advanced Course  |   |
|---|---|
|   | さらに高度な教育・研究の2年間のカリキュラム  |
| トップページ » 専攻科 » 三つのポリシー » 選抜方針 »   |   |
| 専攻科案内<br>新着情報一覧<br>カリキュラム<br>三つのポリシー<br><b>選抜方針</b><br>学習・教育到達目標<br>専攻科研究年報<br>修了後の進路 | <h3>* 選抜方針</h3> <p>アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れるため、次の基本方針で入学者選抜を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●本科入学生             <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦選抜                 <p>中学校等を卒業見込みの者で、学業・人物とも優秀であることにより在籍する中学校等の校長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意であり、さまざまな実験や実習に周囲と協働して主体的に取り組む意欲のある人を選抜します。</p> </li> <li>・学力選抜                 <p>中学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に数学および英語が得意である人を選抜します。</p> </li> </ul> </li> <li>●本科編入学生             <p>工業高等学校又は、高等学校の工業に関する学科を卒業（見込み含む）した者で、学業・人物とも優秀であることにより出身の高等学校長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に数学、英語、当該学科の専門科目が得意であり、さまざまな実験や実習に周囲と協働して主体的に取り組む意欲のある人を選抜します。</p> </li> </ul> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>●専攻科入学生                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦選抜：学校長推薦                     <p>高等専門学校を卒業（見込み含む）した者で、学業・人物とも優秀であることにより出身の高等専門学校長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、自己の専門分野以外も学習する意欲を持ち、自然や社会との共生に関心のある人を選抜します。</p> </li> <li>・推薦選抜：社会人特別推薦                     <p>高等専門学校を卒業し、企業等に在職する者で、勤務成績・人物とも優秀であることにより所属企業等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、自己の専門分野以外も学習する意欲を持ち、自然や社会との共生に関心のある人を選抜します。</p> </li> <li>・学力選抜                     <p>高等専門学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、特に数学、英語、当該専攻の専門科目が得意である人を選抜します。</p> </li> </ul> </li> </ul> </div> |



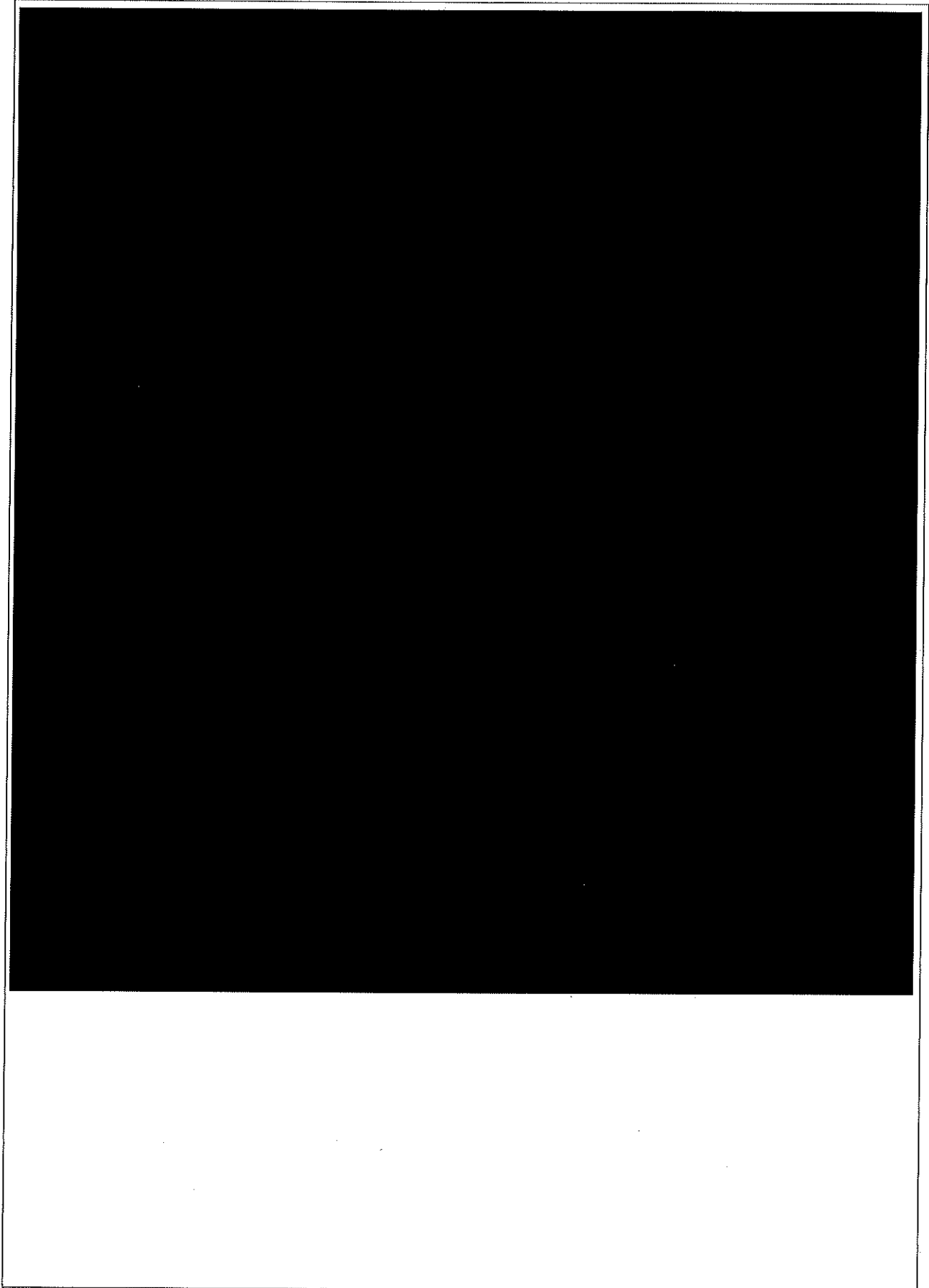
資料名「ポリシーの点検を行う体制がわかる資料」

本校の教育改善のためのPDCAサイクル



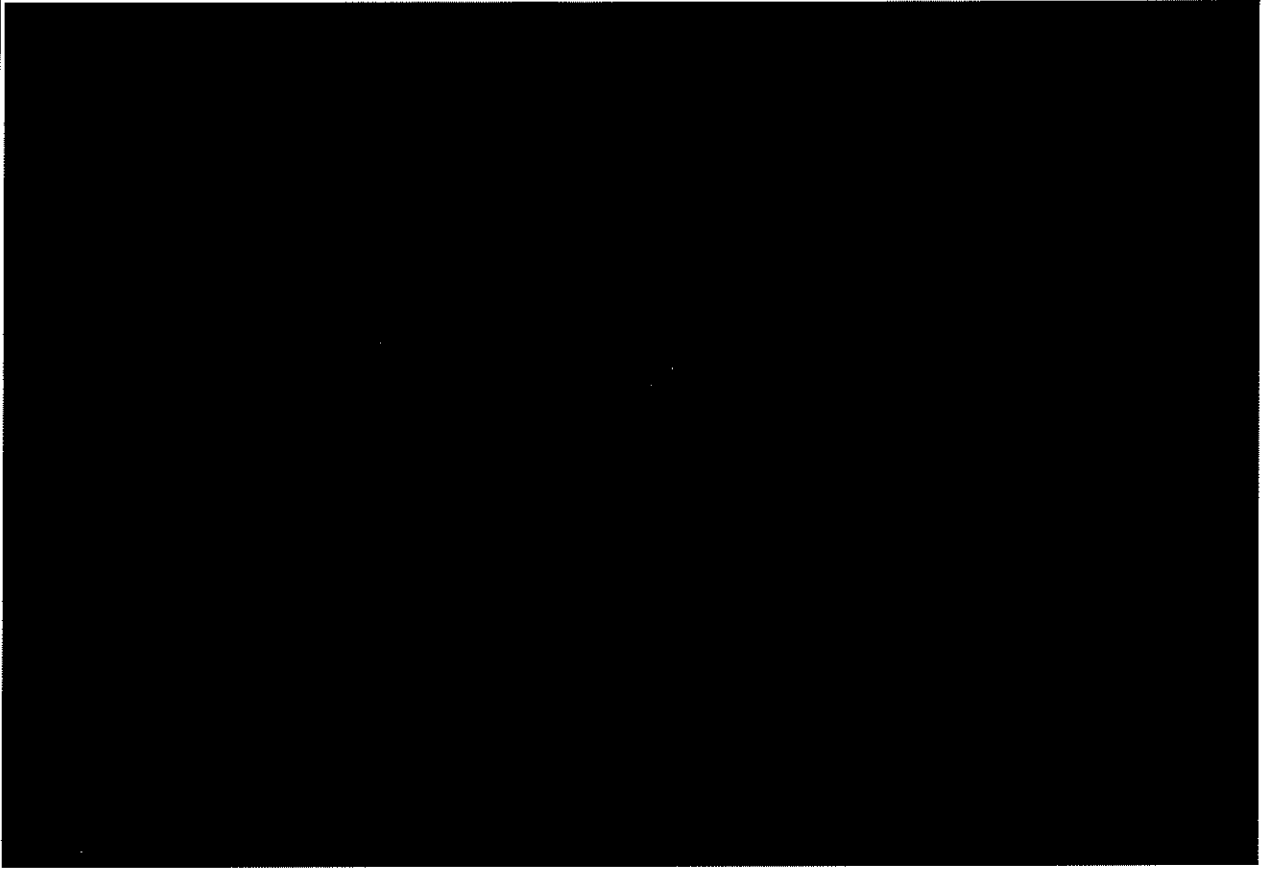
出典「平成29年度第10回企画会議資料」

資料名「ポリシー一点検の実態が分かる議事録（教務委員会）」（1/1）



出典「教務委員会議事録 平成 29 年度・第 11 回」

資料名「ポリシー点検の実態が分かる議事録（運営会議）」（1/1）



~~~~~（以下省略）~~~~~

出典「運営会議議事録 平成 29 年度・第 10 回」

